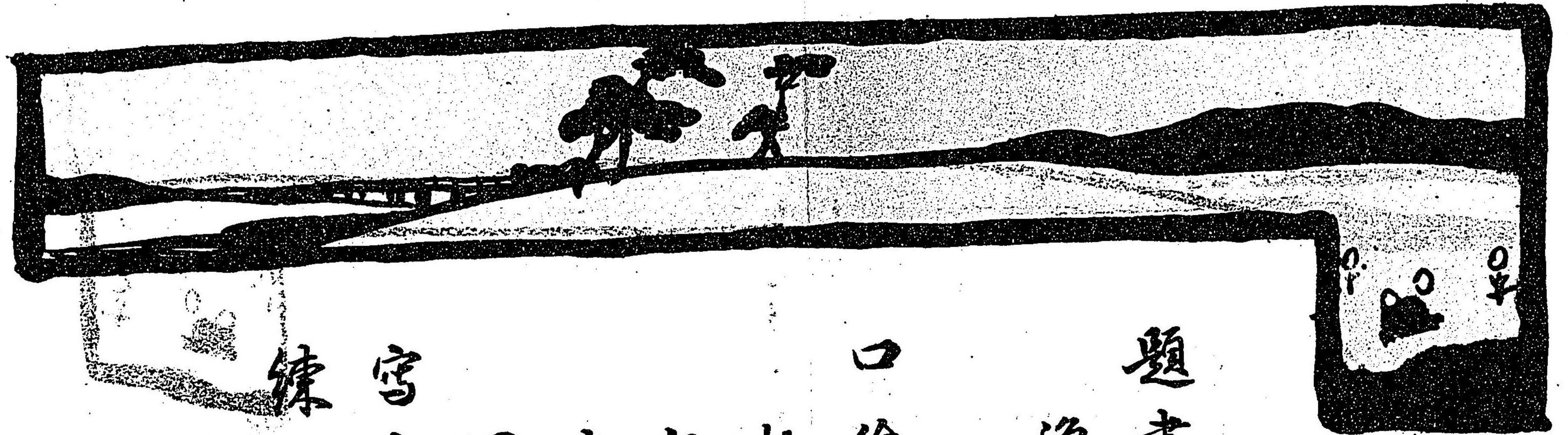


206

466



題畫

漁村の月

寺崎廣業

口繪

牡丹

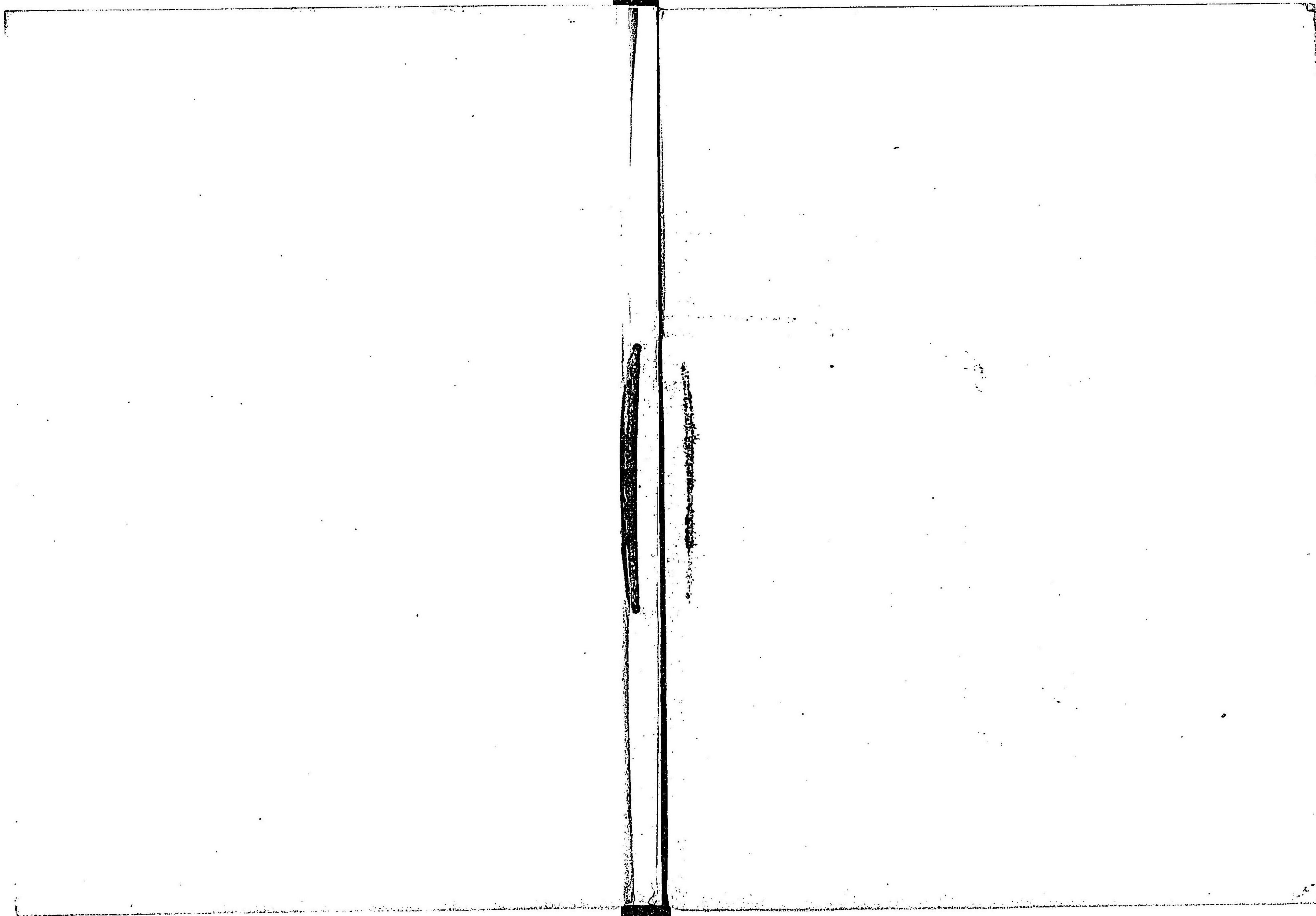
社頭の松

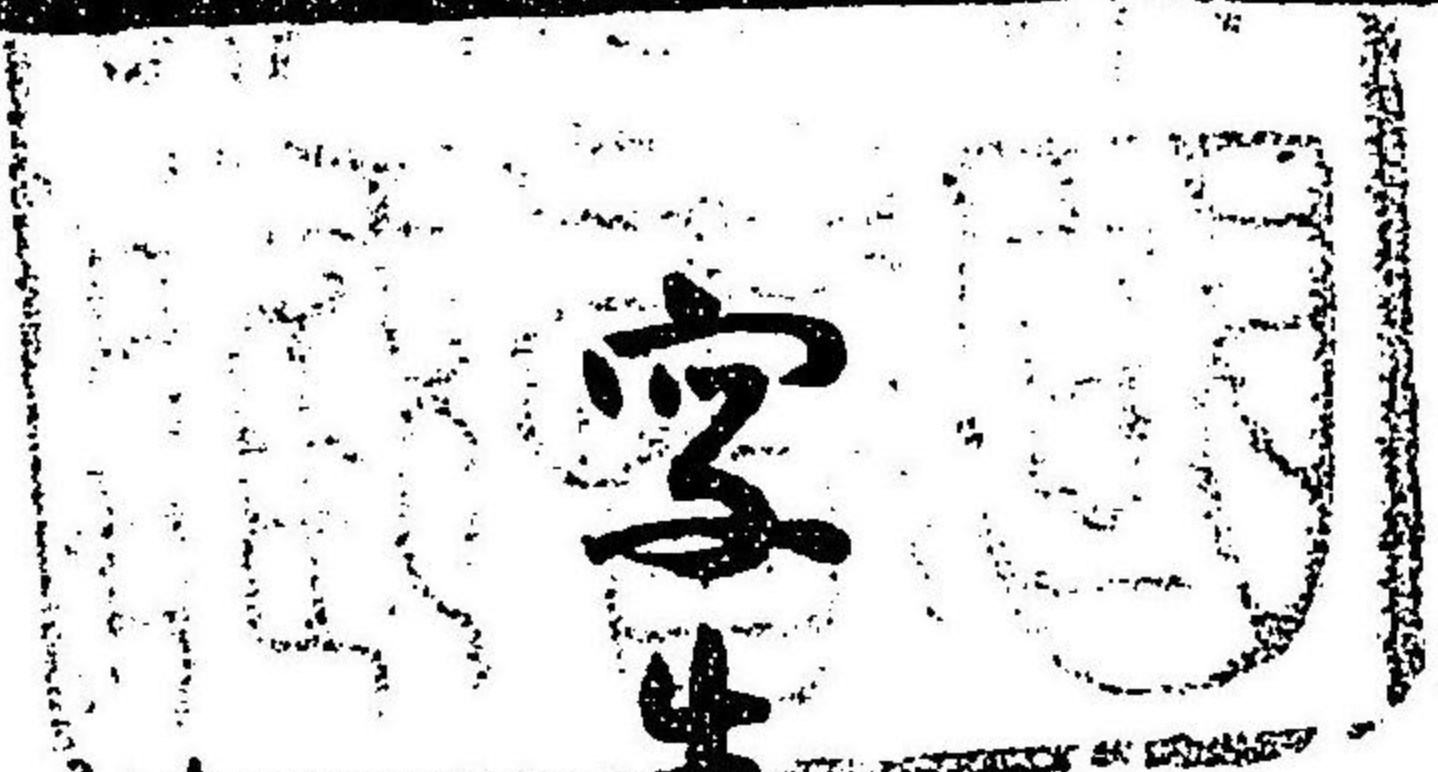
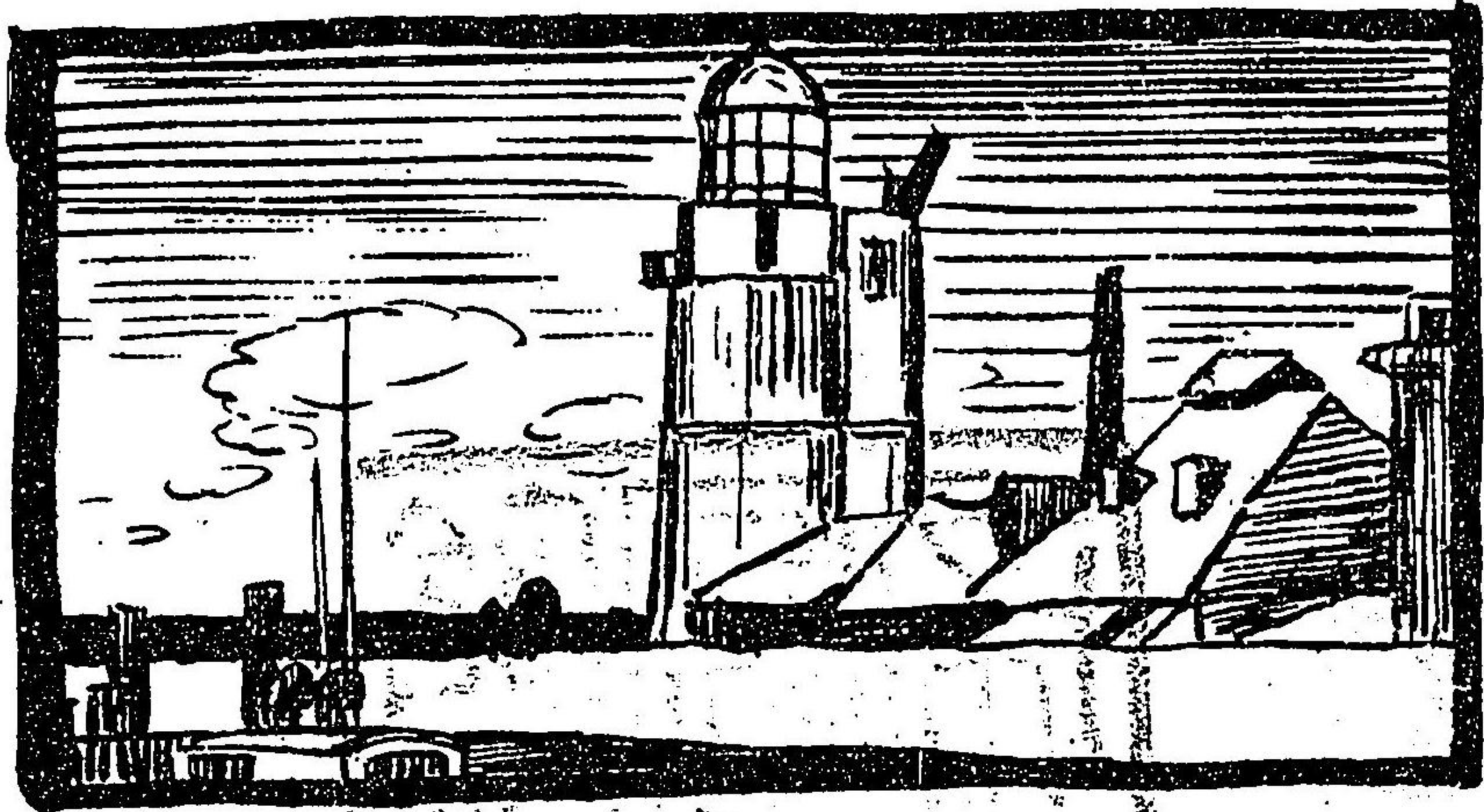
堂

田舎の町

寫生の心得

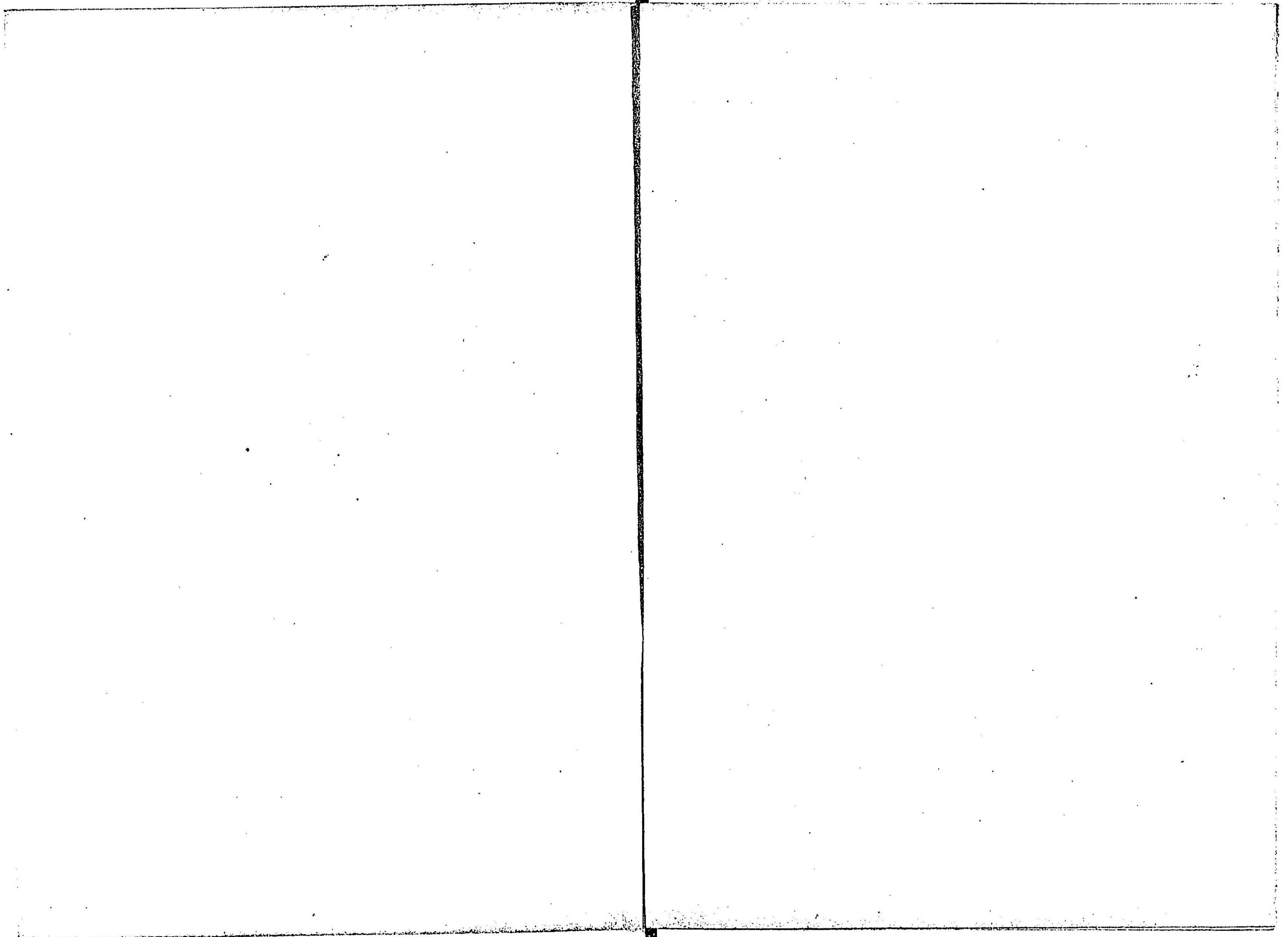
練習畫

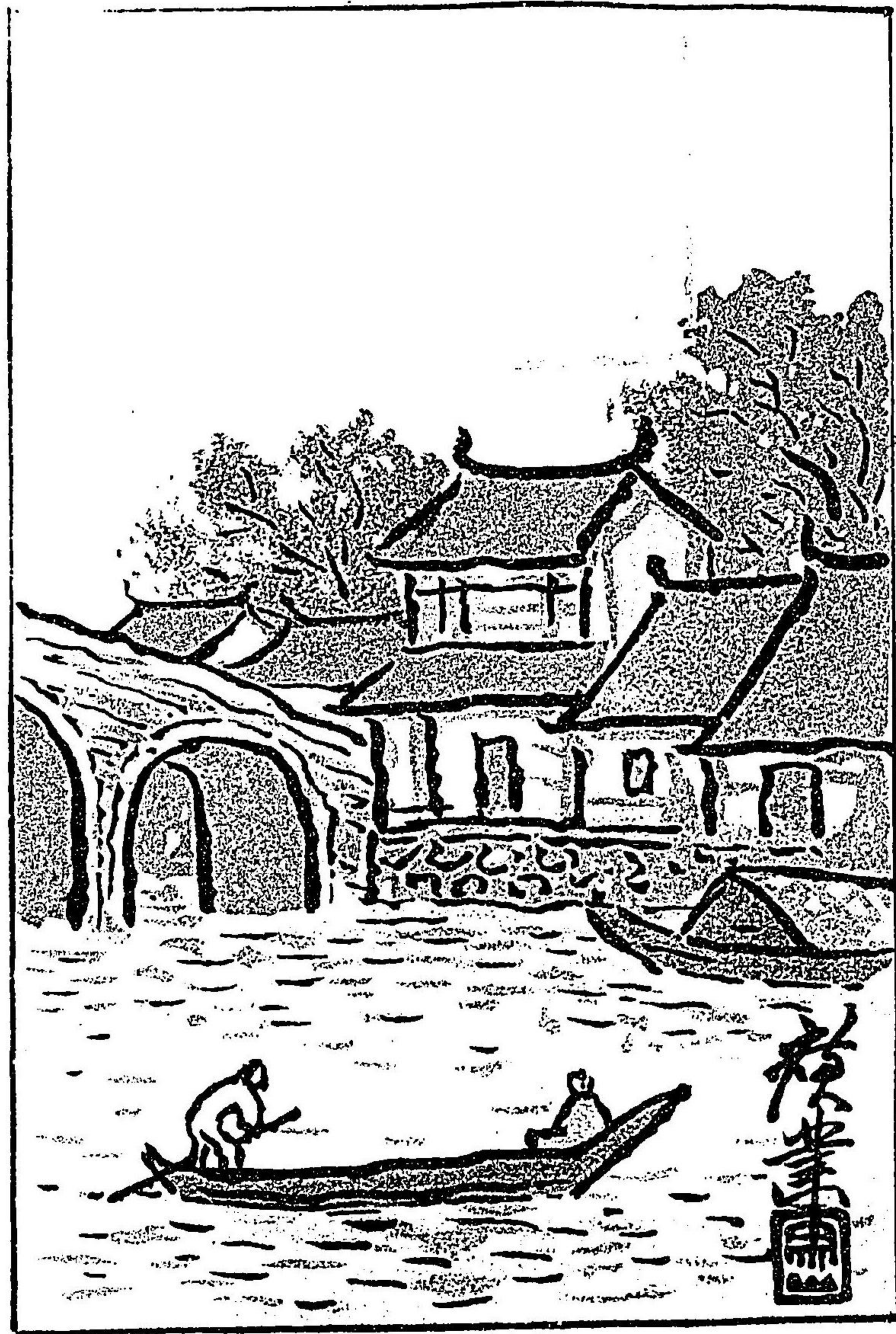




東京の住人
某の集

明治
44. 9. 22
東京



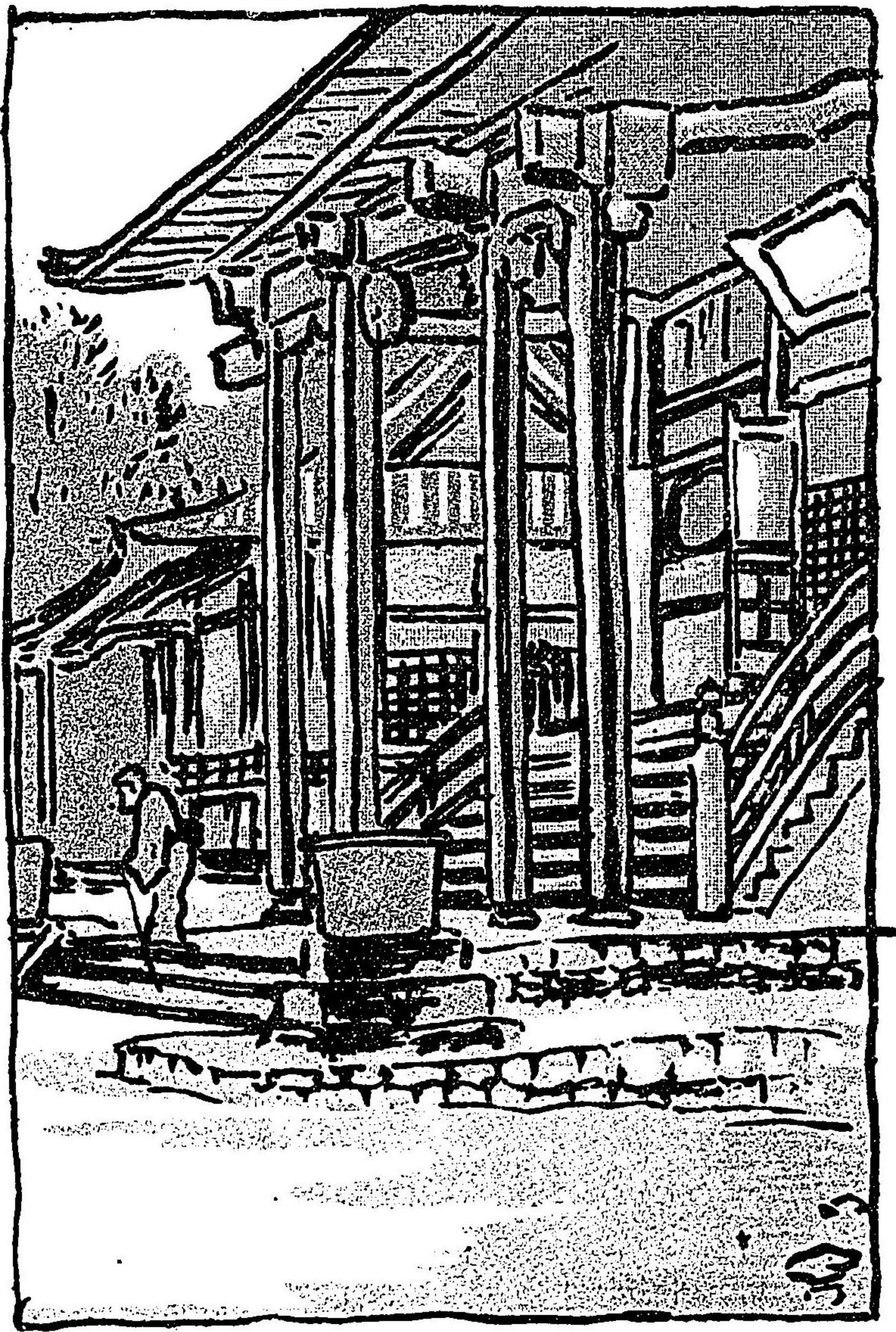


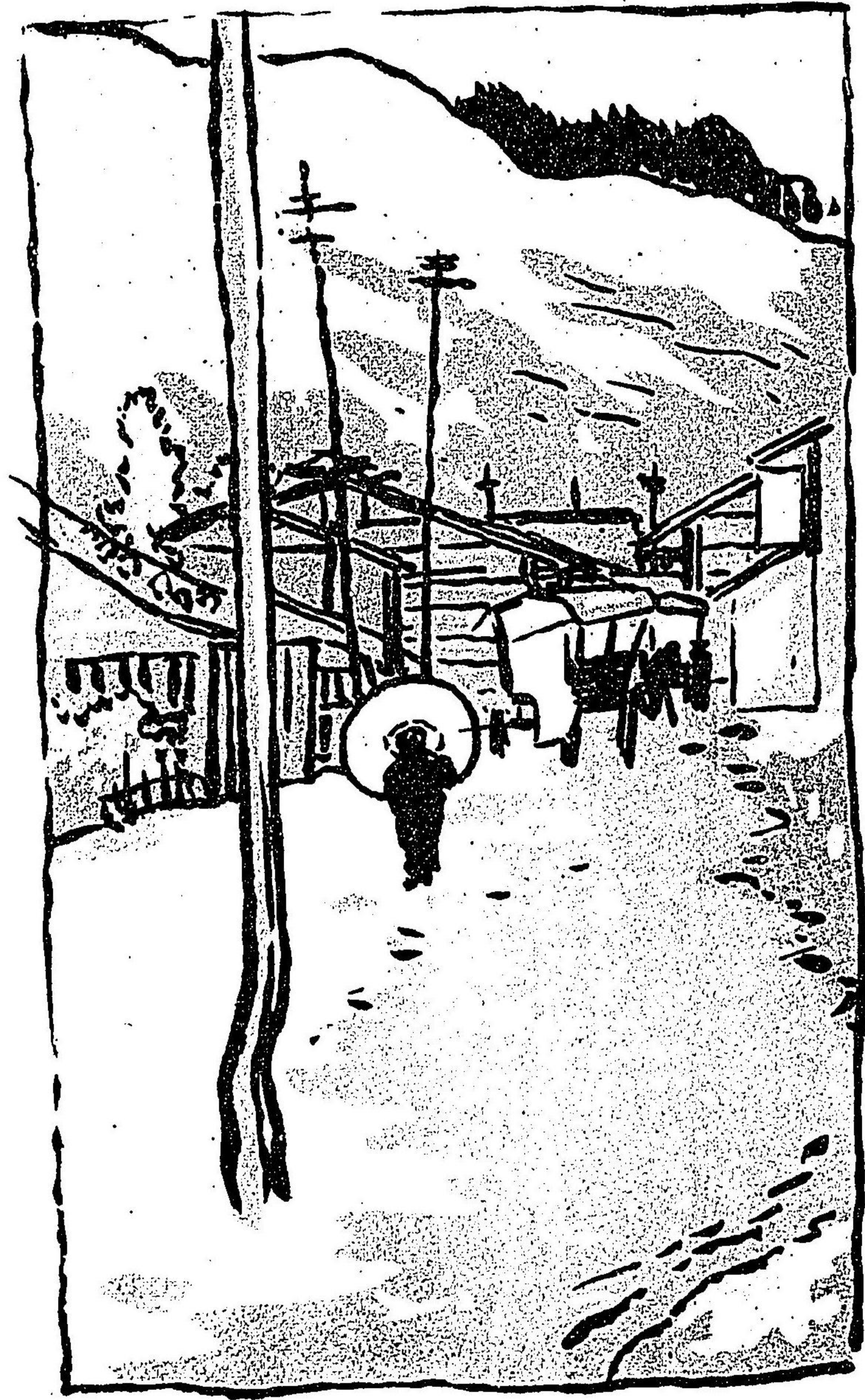
新業園











寫生の仕方

伊藤龍涯編

寫生のしかた 第二輯

寫生と云へは只た觀たその儘を紙に書き現はすだけの事なれどしかし畫といふ者の第一の要素は實物

である實物を全く離れては畫は存在しないと言つてもよいされば寫生は畫の最要の素地であつて殊に未だ畫筆を持たぬ人にしても案外に面白き繪畫を書き得るのは自然の寫生である。

で寫生に就ての普通なる心得は一集に於てその大畧を説明し置ける

位置の選み方と主眼の極め方とそれから形の撮り方とであるが尙一つ觀る距離を定めるのも最も必要である或る物體を頗る精密に撮らんとせば勢いずつと近よりて觀なければ分明でない。

しかし自己の一目に視得る範圍は限りのある者であるから物體に近

つけば近づく程形ちの全體は見難くなる者である則ちある視界以上に近寄て寫すと自然不正確なる形狀を採り得るのは免かれ難いのである故に花であれ風景であれその寫す可き畫面の大きさと實物の大きさを比較して大概一目に觀得る程度に距離を定めると頗る撮り易い

ものである人物または動物などの活動せる者の姿勢を撮らんとするには殊に遠き距離より角度を以て急速に形ちを寫す必要がある。また花にしてもその一輪を寫生するには机上に置ても正確に寫すことを得るが一鉢の全體を寫さんとするにはその四倍乃至六倍位の場

所を距てる方都合よき者である、要するに全體を寫すには距離はなるべく遠く部分を観るには近くすれば観る形狀に狂いを生ずる事が少ないものである。寫生を練習するには最も簡易なるは靜物すなはち机上に置ける花または種々の器物杯でこれ等は充分

に形ちを撮る暇がある故に初季の練習には適當である風景は主眼の定め方と見る場所の撰擇とに注意を要するそれから風を受けたる草木及び鳥動物の如き活動せる者を寫生してその趣を撮らんとするには最初にある形ちを觀てその概略を急速に角度で定め置きて暫らく

見る間に程なく再びその形ちをす
 る者であるからその時々にも多少づ
 つ輪廓を訂正して行けばこゝに完
 全なる形ちを描く事が出来るしか
 してその後には細部分の寫生をする
 のである(練習畫雜の圖参照)活動せ
 る人物も右と同じ方法で差支はな
 いがたゞ人物は同じ單純なる形狀

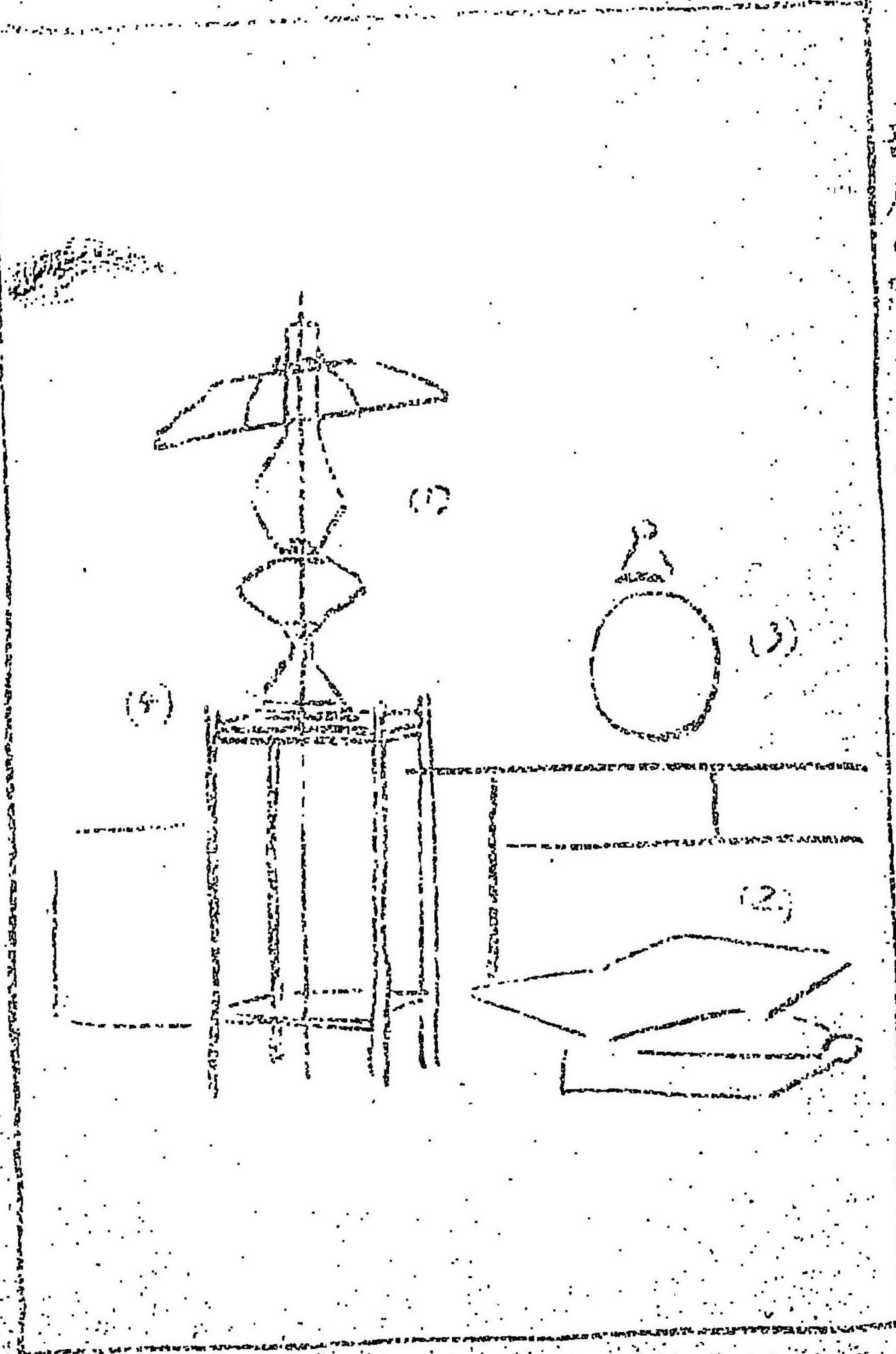
を繰り返す者でないから最初に全
 體を撮つてしまはねばならぬこれ
 が變化多き人物の寫生の六かしき
 所であつてまた頗る趣味ある所ろ
 である従つて角度も大いに練習す
 る必要がある。
 以上は形ちを撮る上に就ての心得
 で此れ以外の事は既に一集に説明

せる所なれば敢て反覆して絮説する必要はあるまい要するに寫生は技術であるからして素より法則に拘束さる可き者でない見た儘の自然を捉へて自由自在に畫面に採集ししかして一枚でも多く練習の功を積んで天然の印象を完全に現はすのは最も愉快なる娛樂であらう

と思はれる。

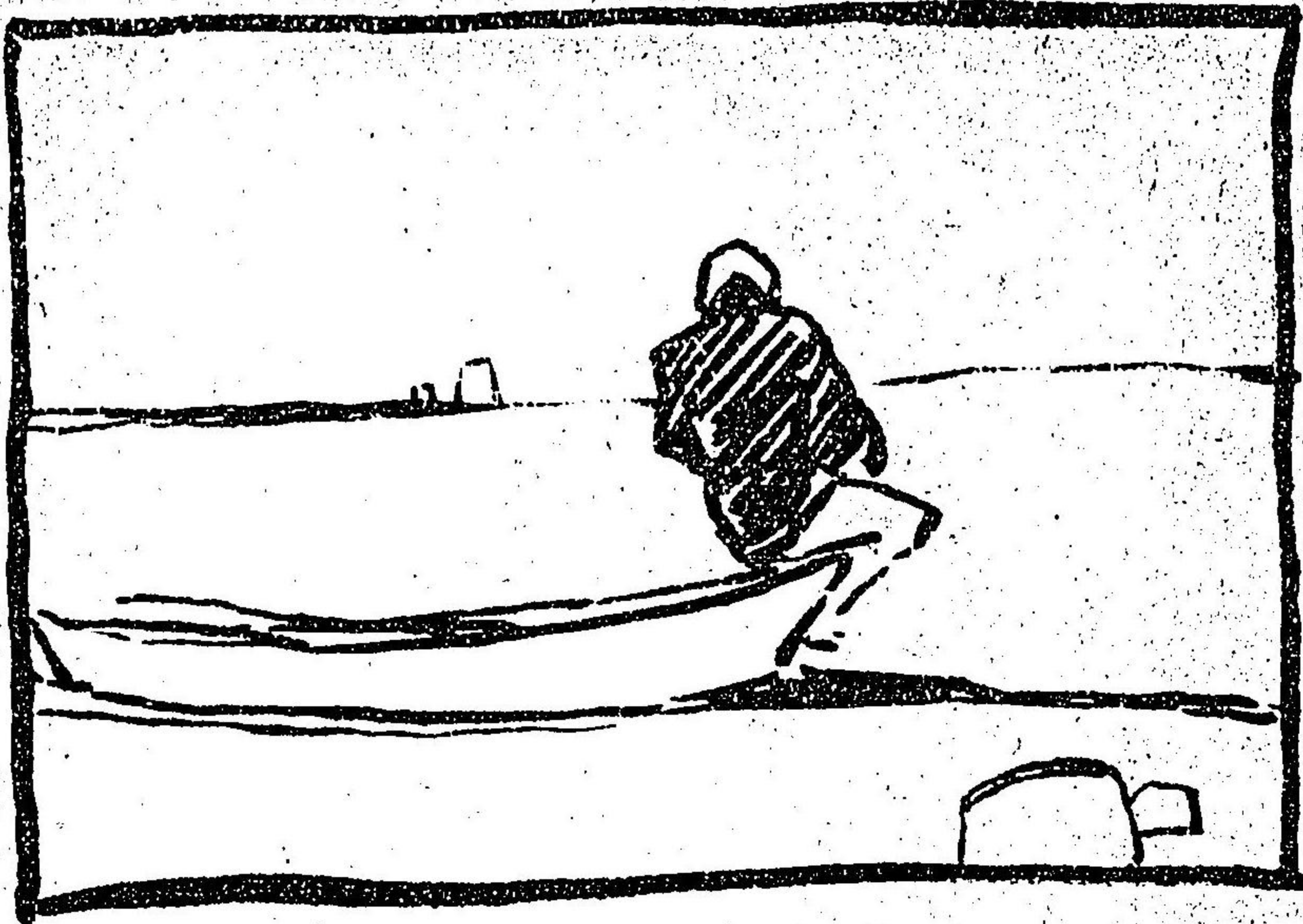
人物の練習畫は前集に多かりしが故に本集にありてはその以外の花鳥風景等の練習に資せんか爲に題材に就て注意を加へたりしかして寫生の彩色に就ては他日稿を更めて諸氏に供するの時あらんかな。

部屋の間

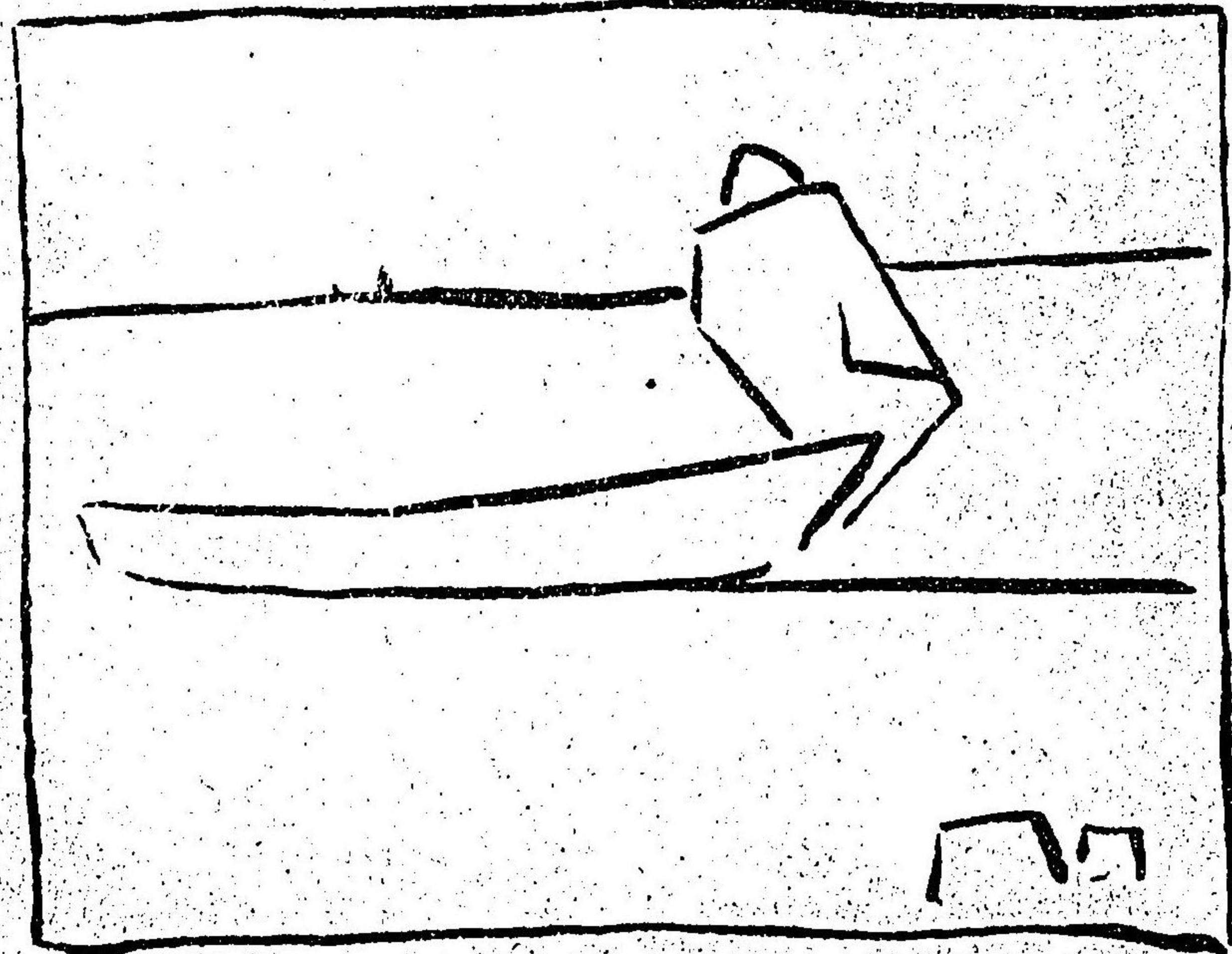


四十四年秋の初めに

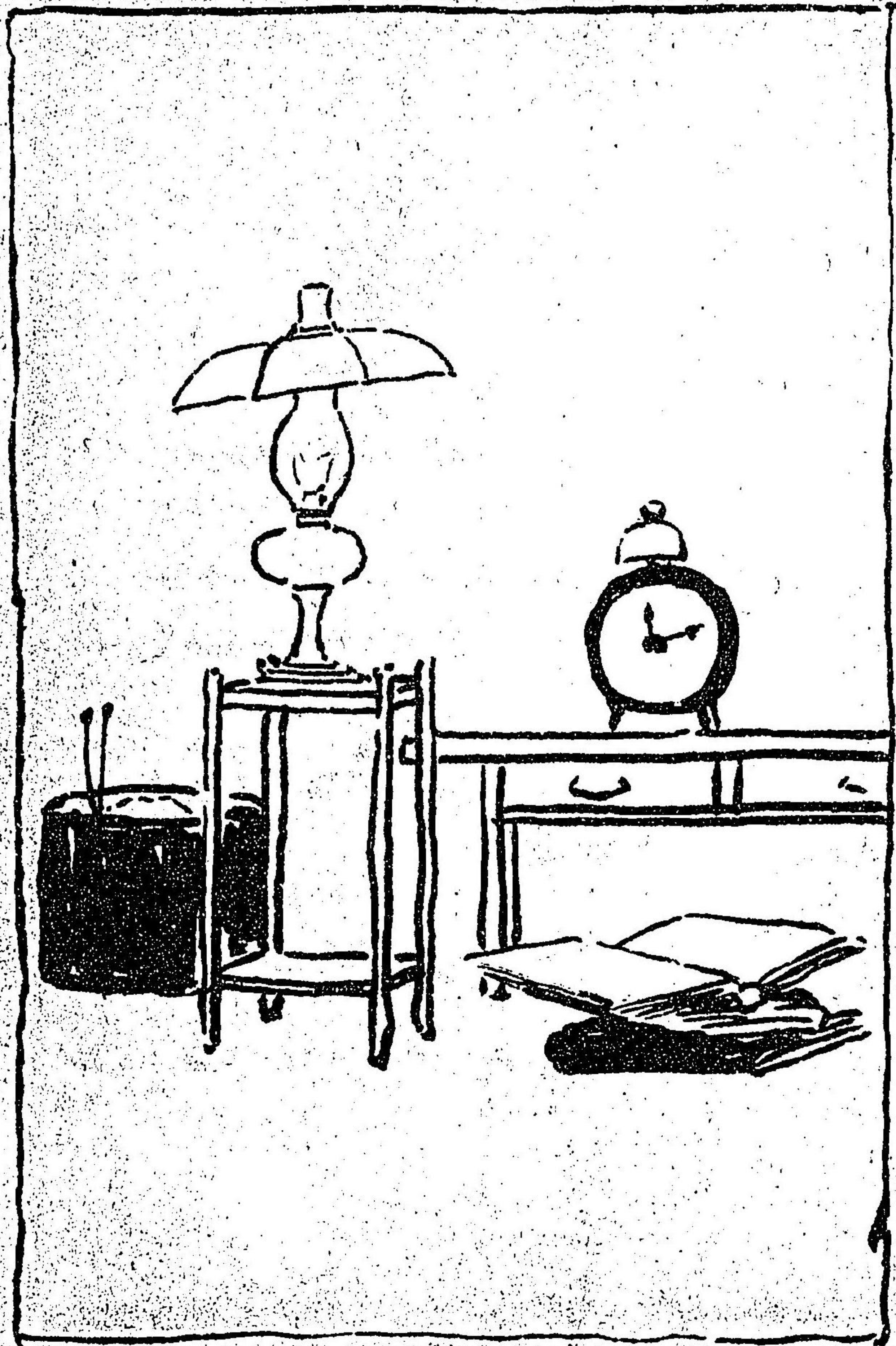
伊藤龍涯識るす



汐干



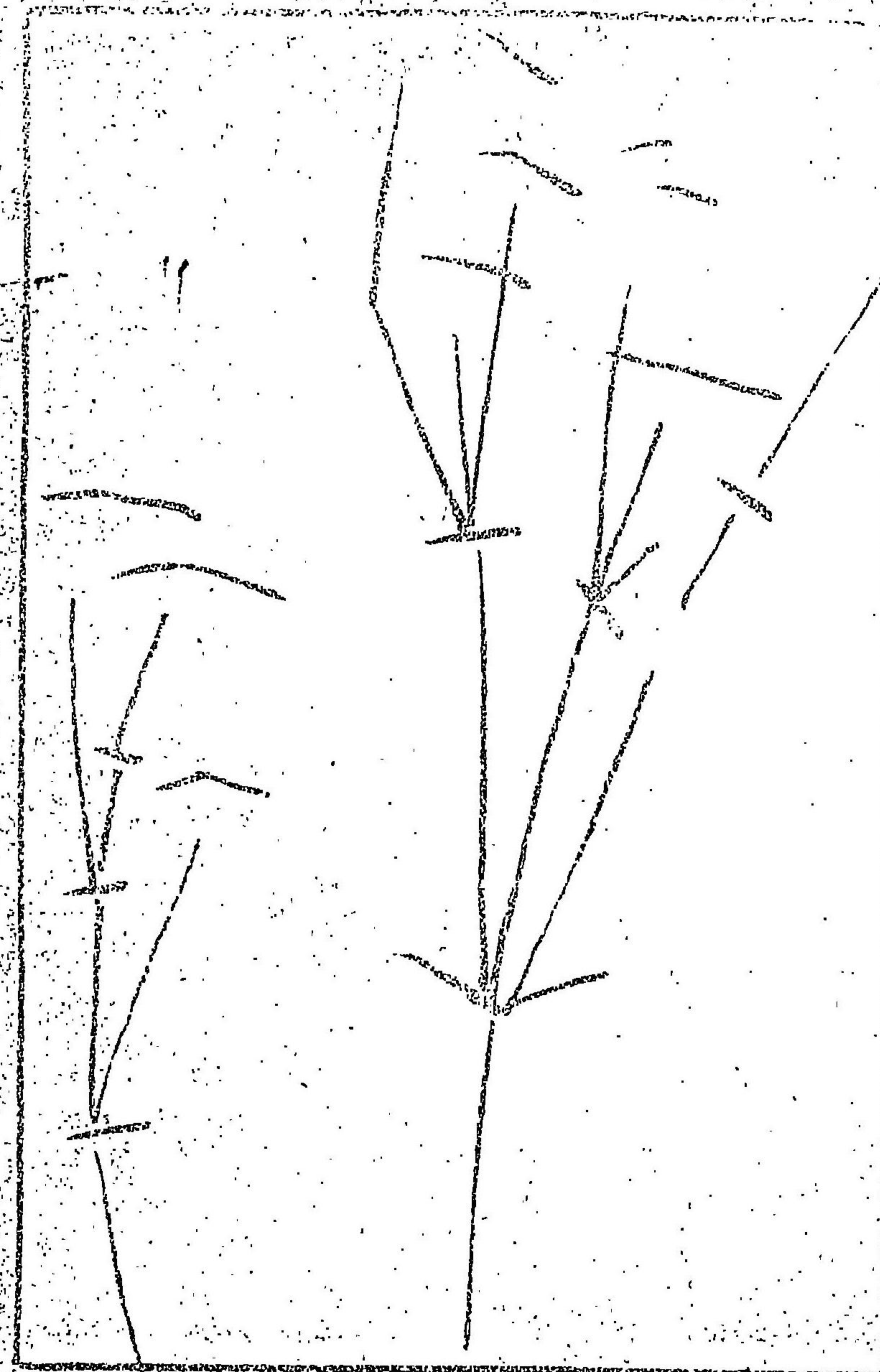
同スチッチ



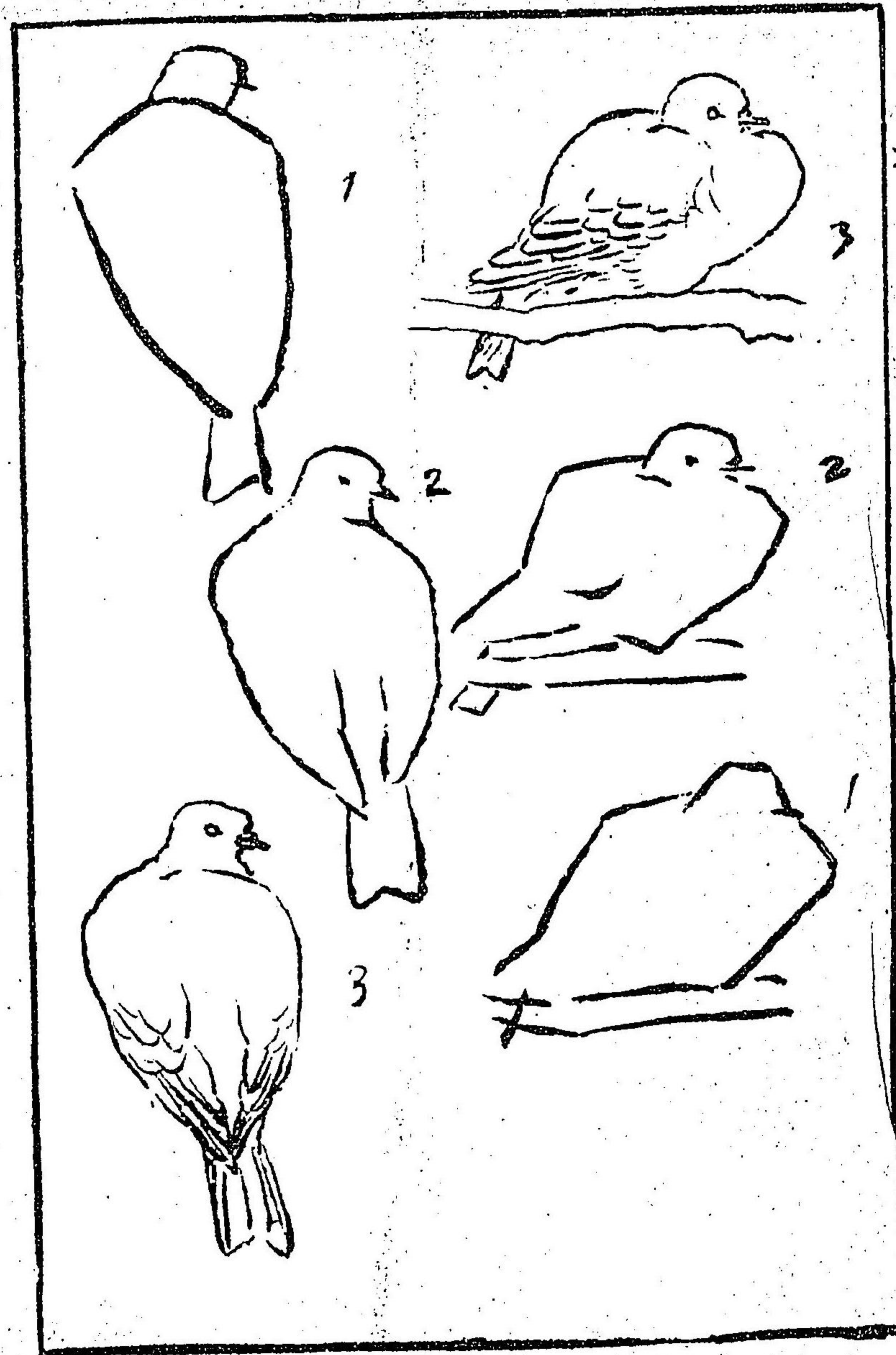
部屋の隅



藤袴スゲツ子の二



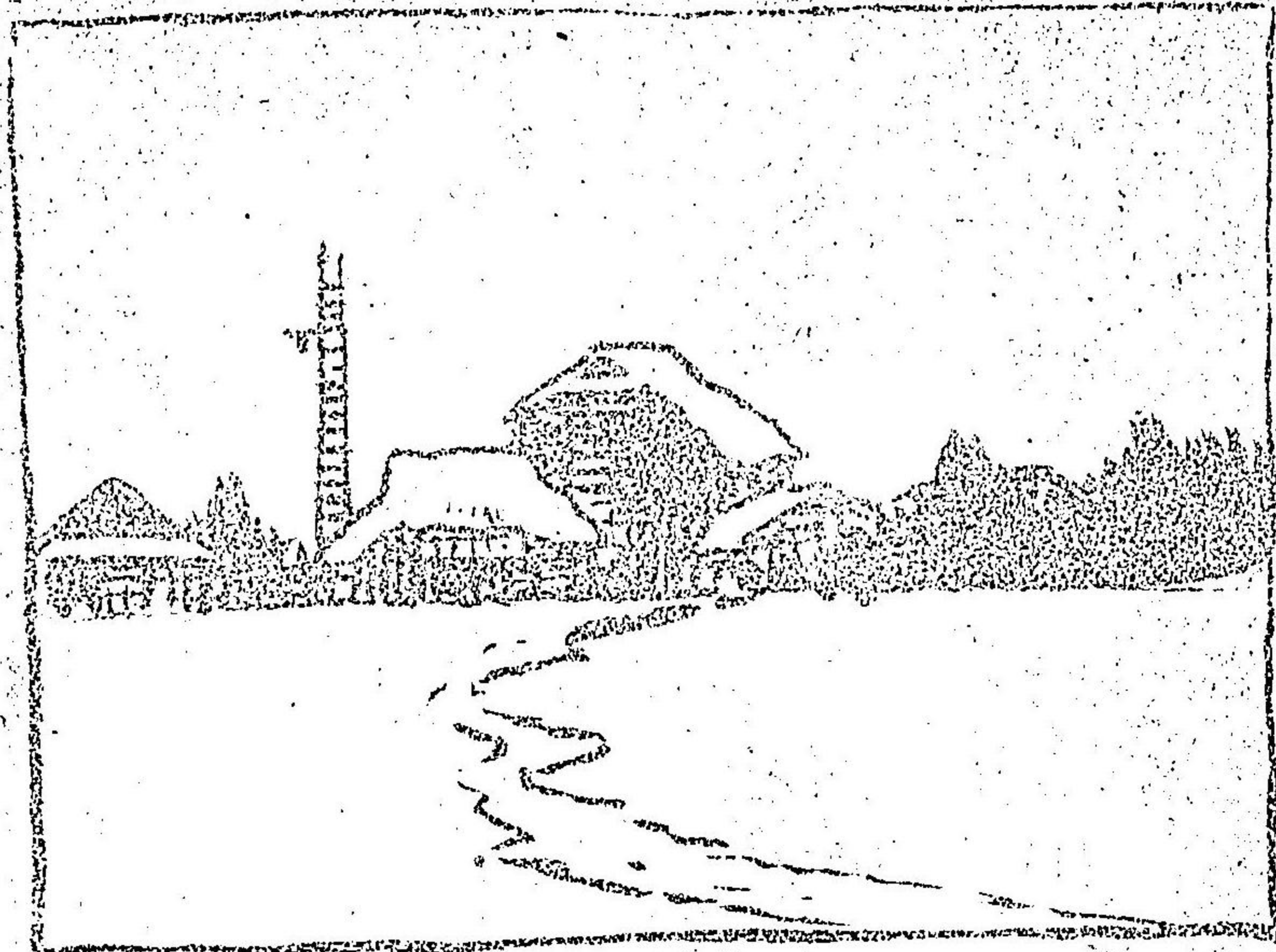
藤袴スゲツ子の一



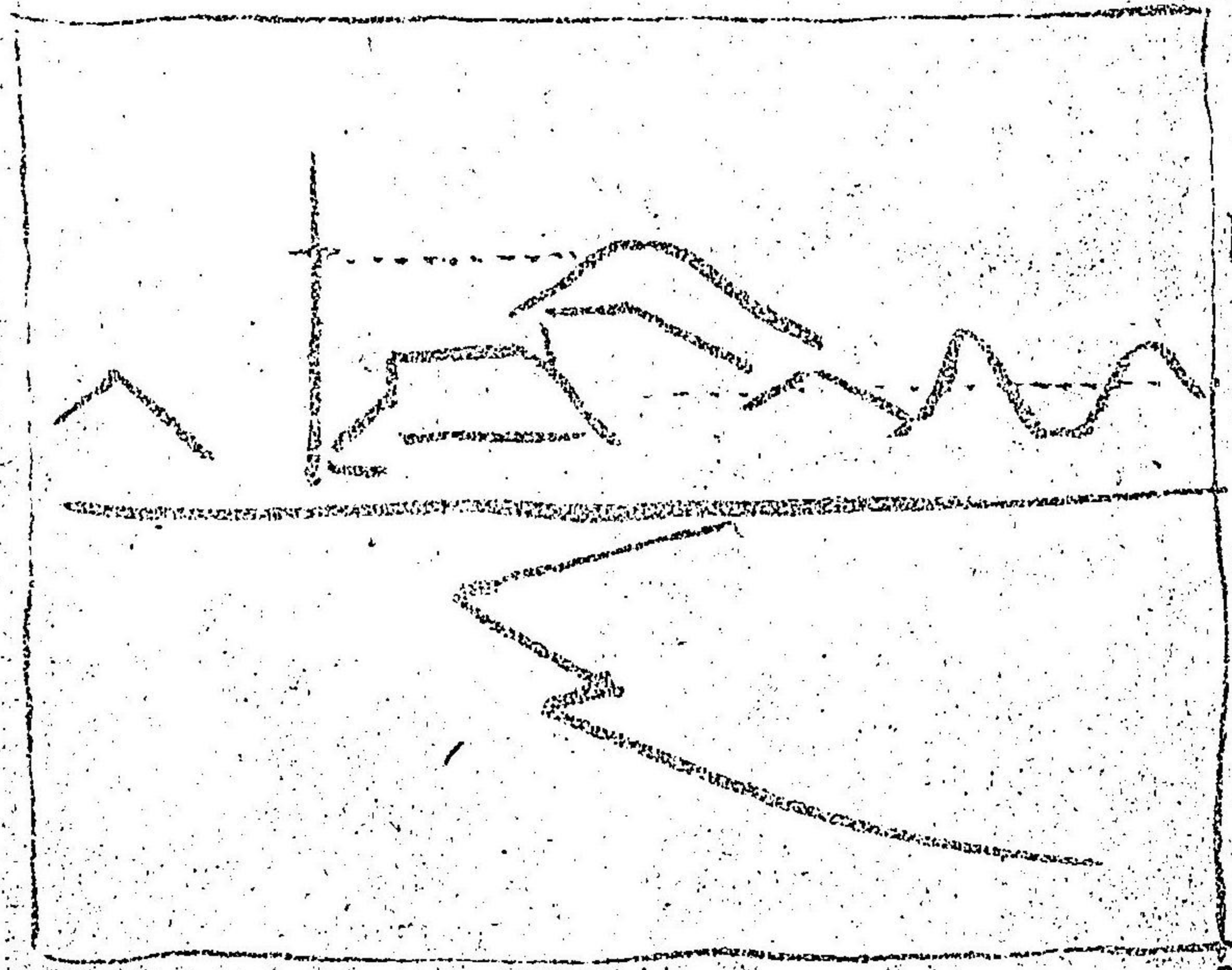
鳩
スケツキ



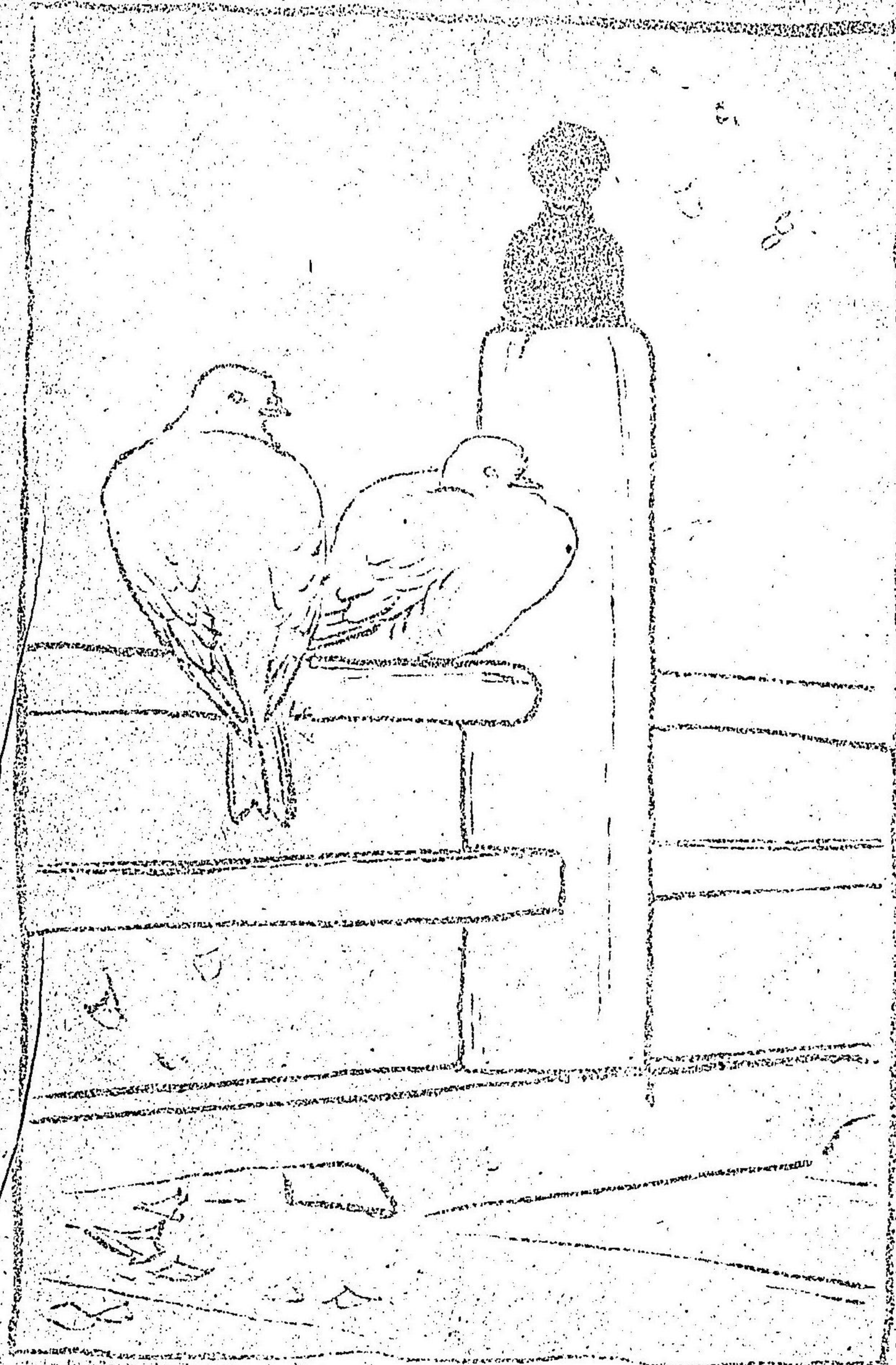
藤袴



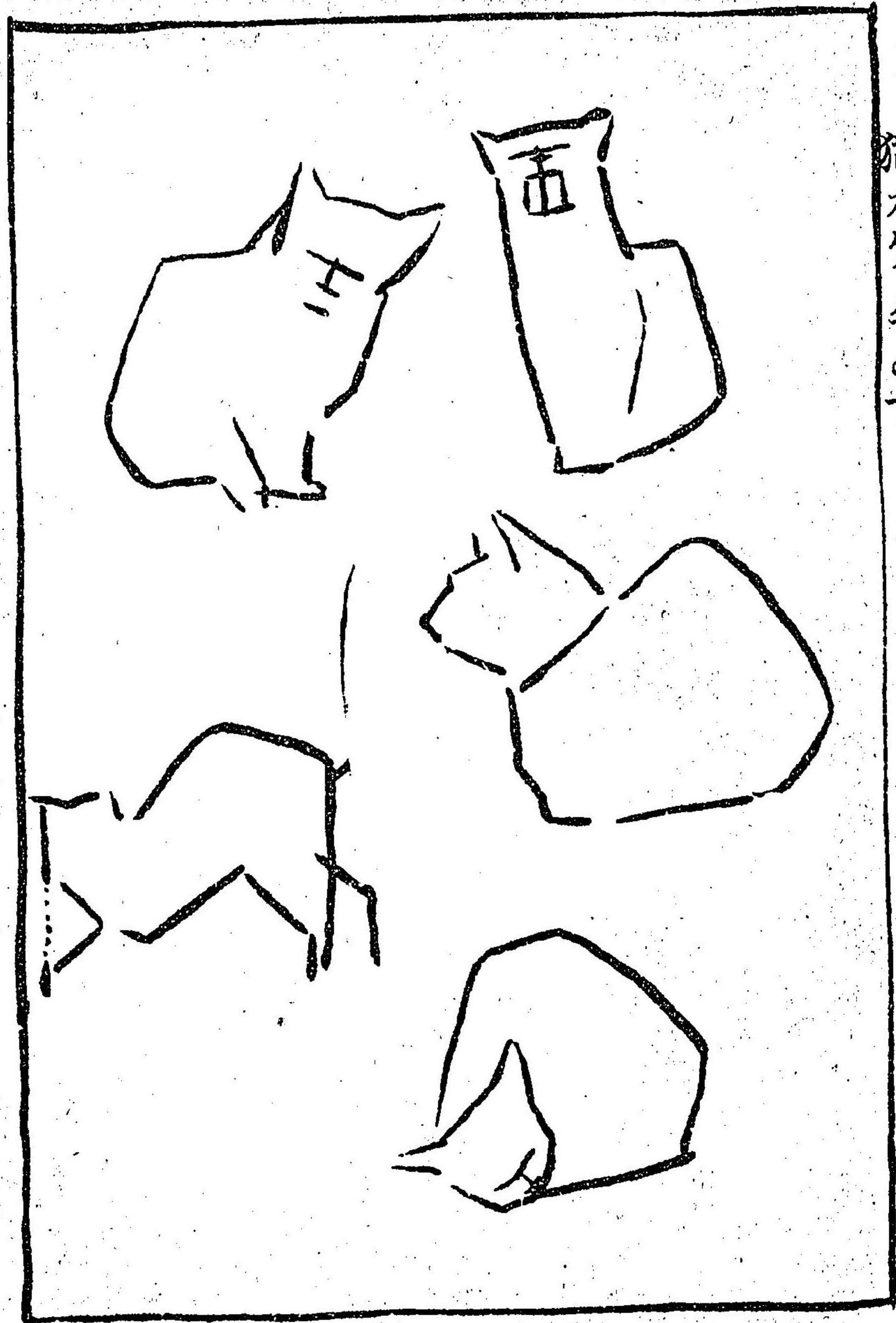
村道



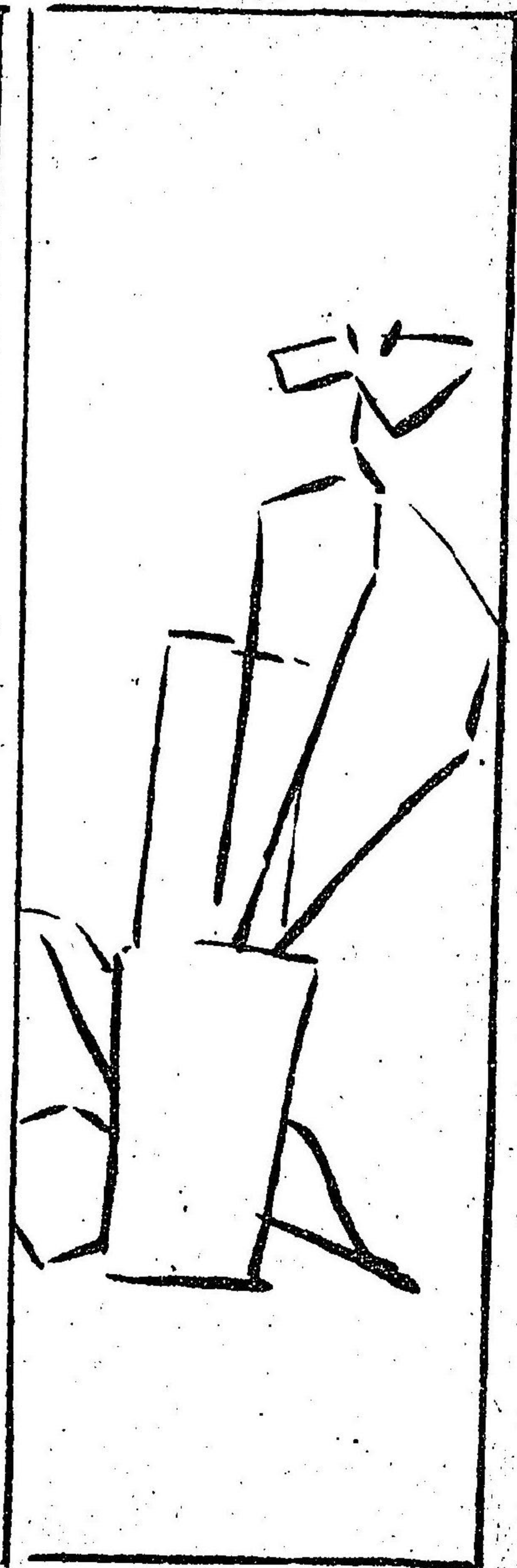
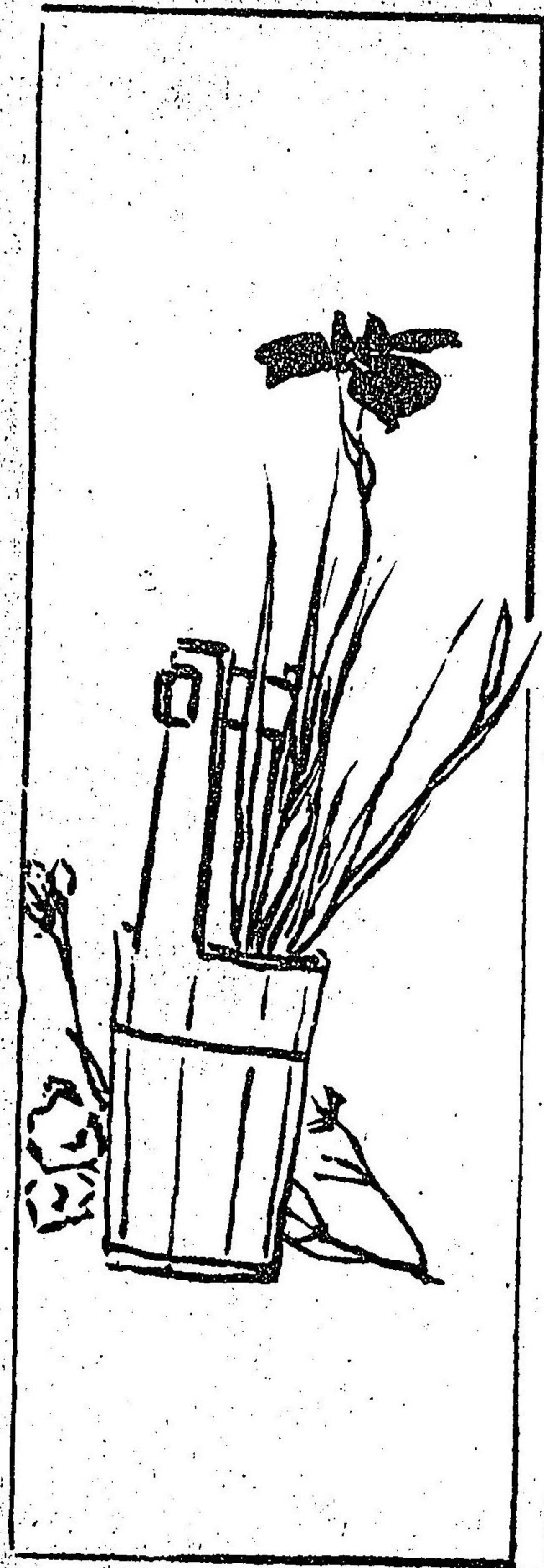
同
ス
ケ
ツ
キ



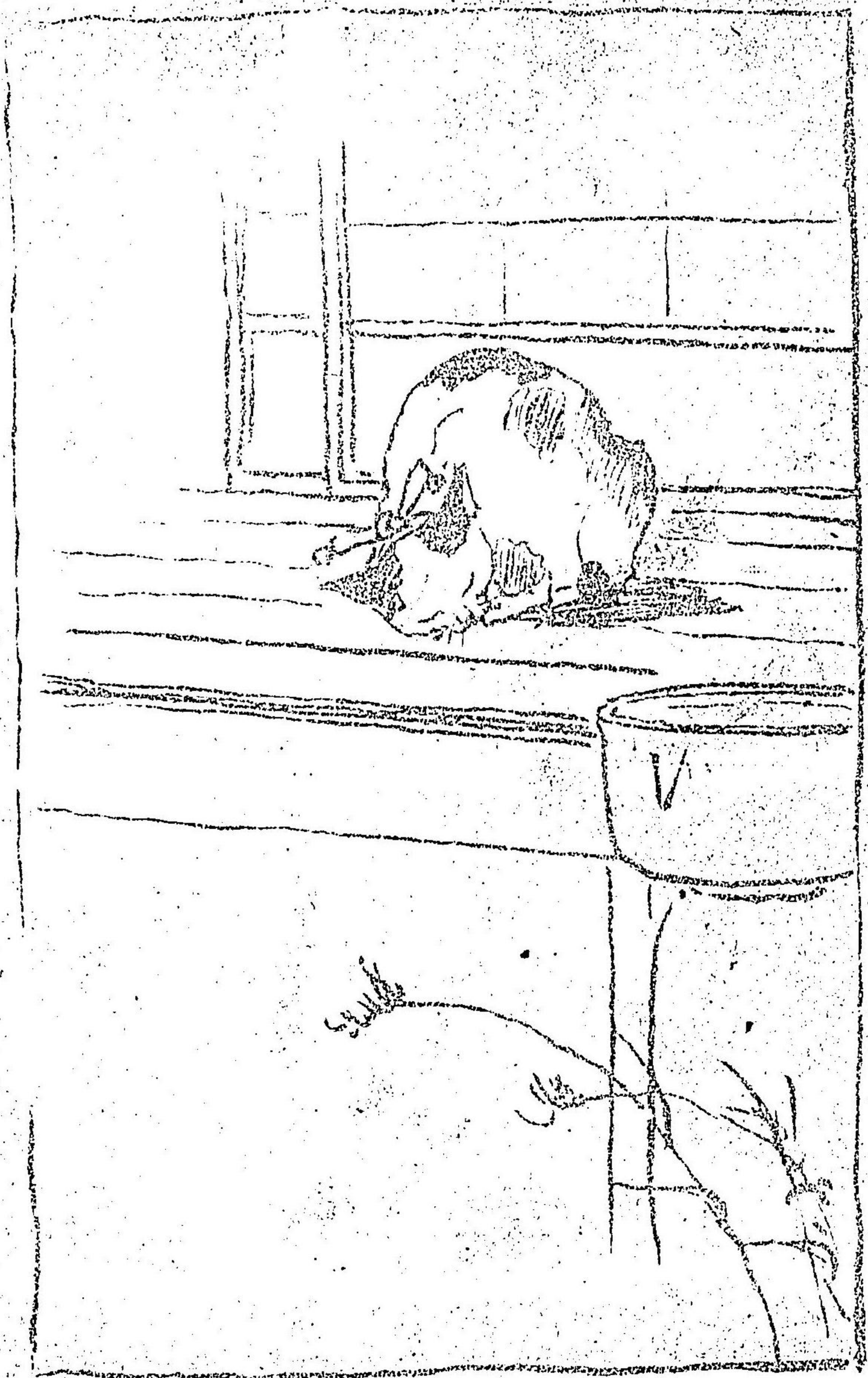
鳩



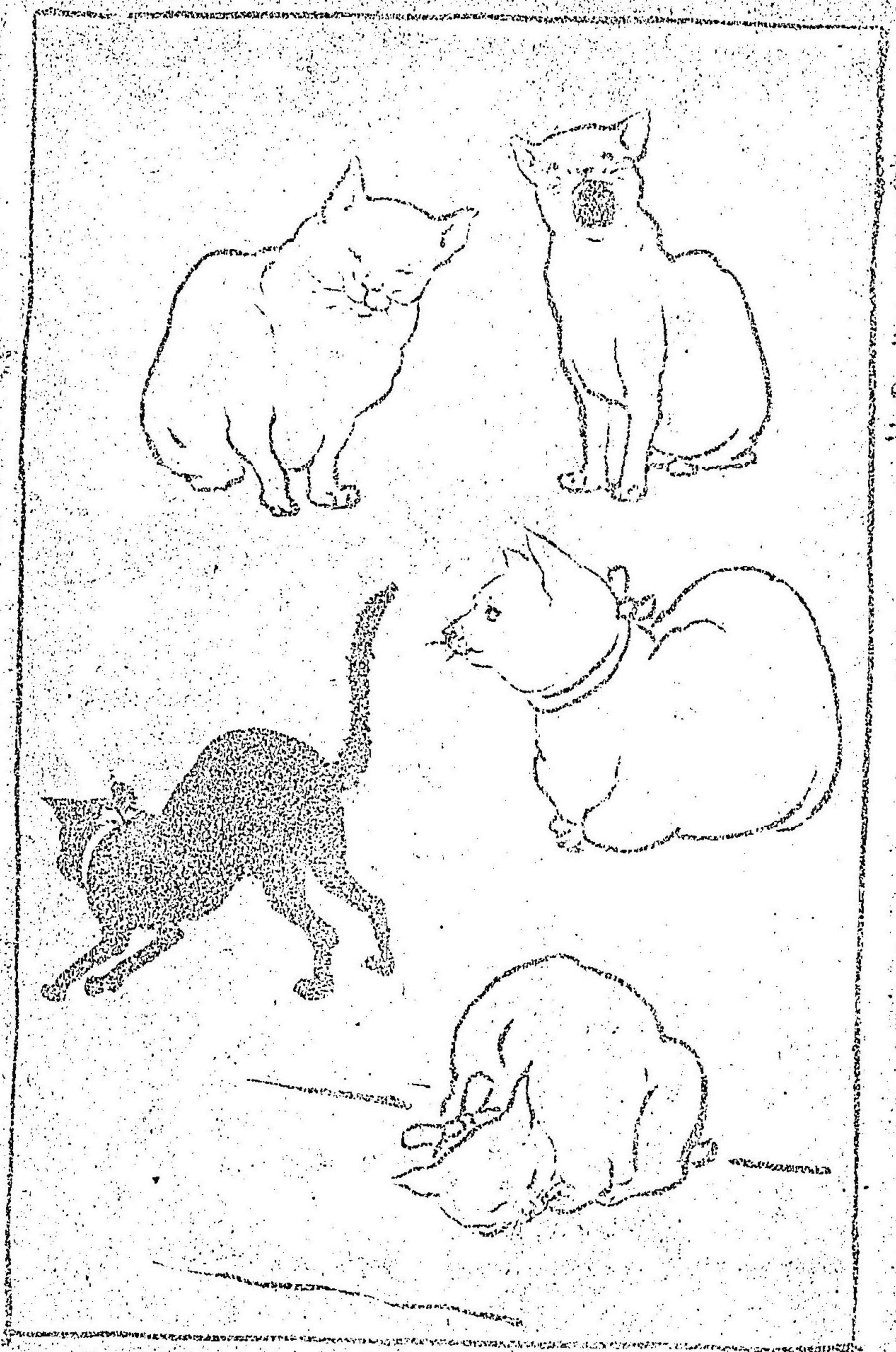
猫スケッチの一



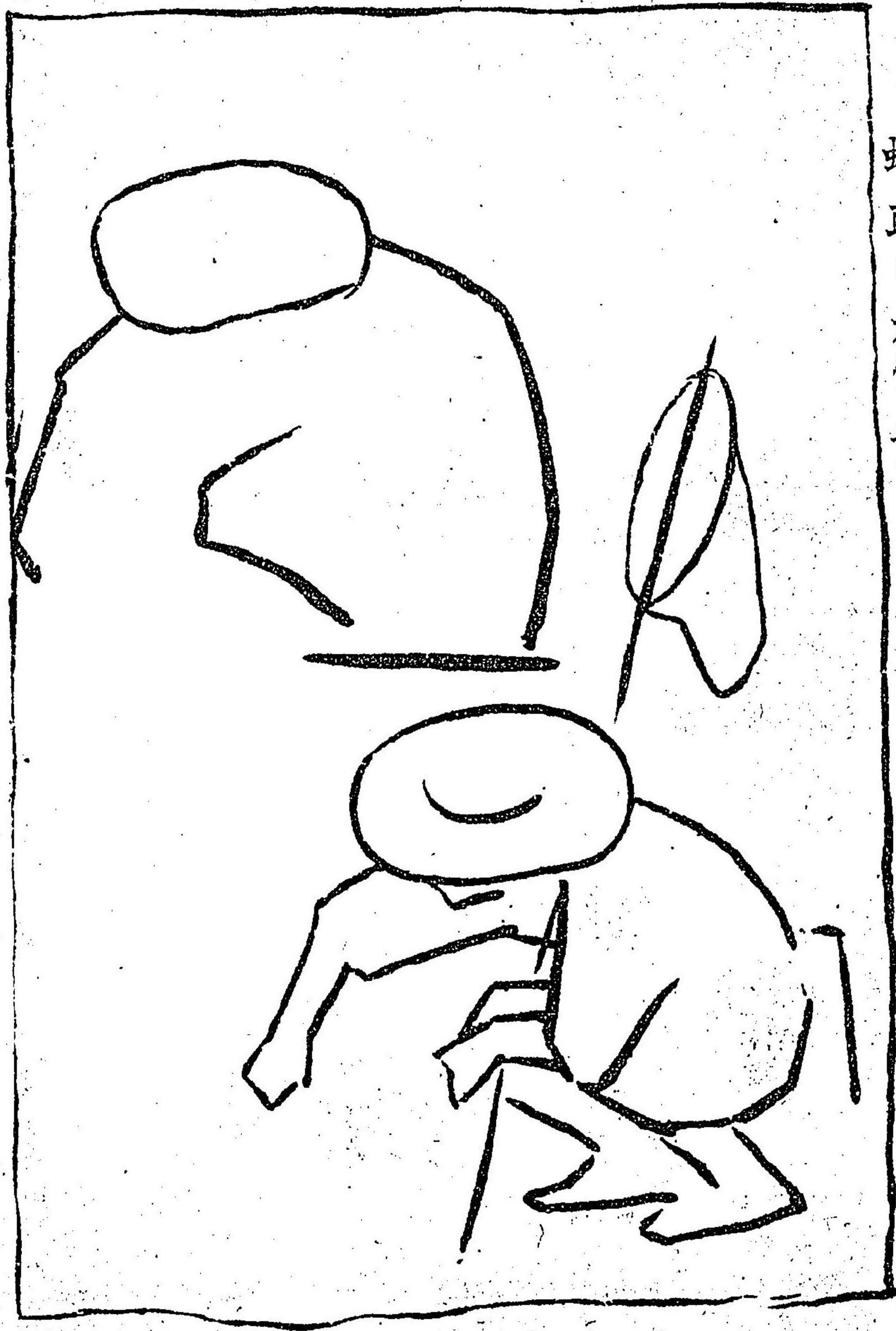
初夏



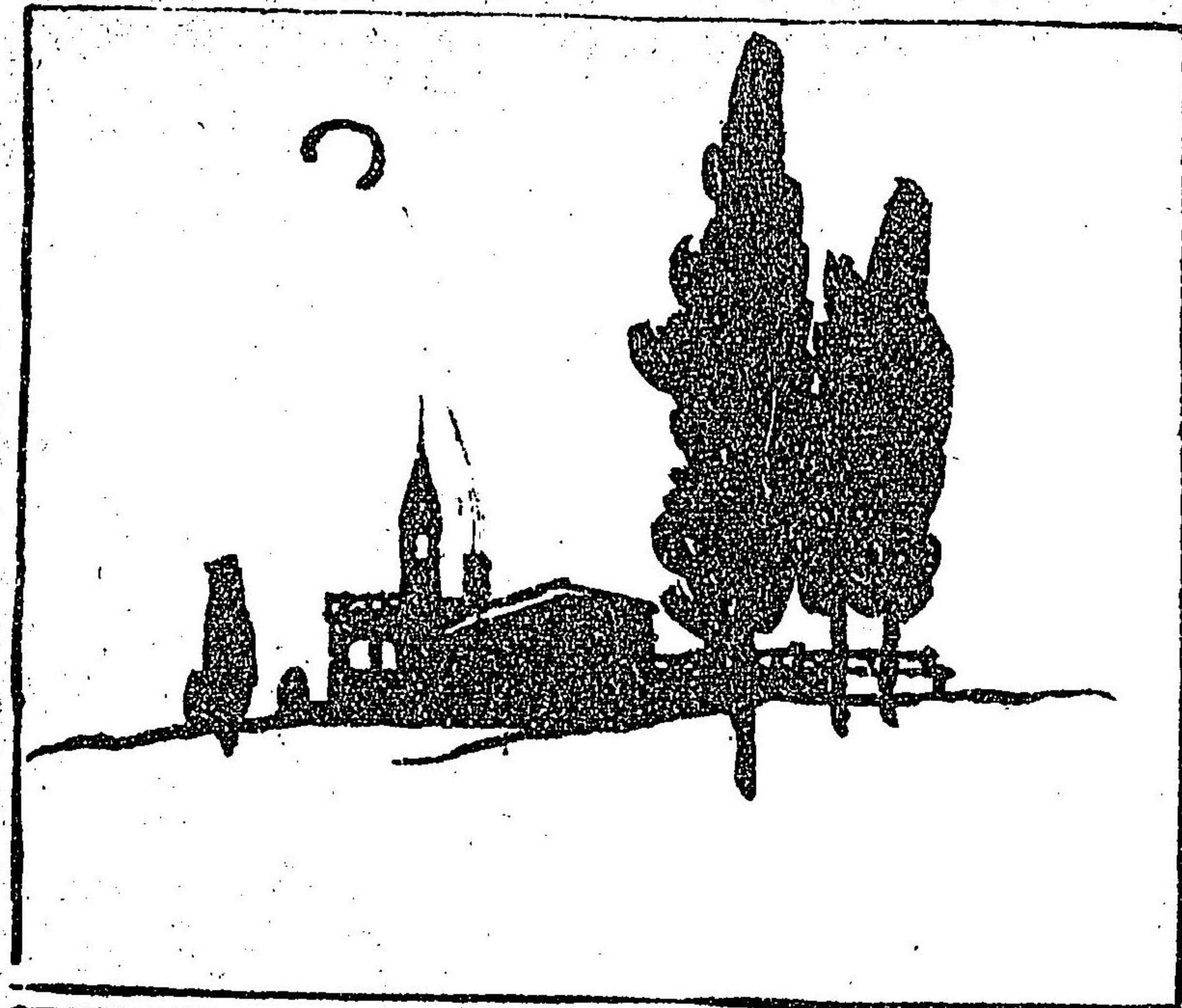
猫



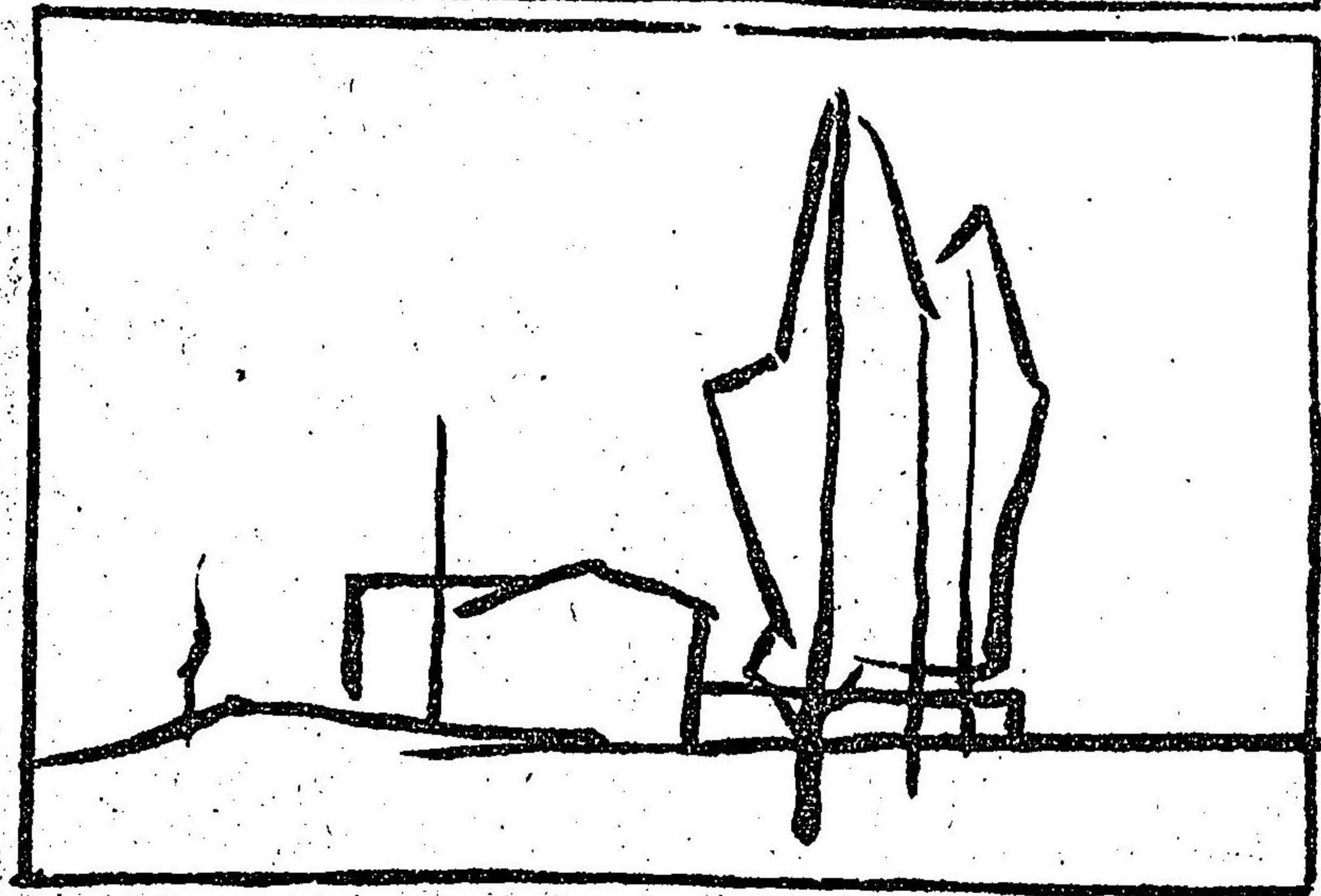
猫スケッチの二



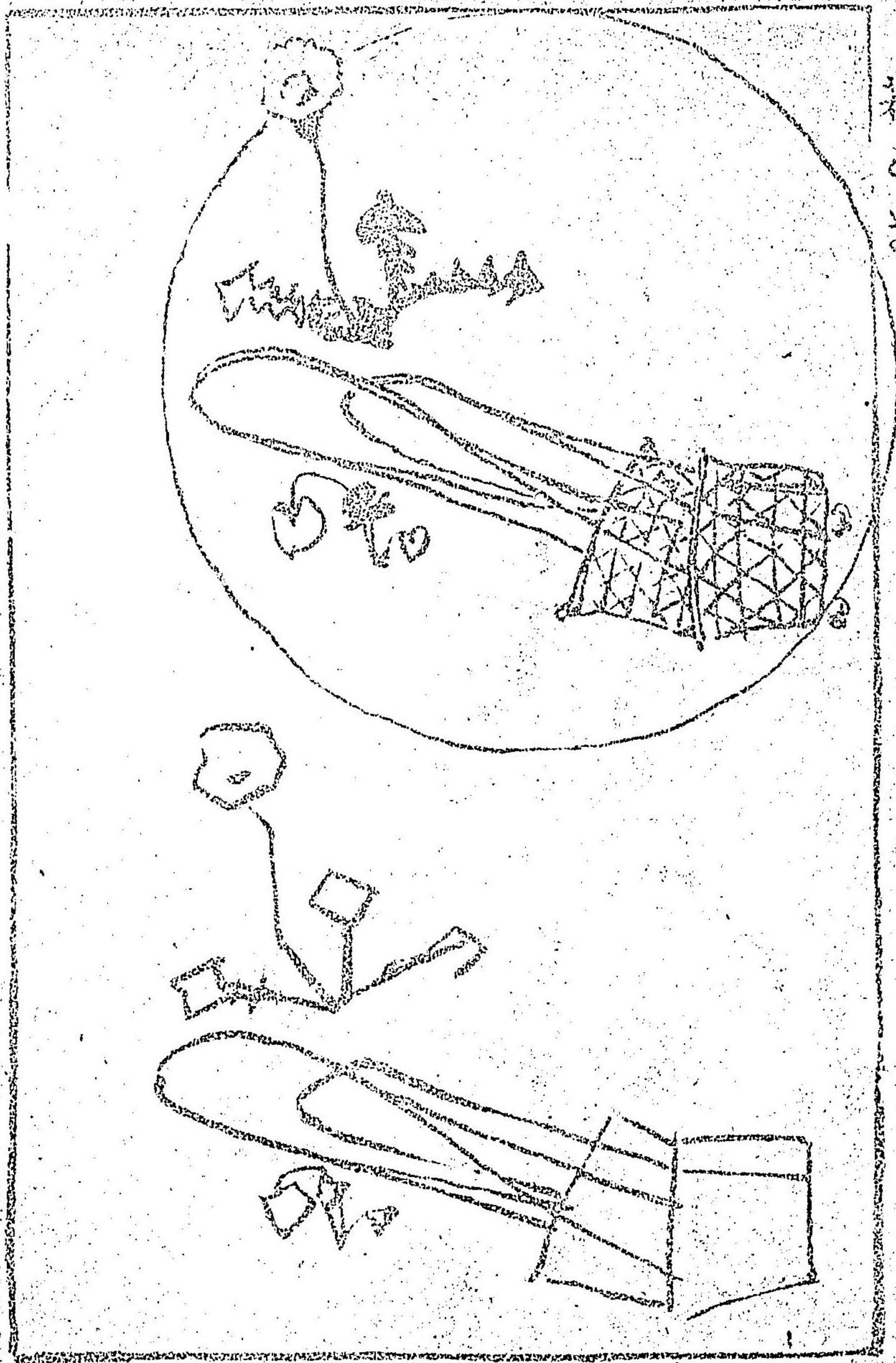
蟬取りスケッチ



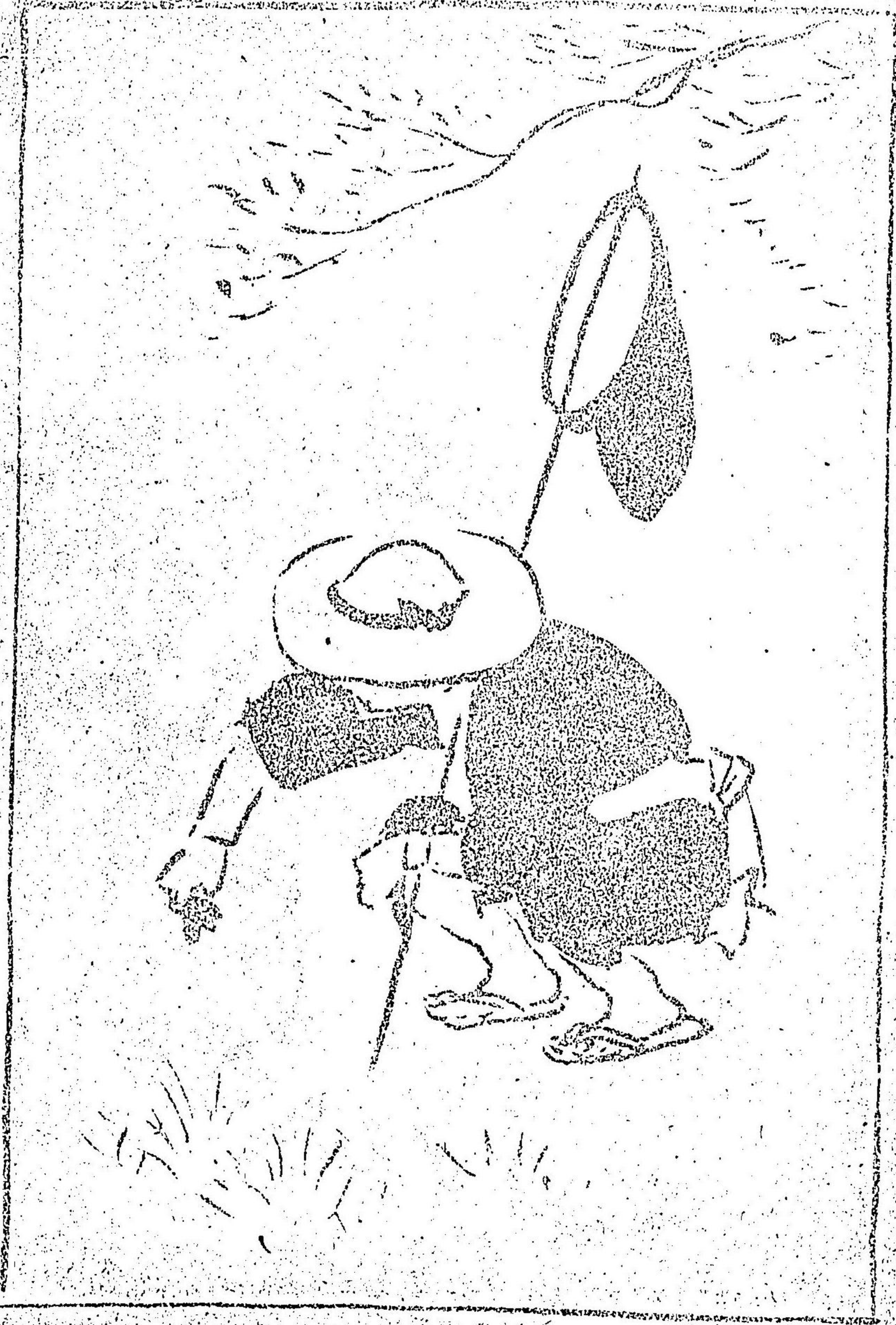
月の夜



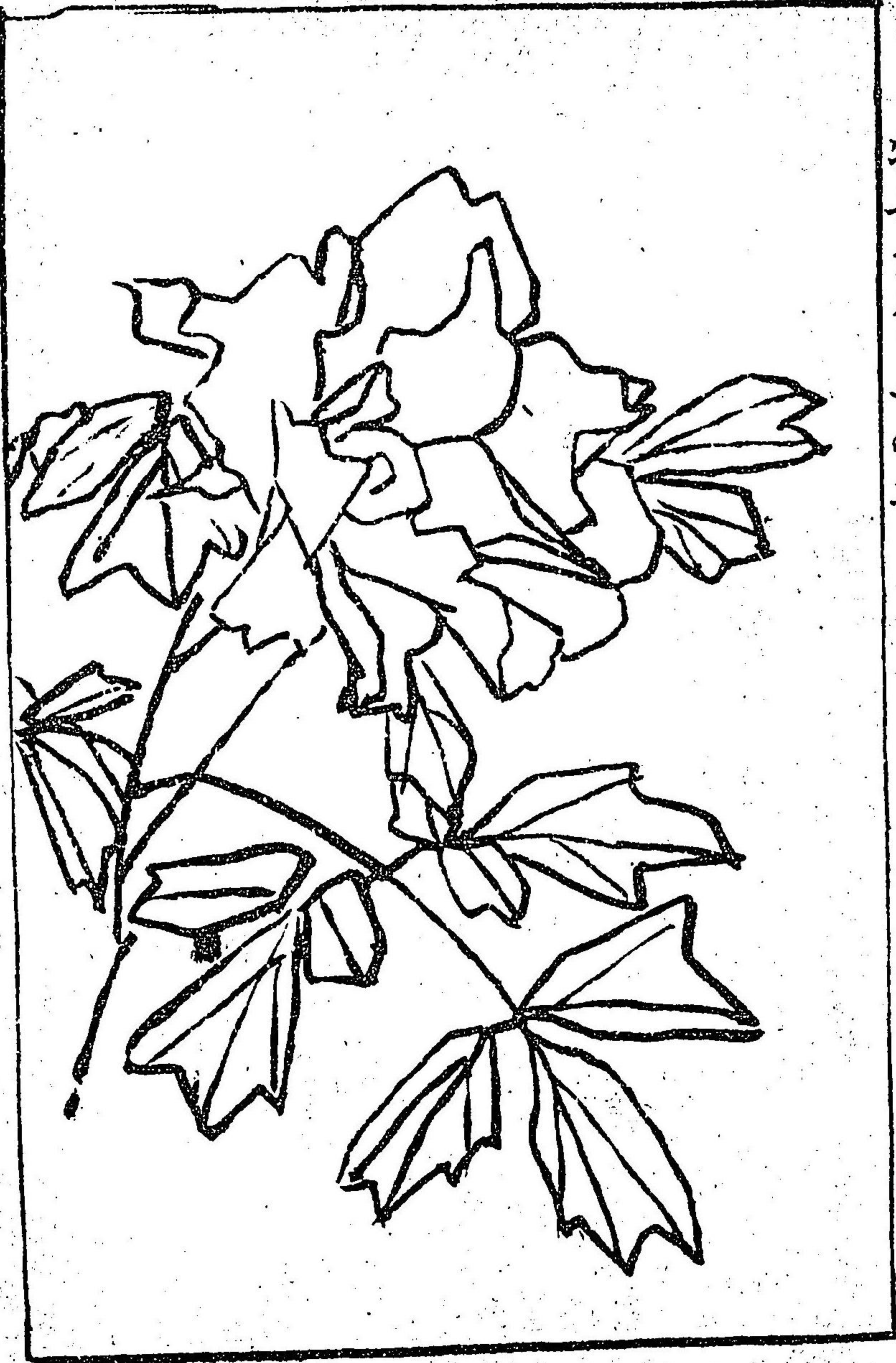
同スケッチ



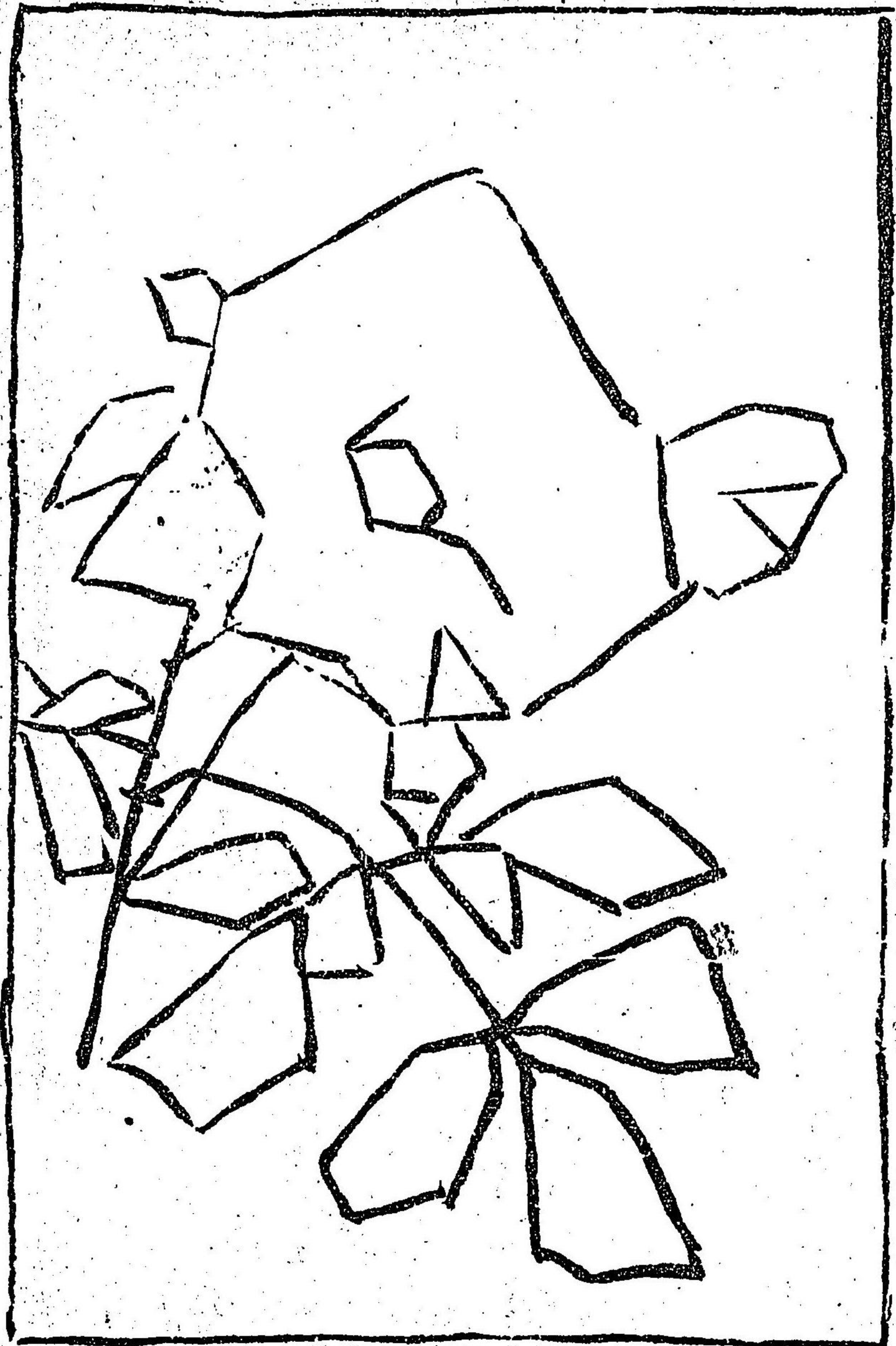
蟬ノ器



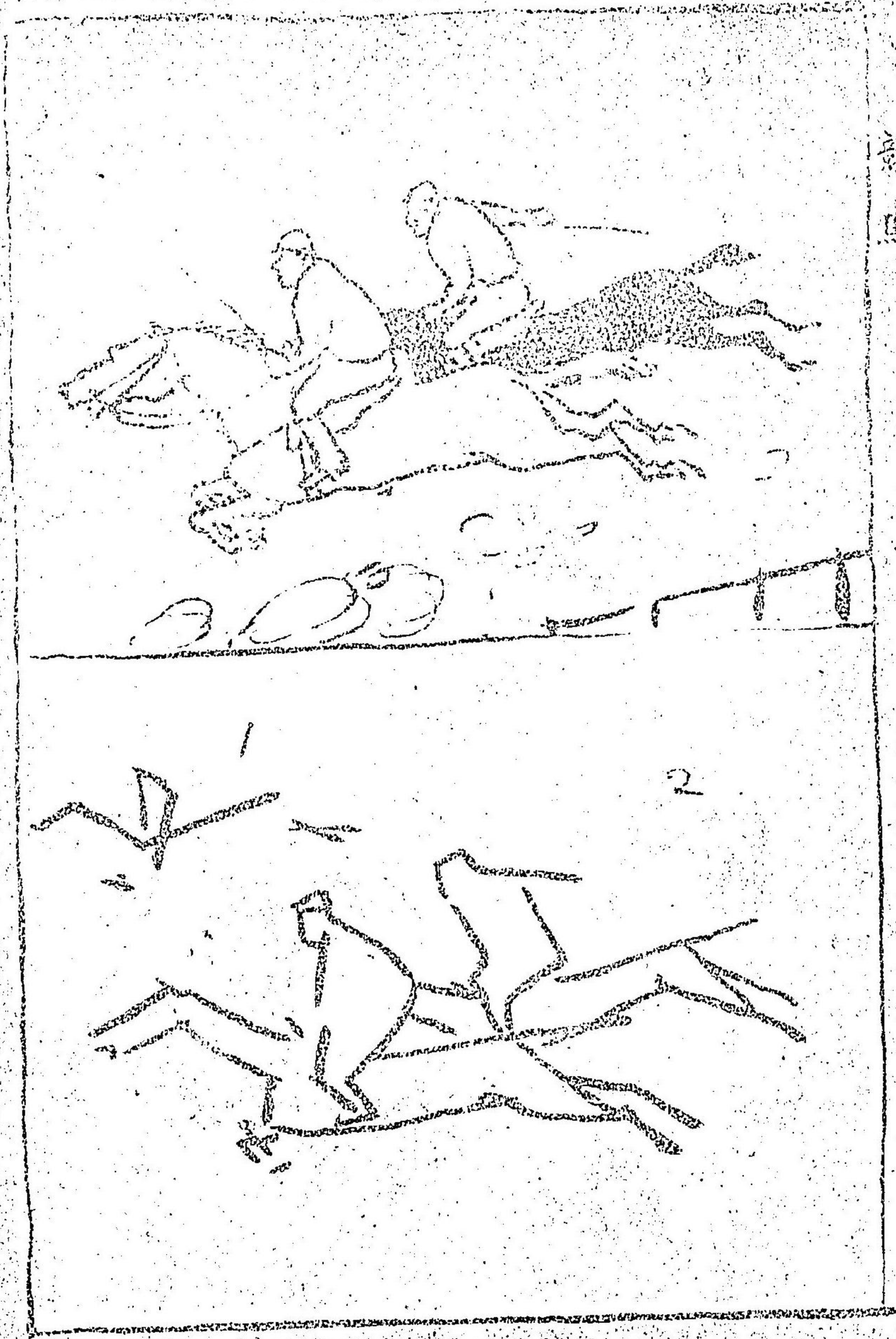
蟬取り



牡丹スケッチの二



牡丹スケッチの一

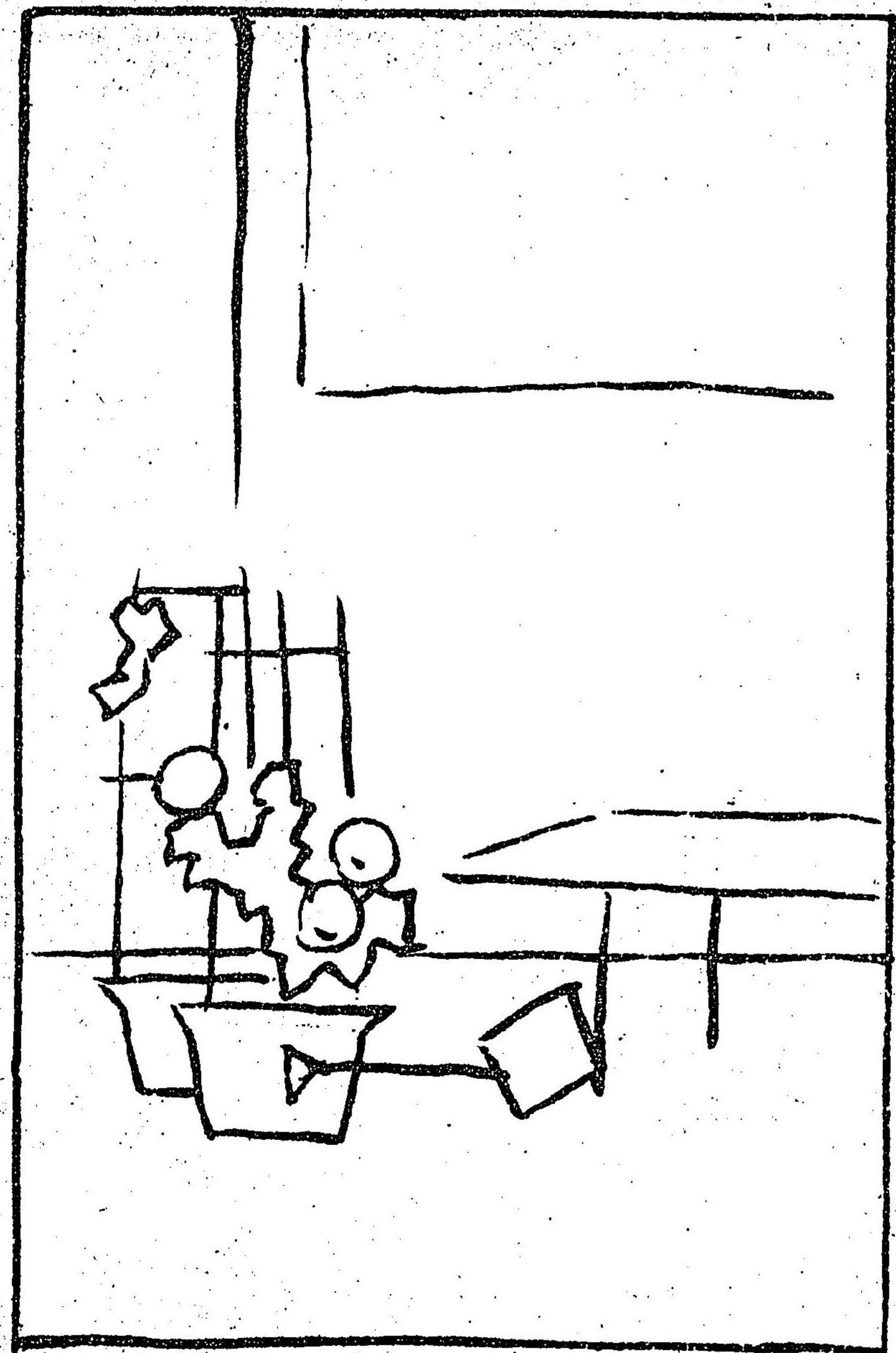


馬

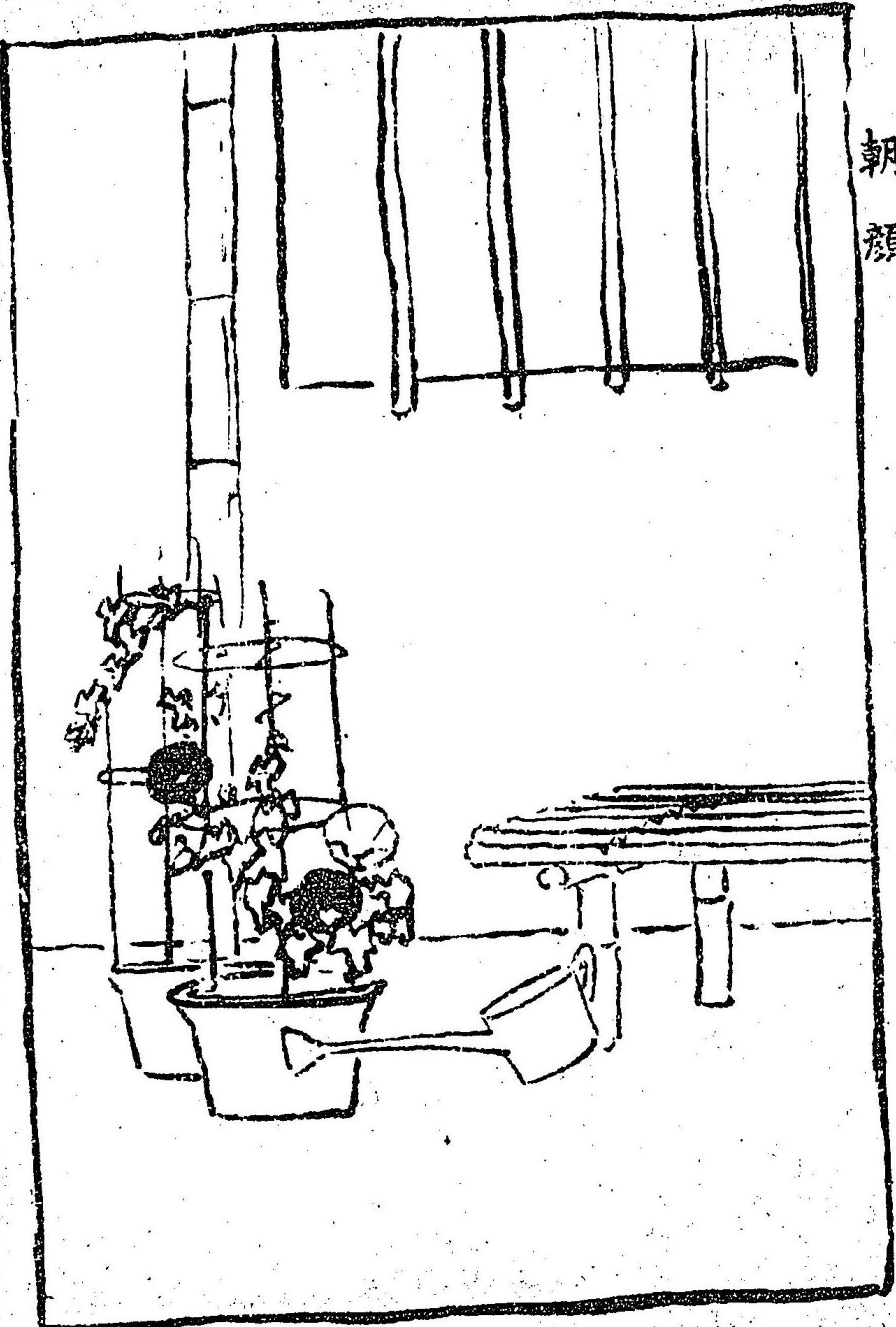


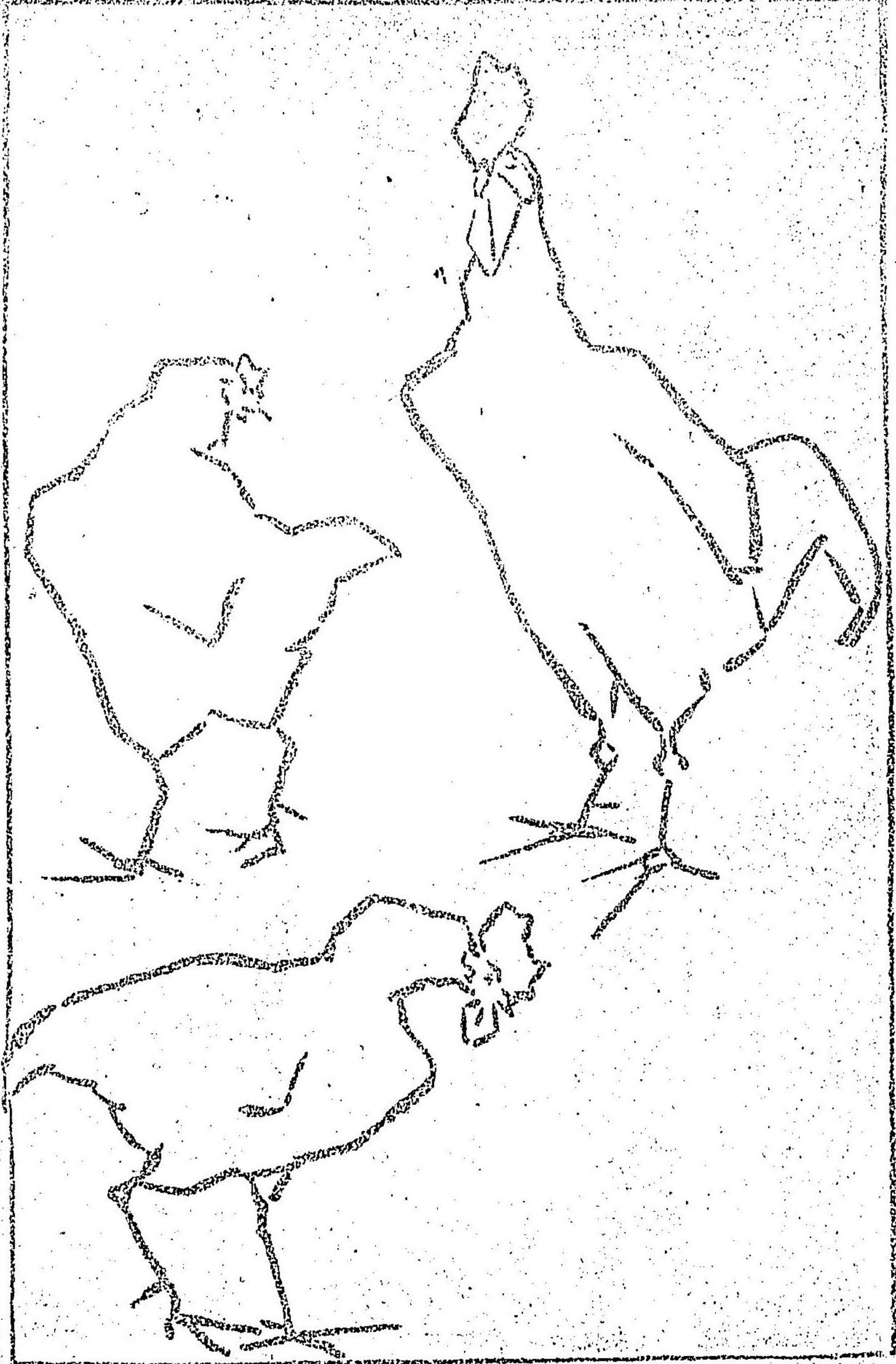
花

朝顔スケッチ

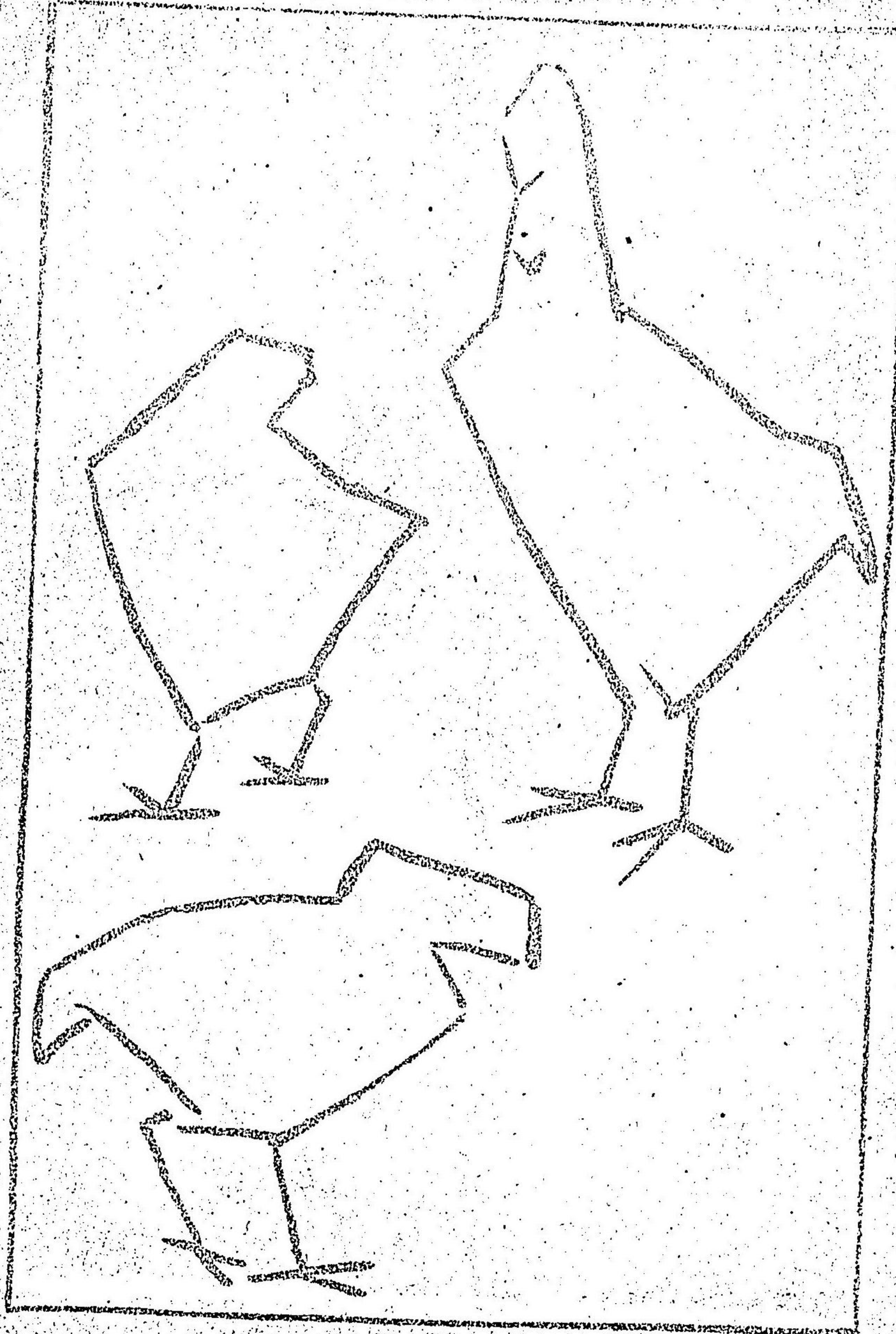


朝顔

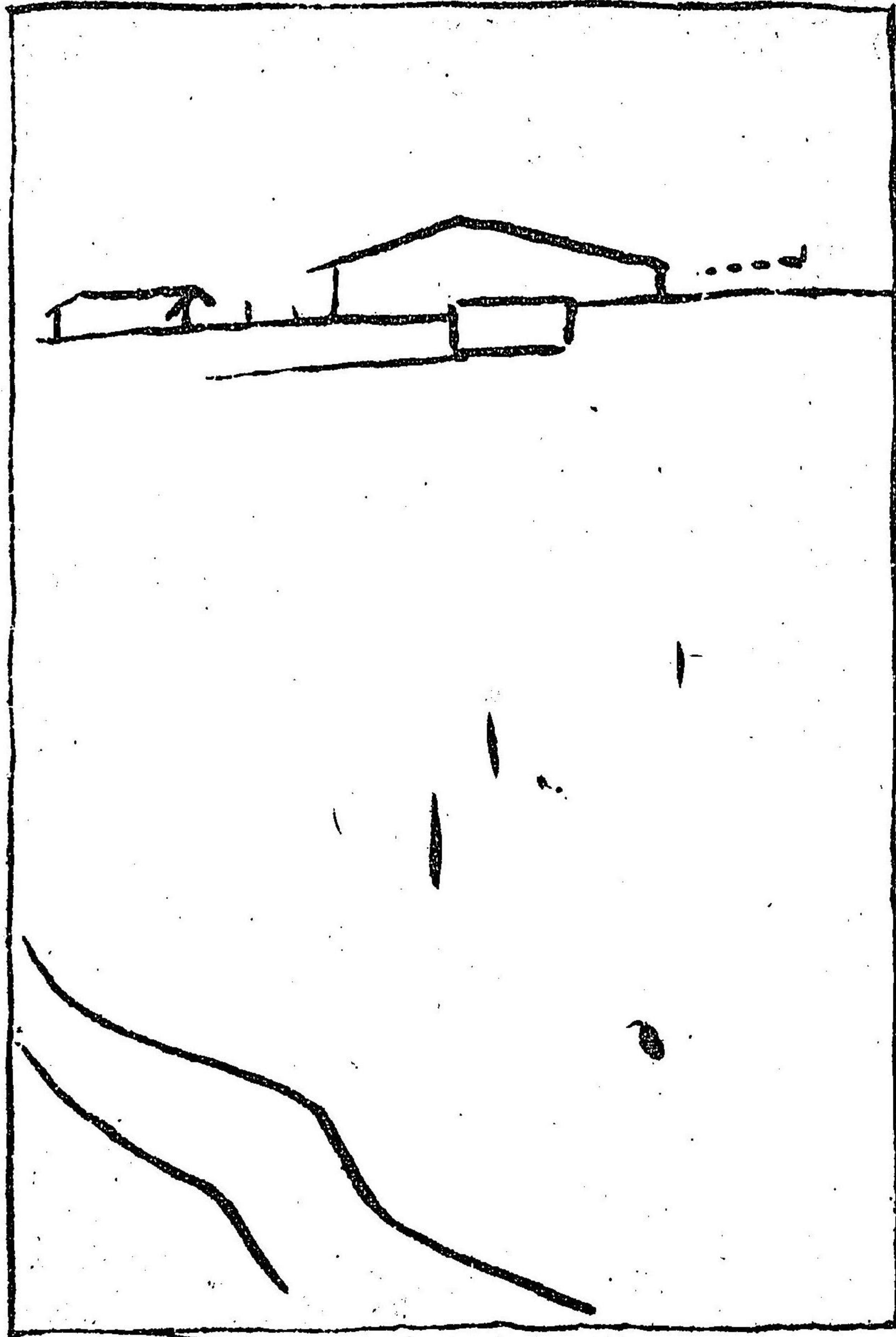




軍鶏スケッチの二



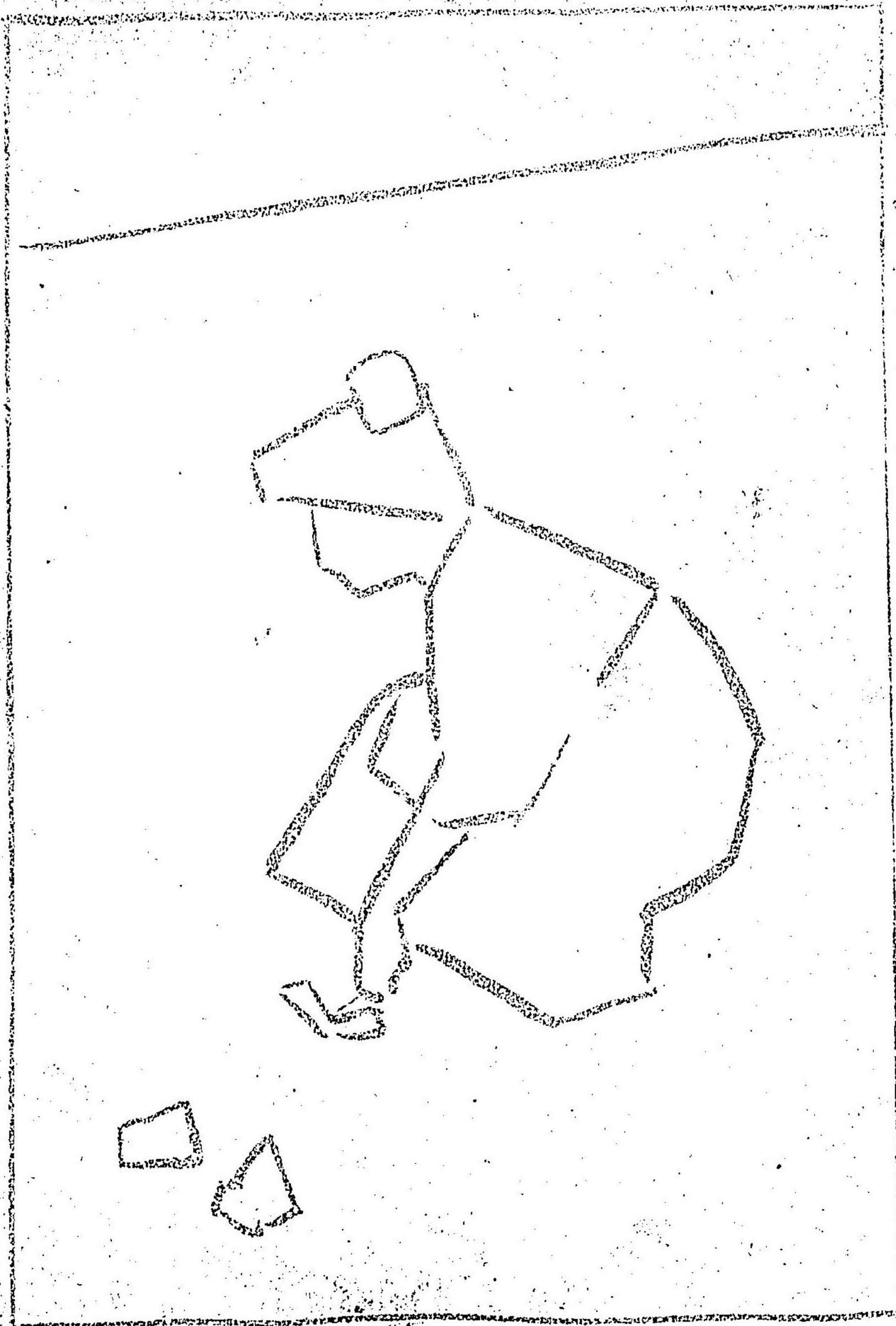
軍鶏スケッチの一



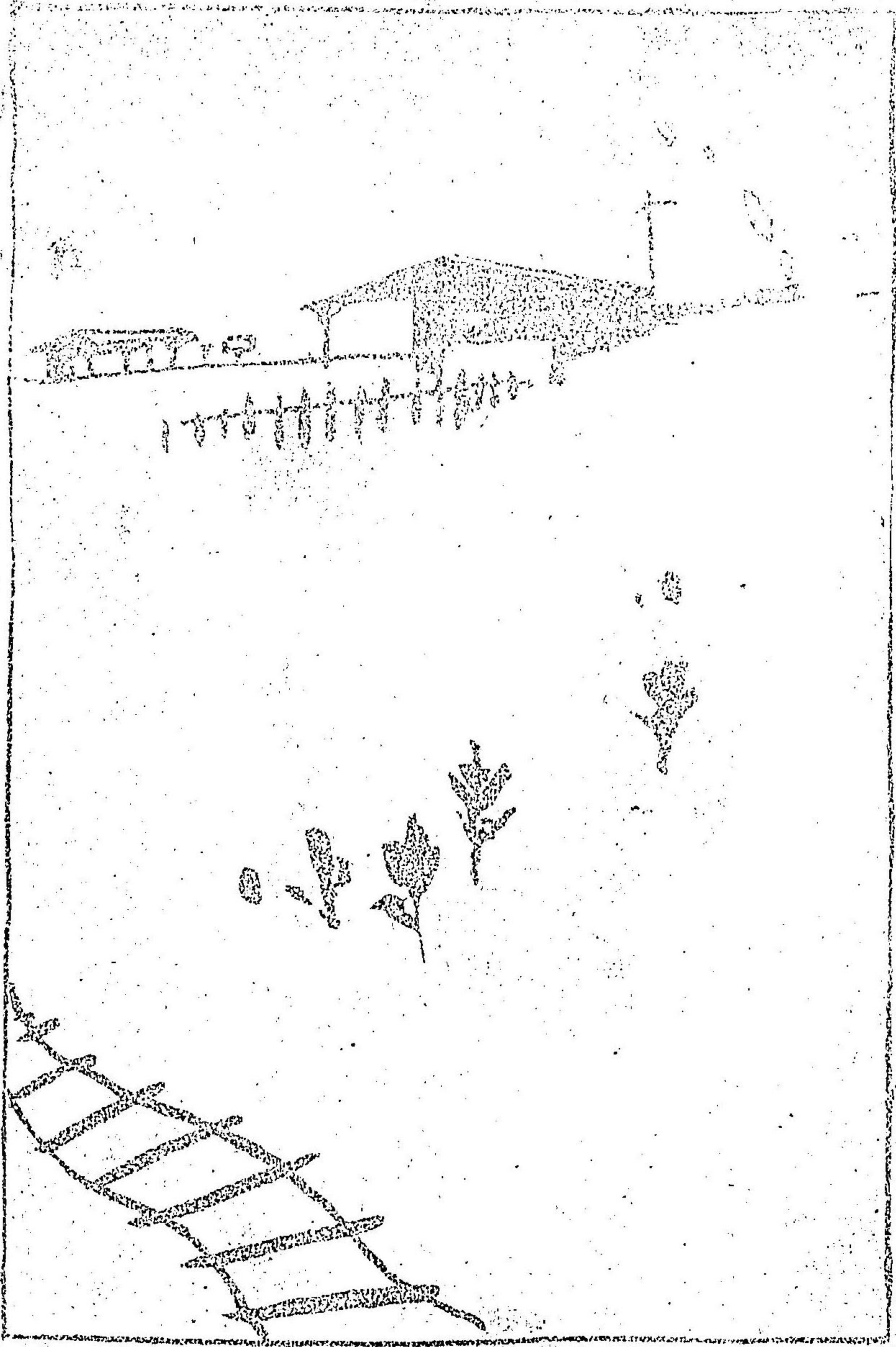
停車場スヶツ子



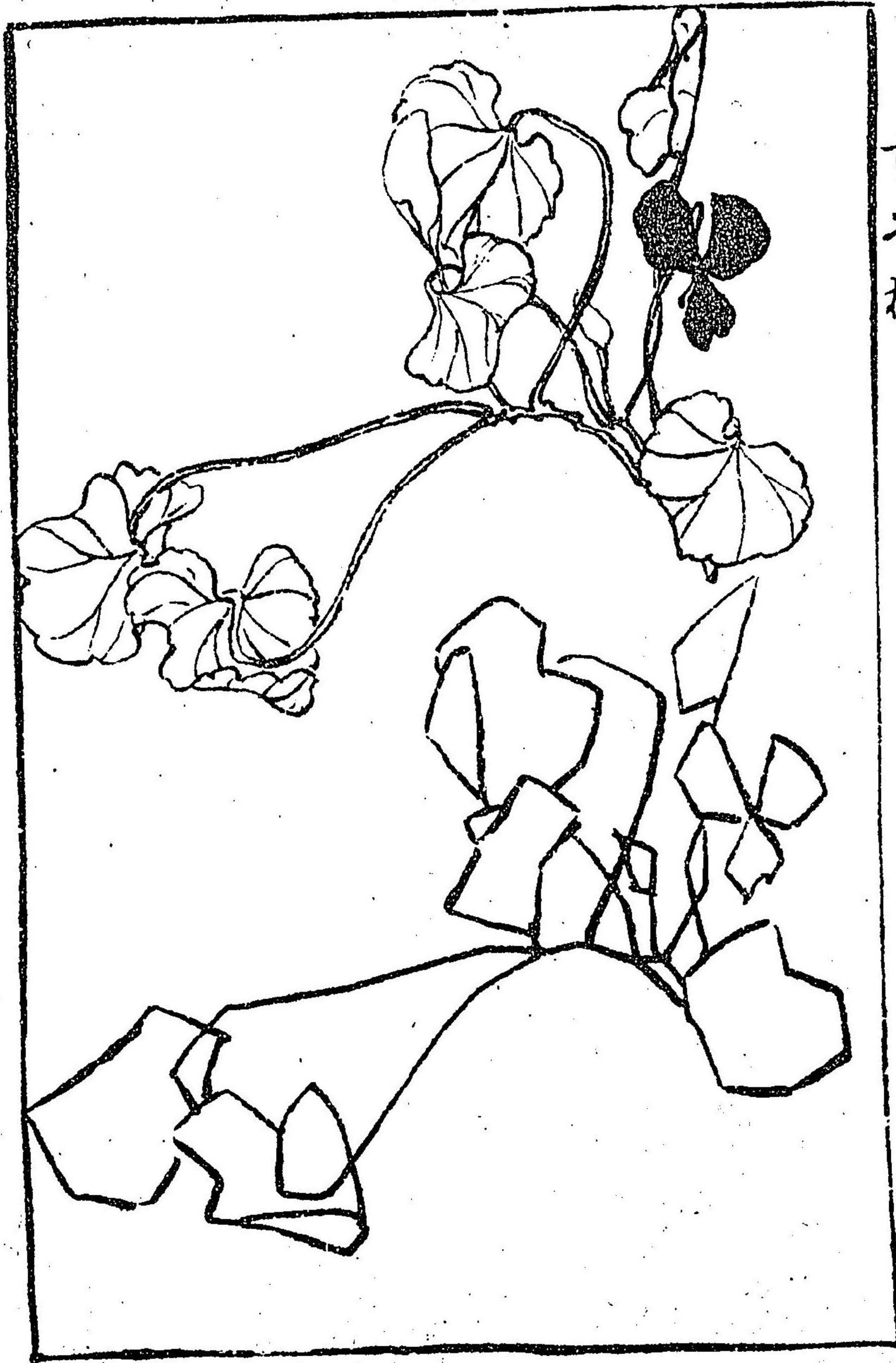
軍鶏



つみ草ステーション



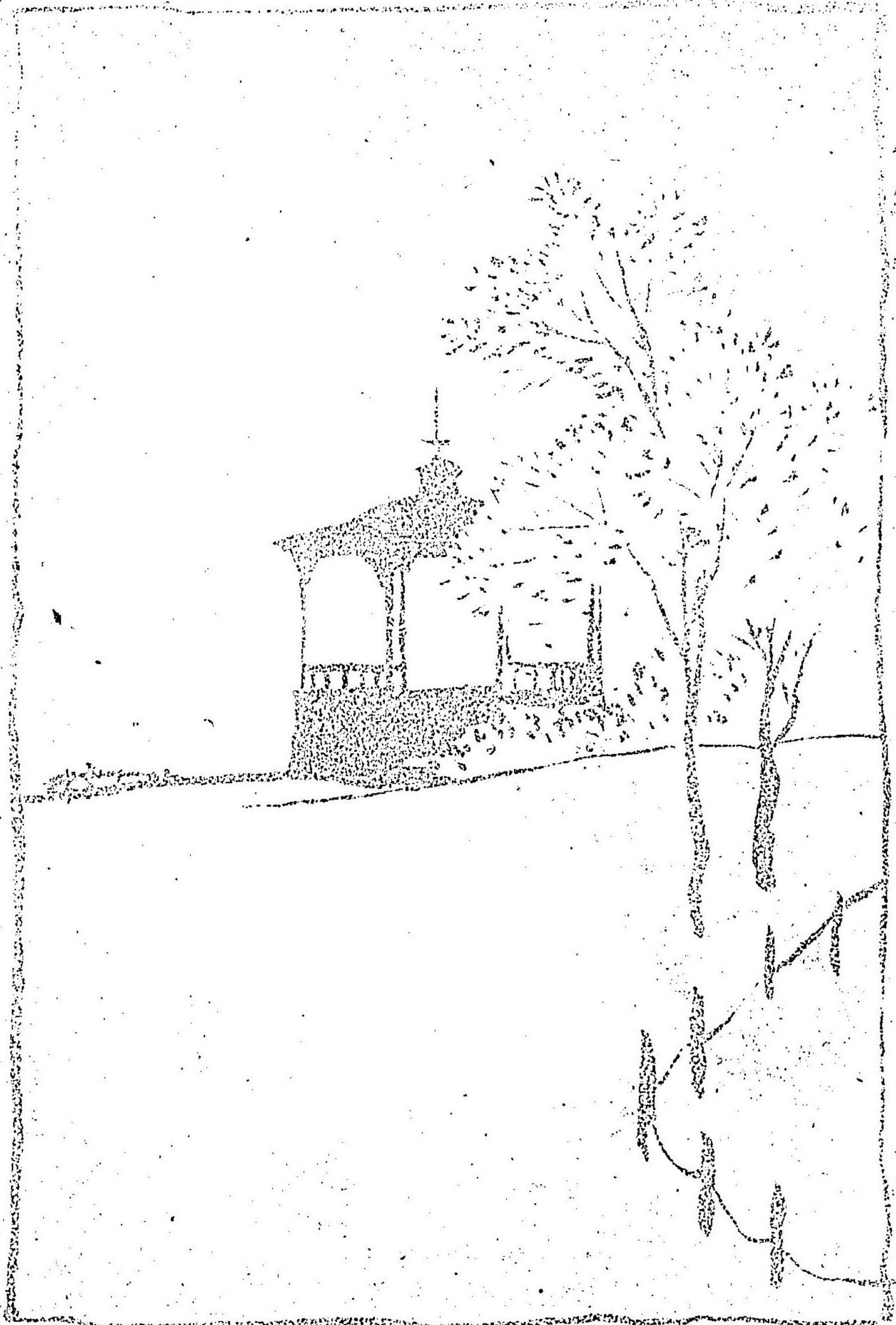
停車場



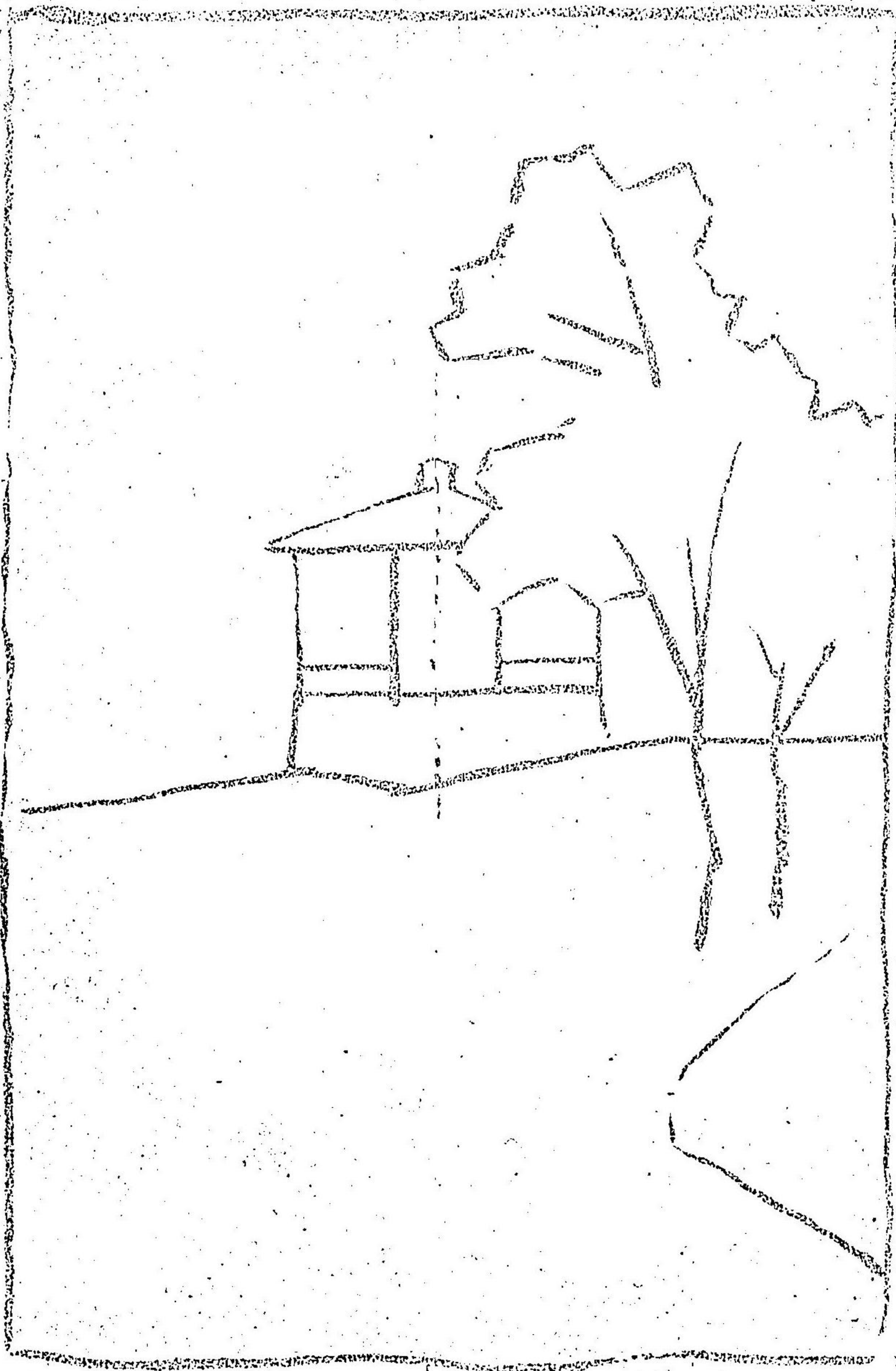
すみれ



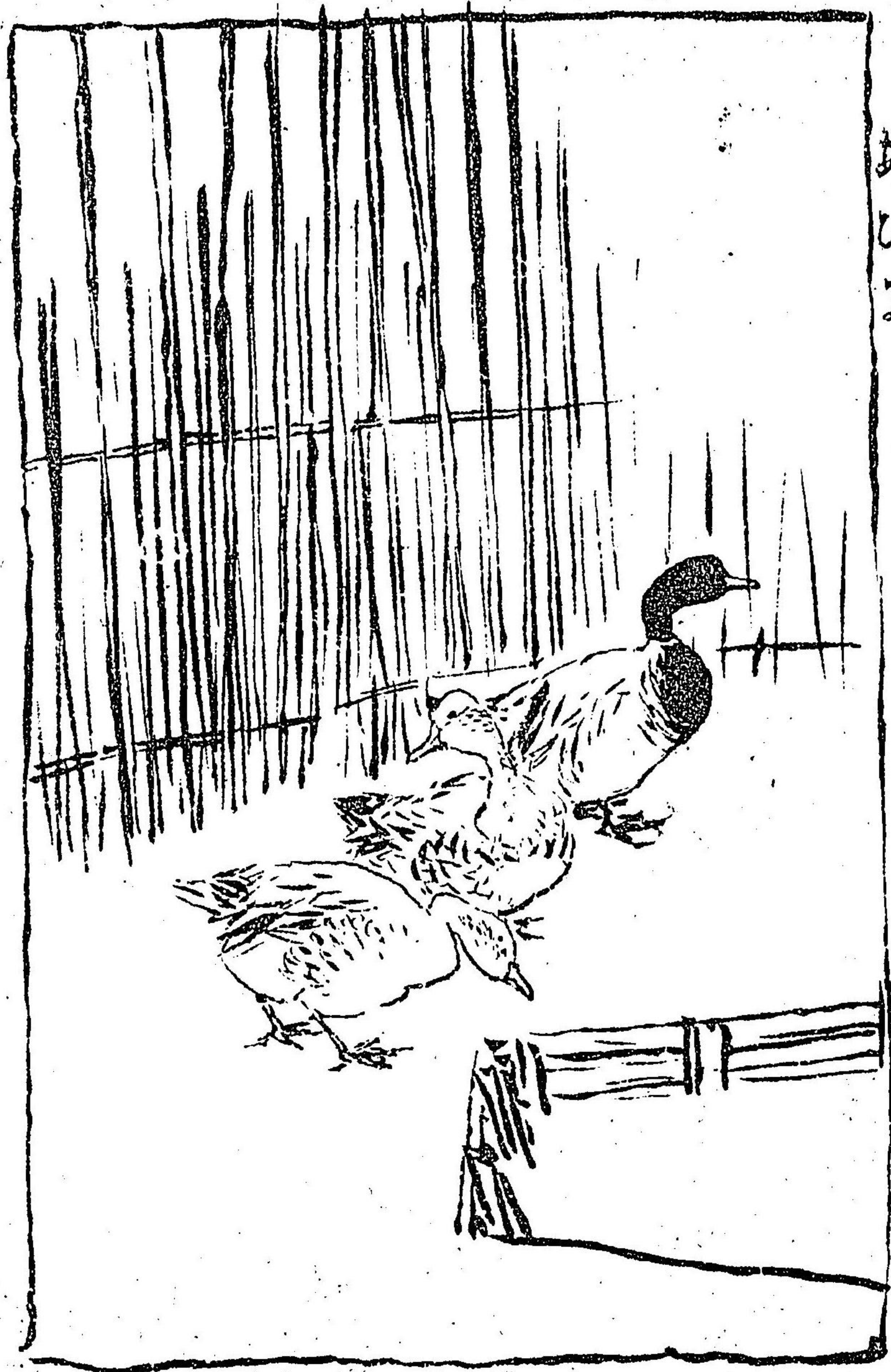
摘み草



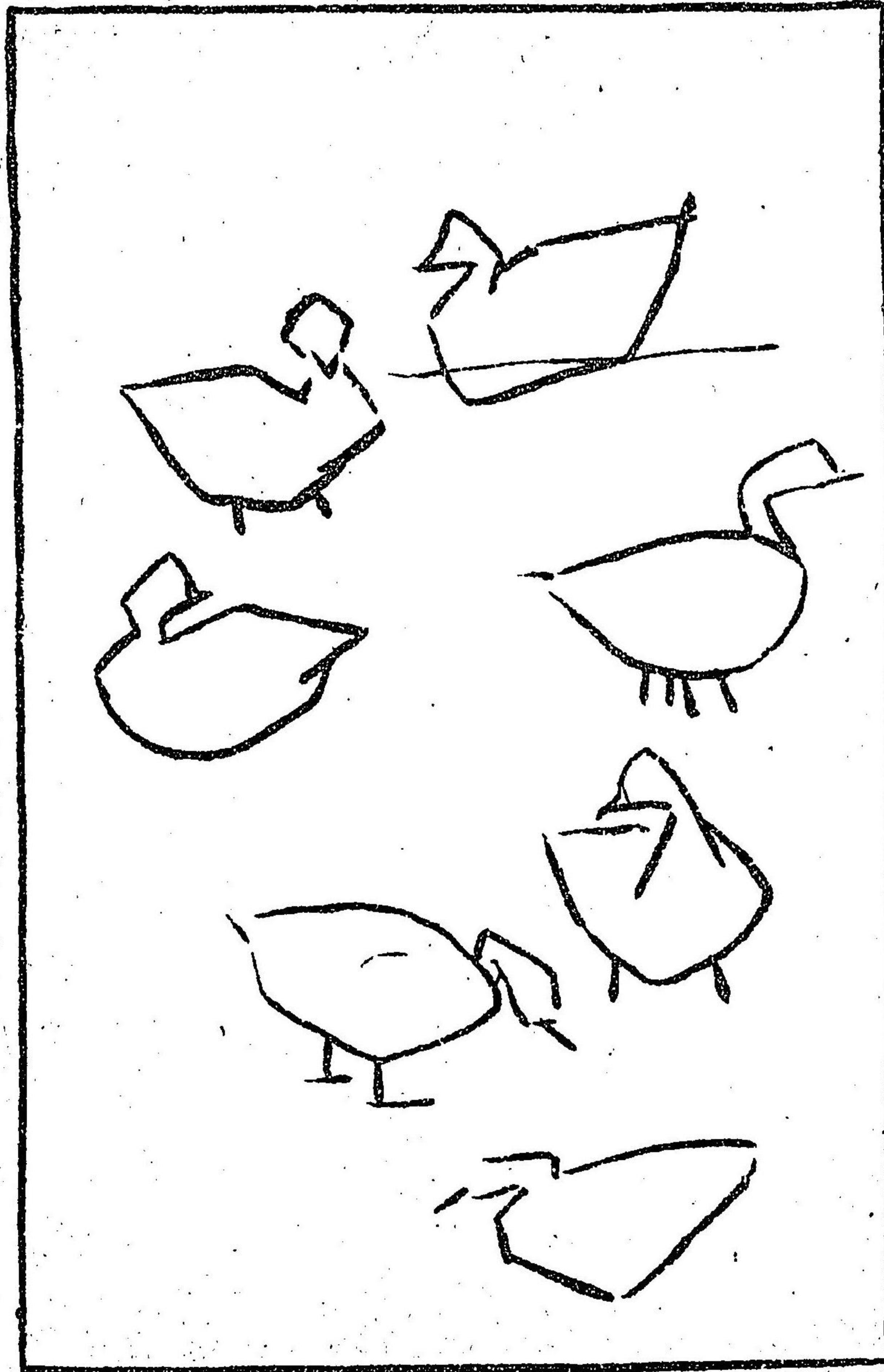
音樂堂



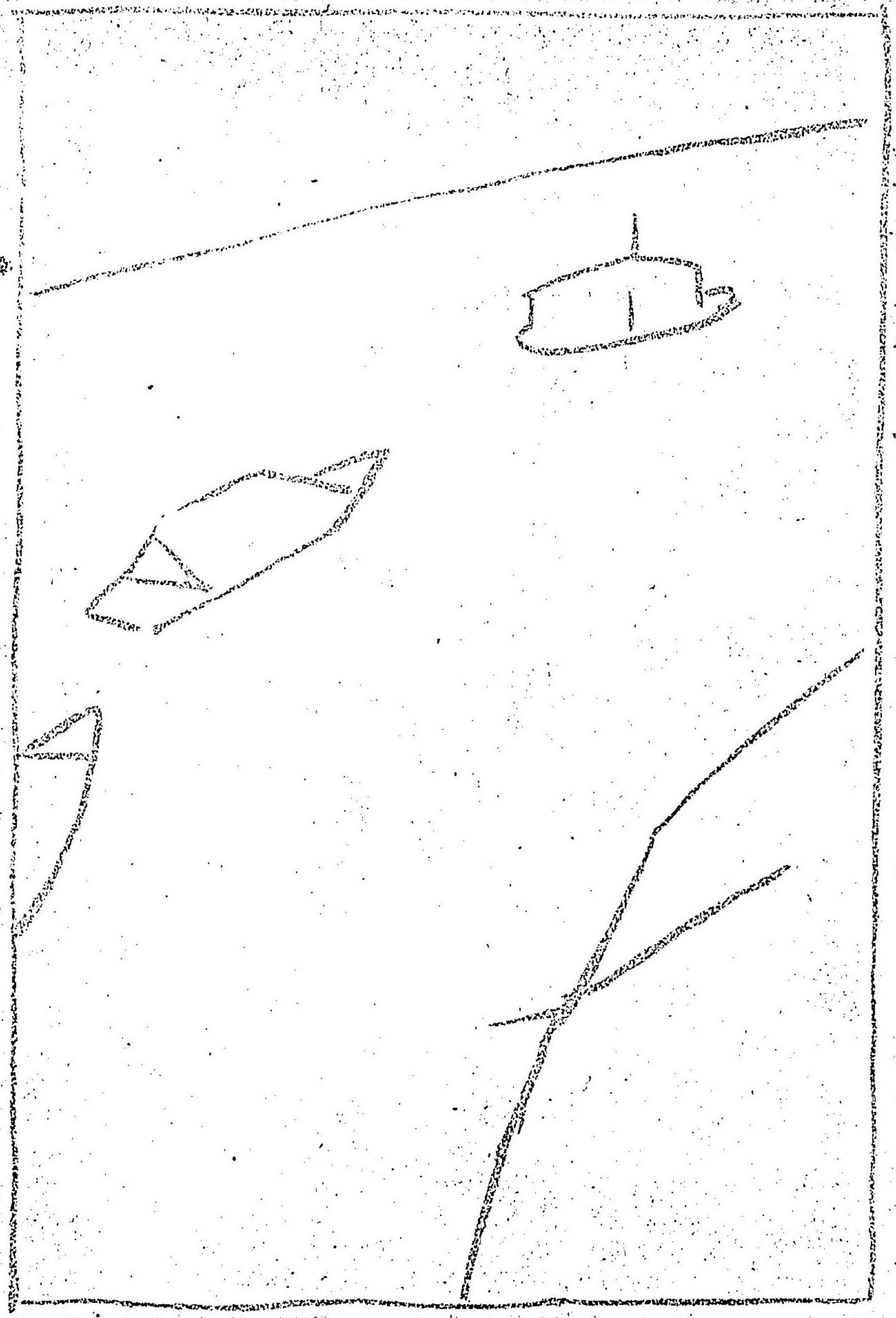
音樂堂スケッチ



あひる



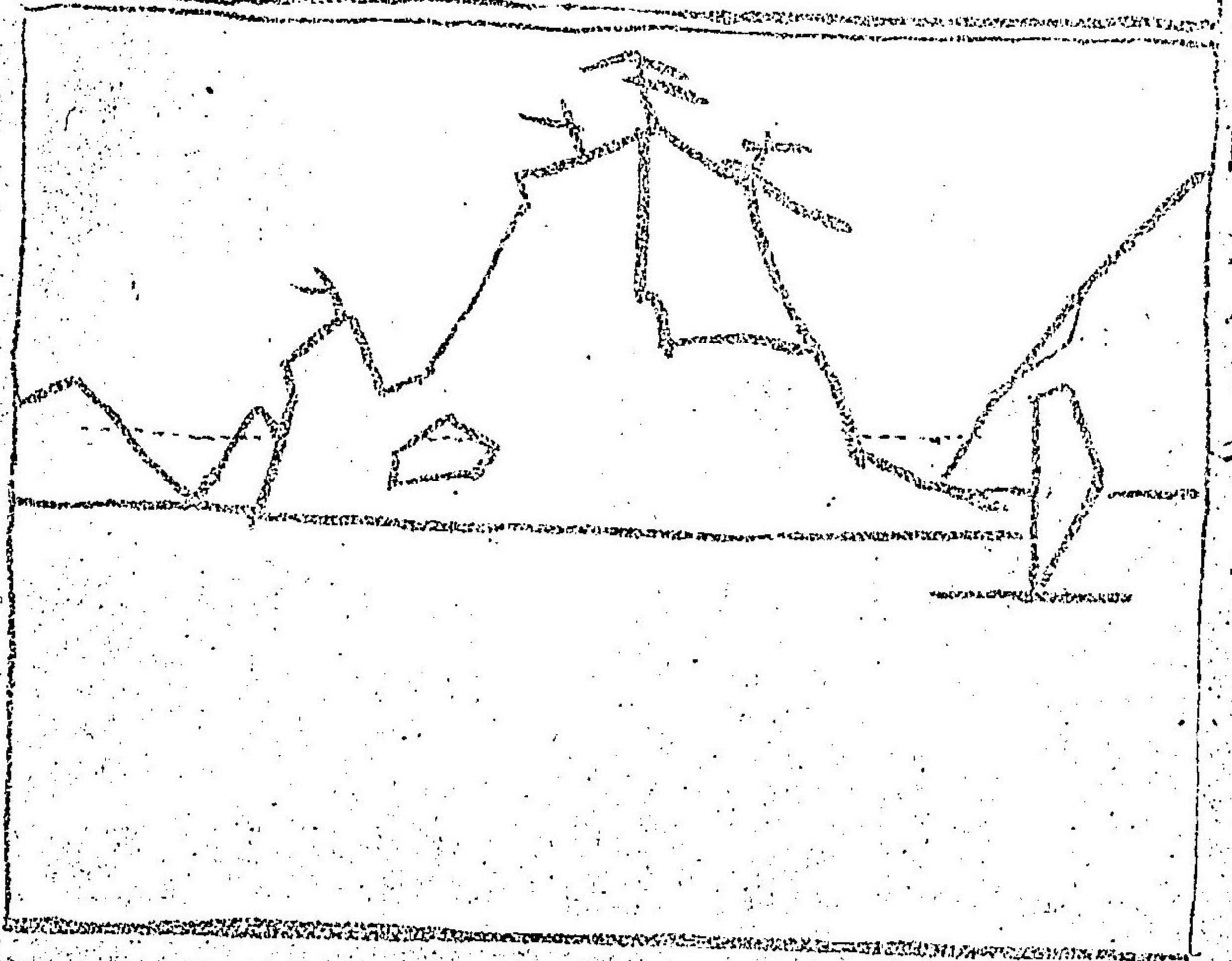
あひるスケッチ



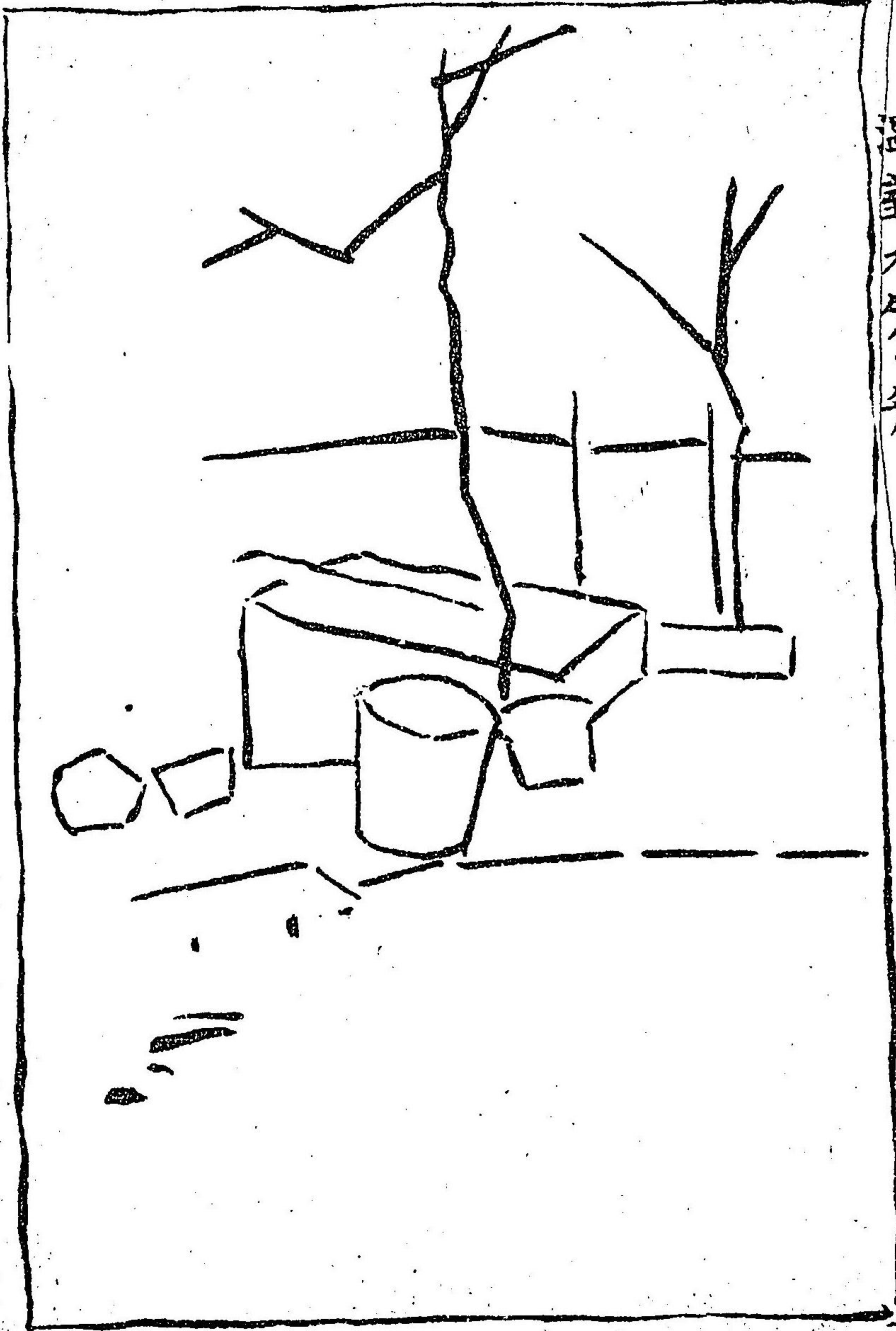
舟又々子



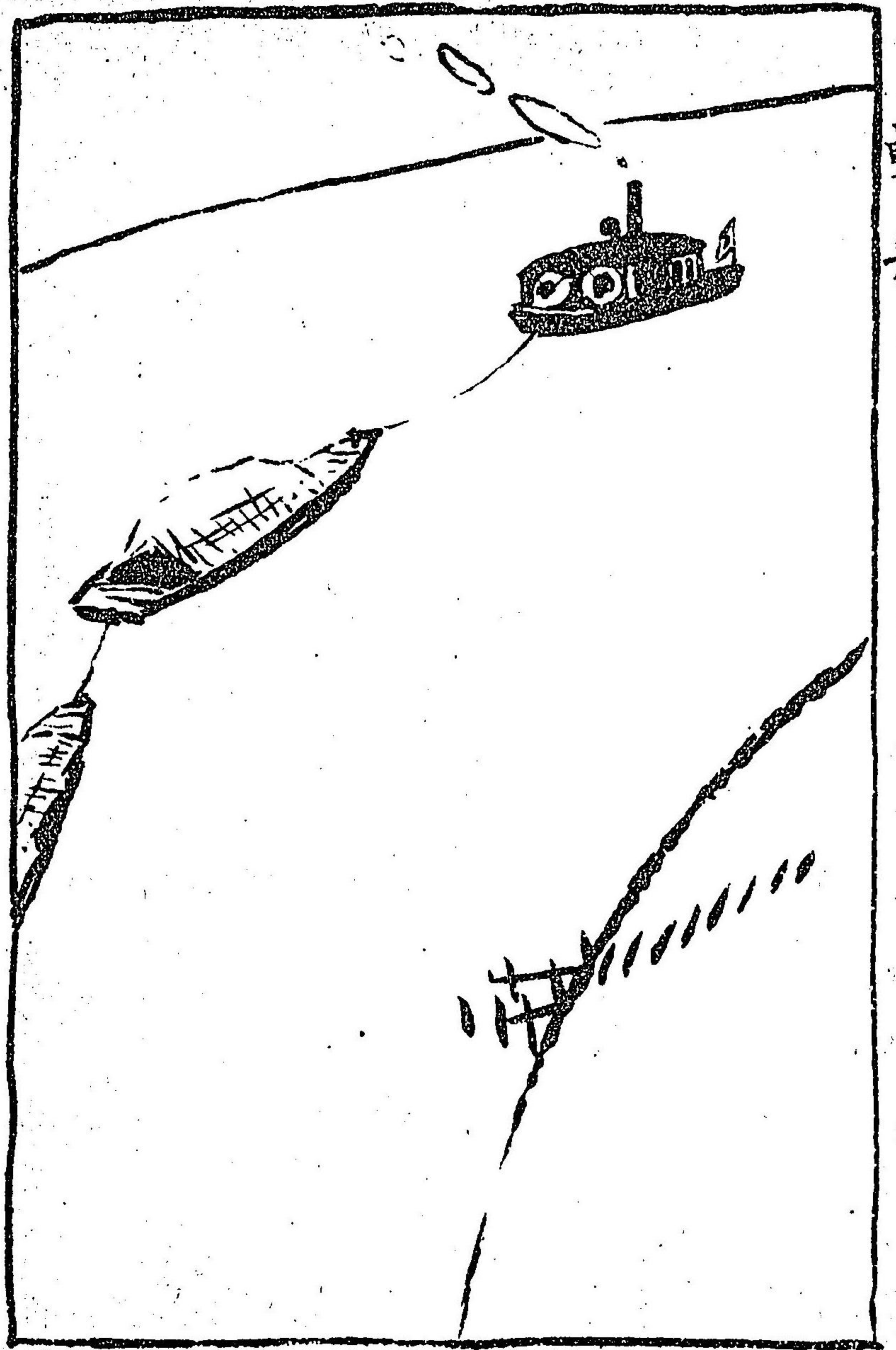
海邊



同又々子



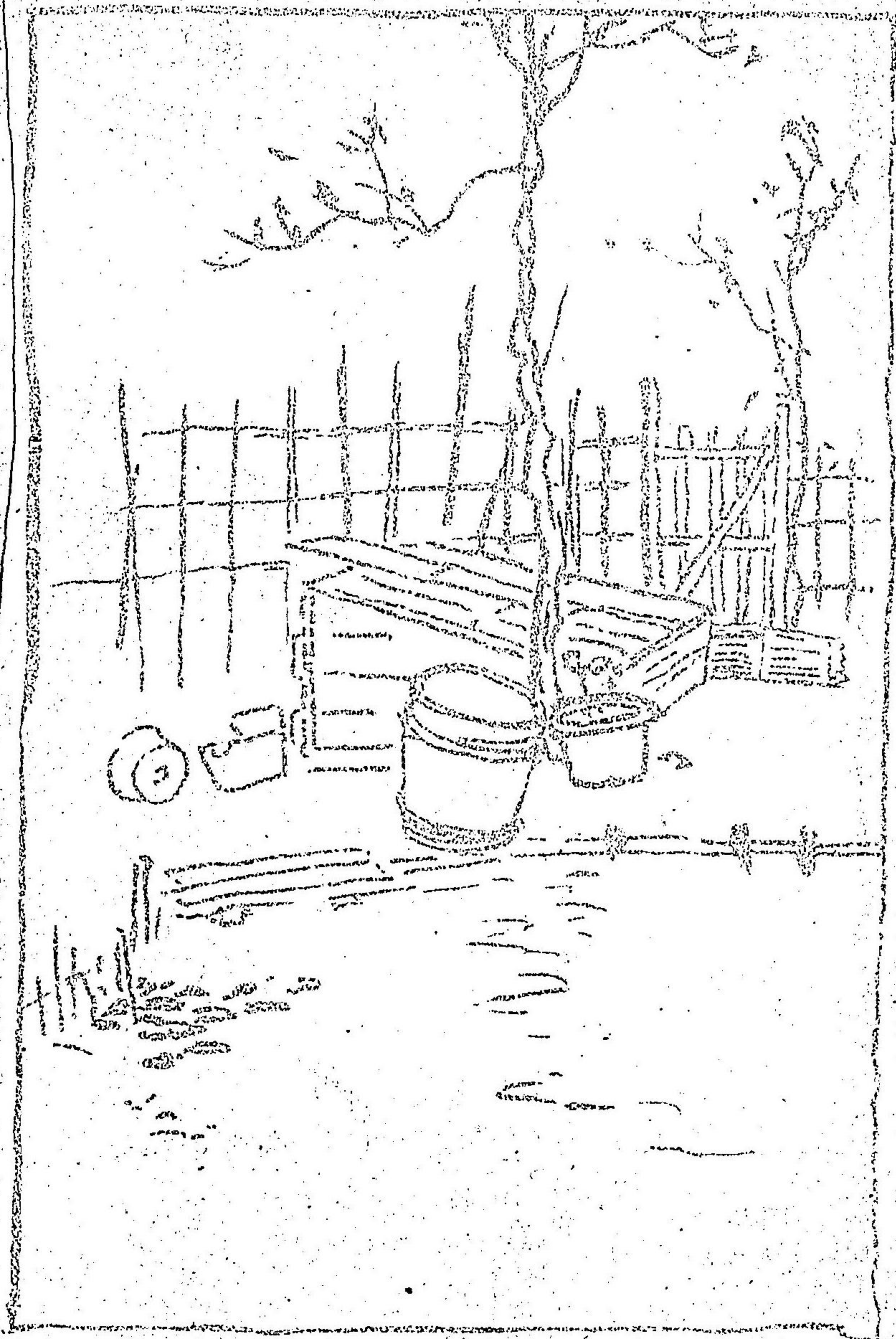
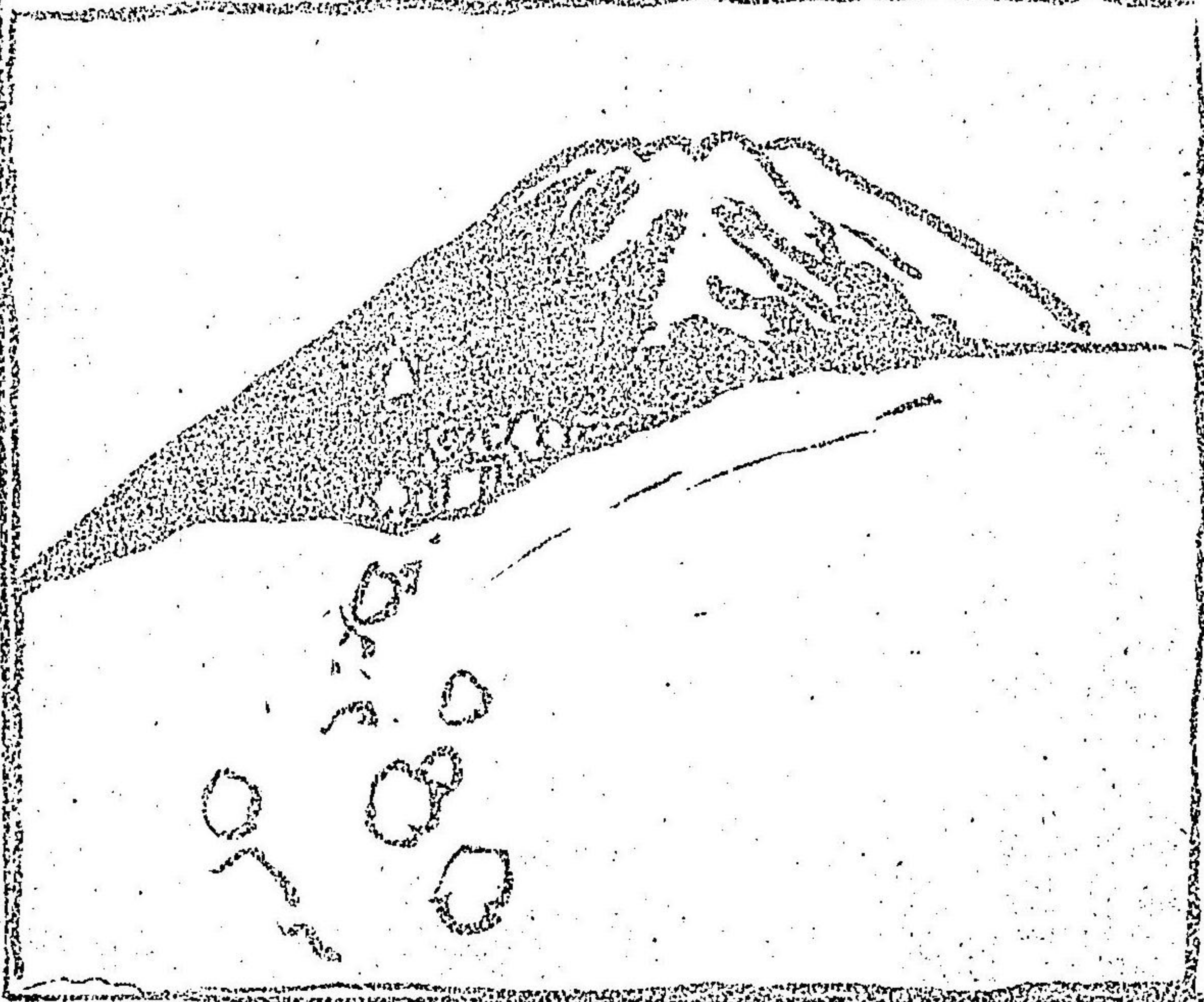
温泉ステーション



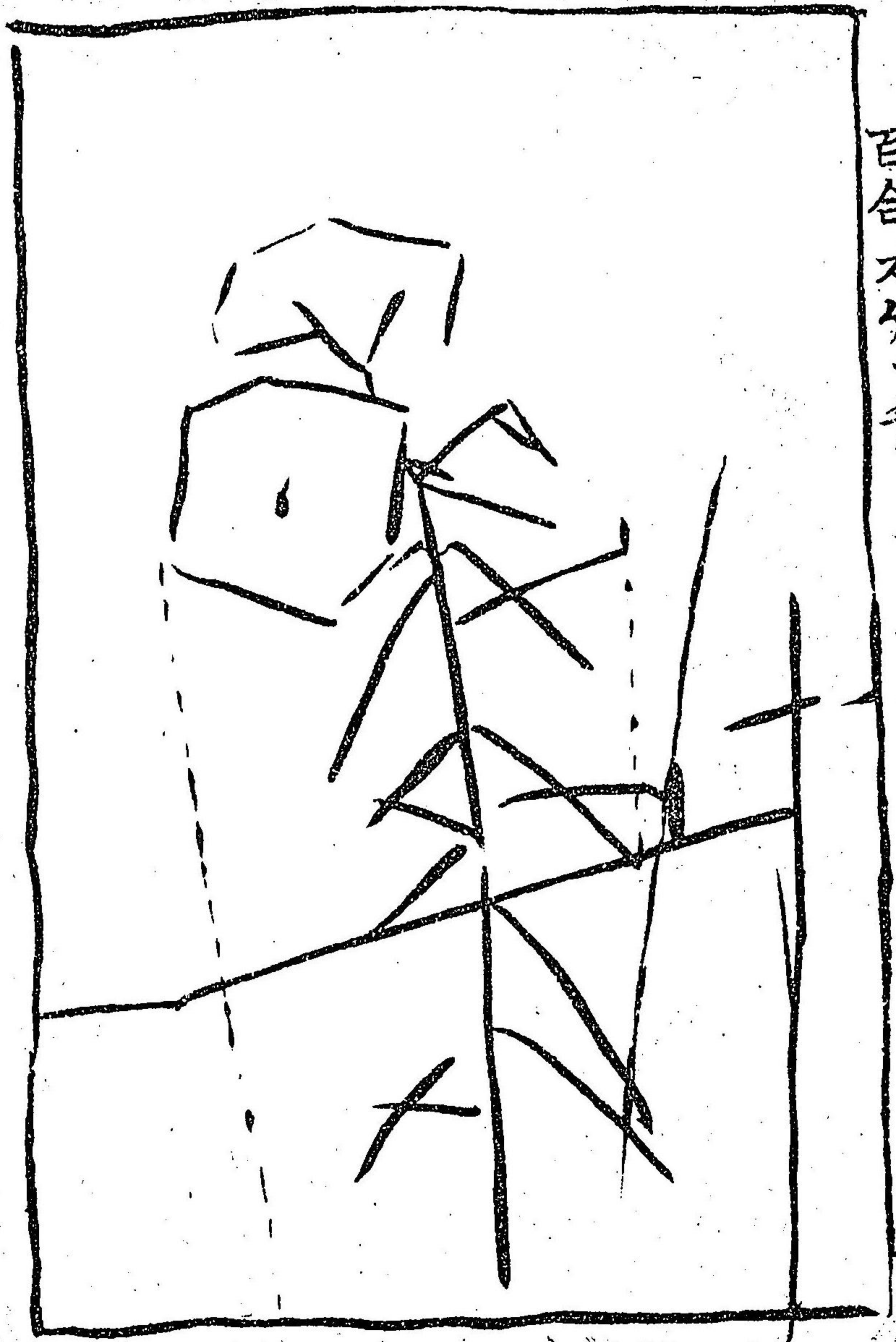
曳舟



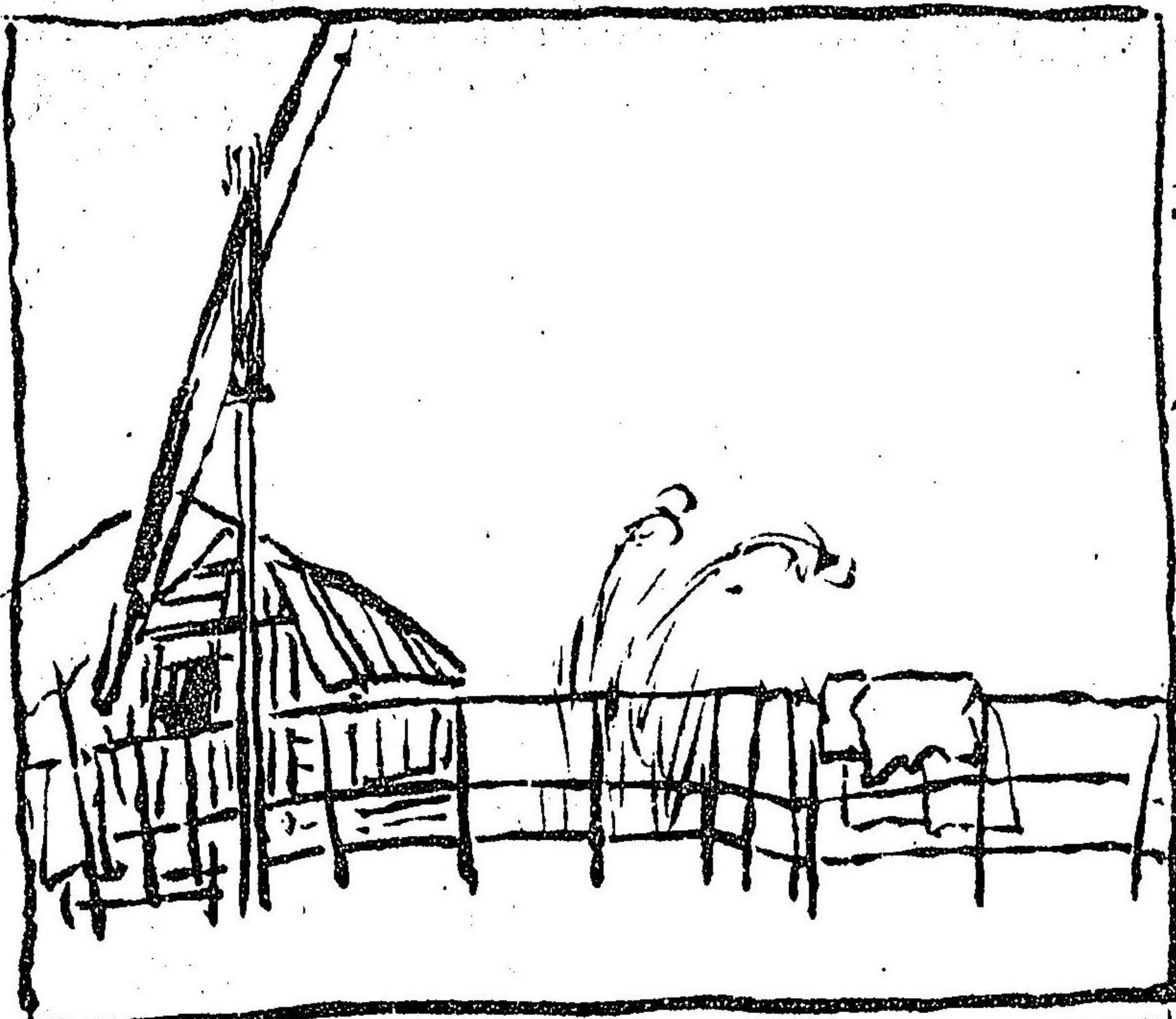
鷹



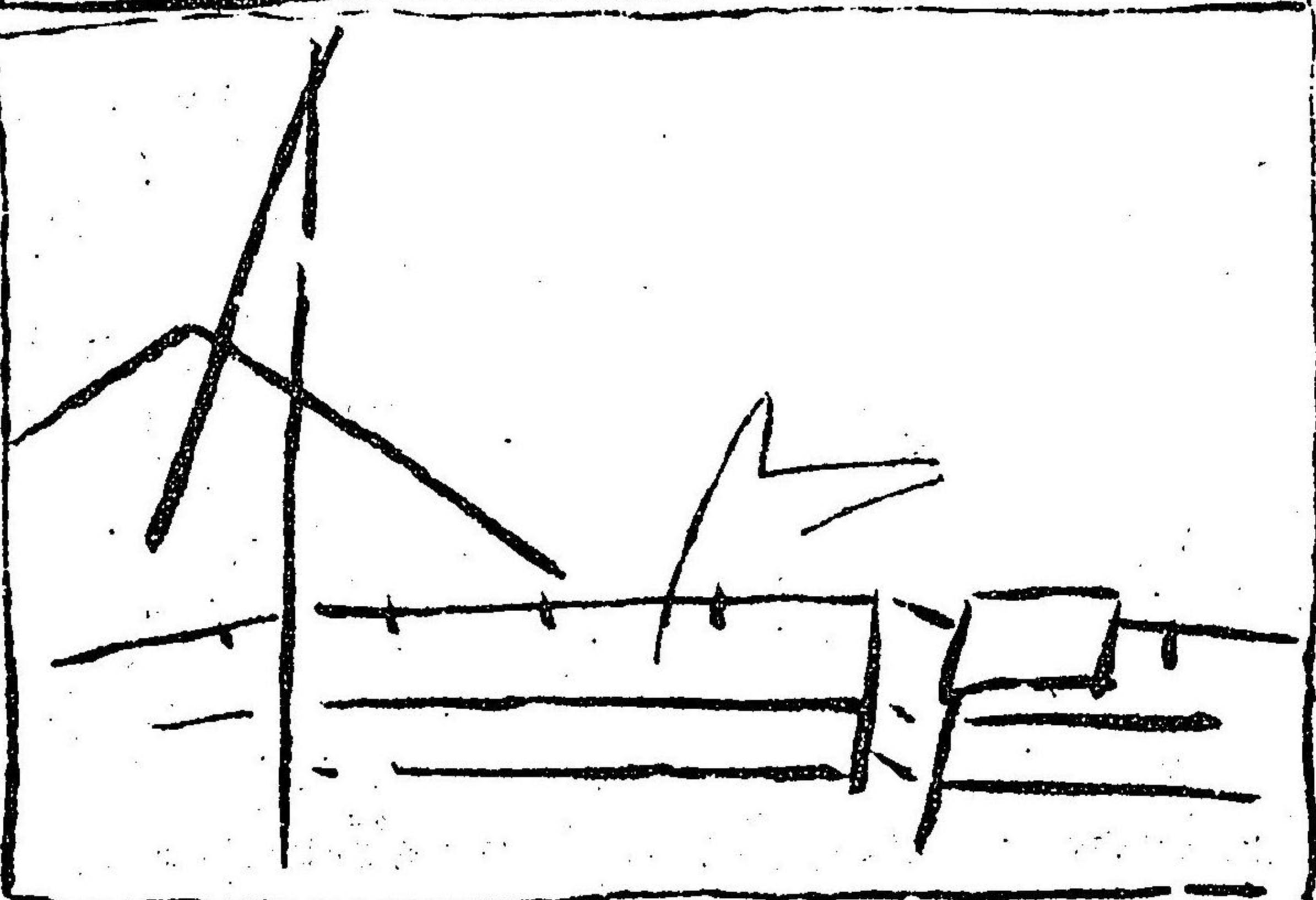
樓

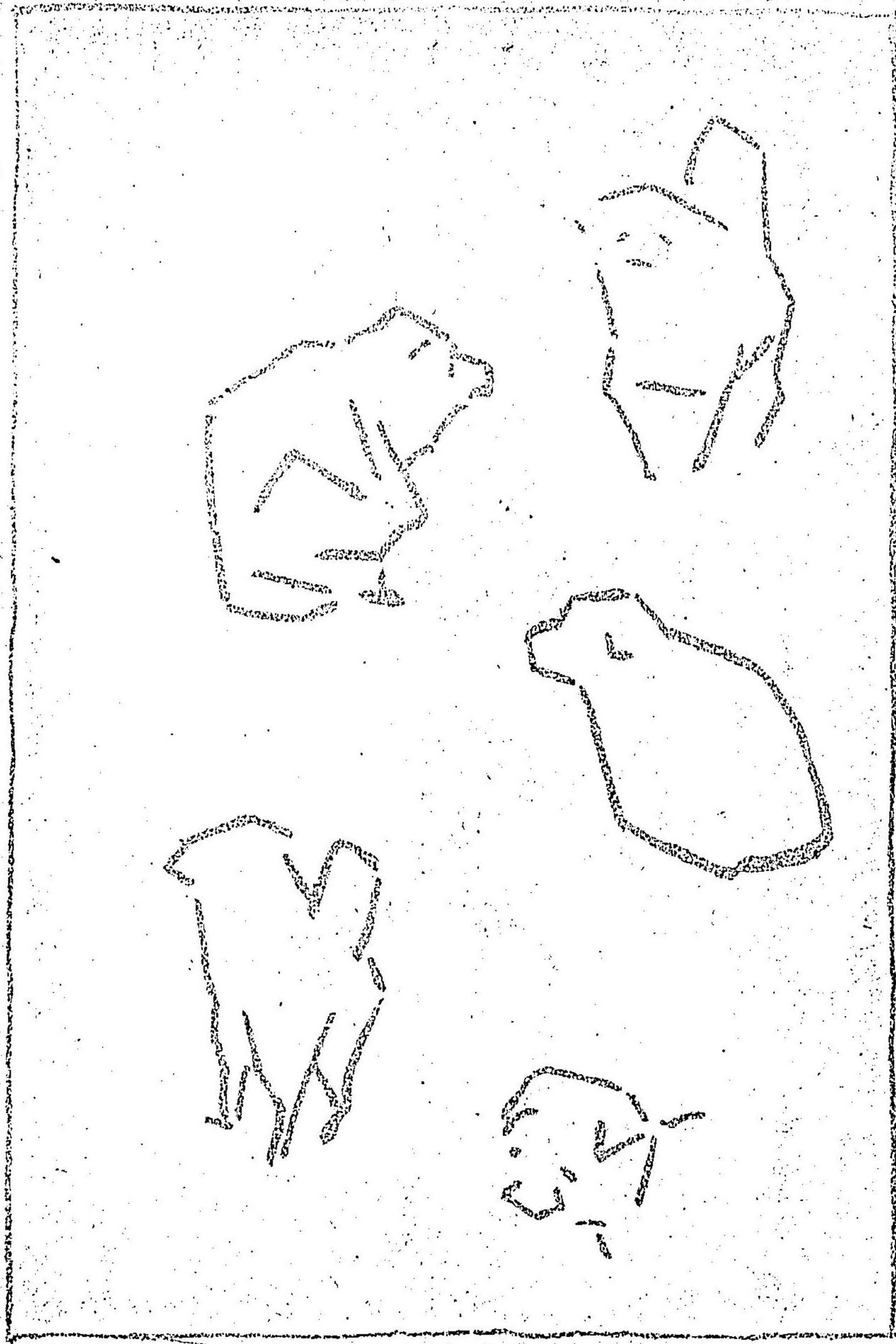
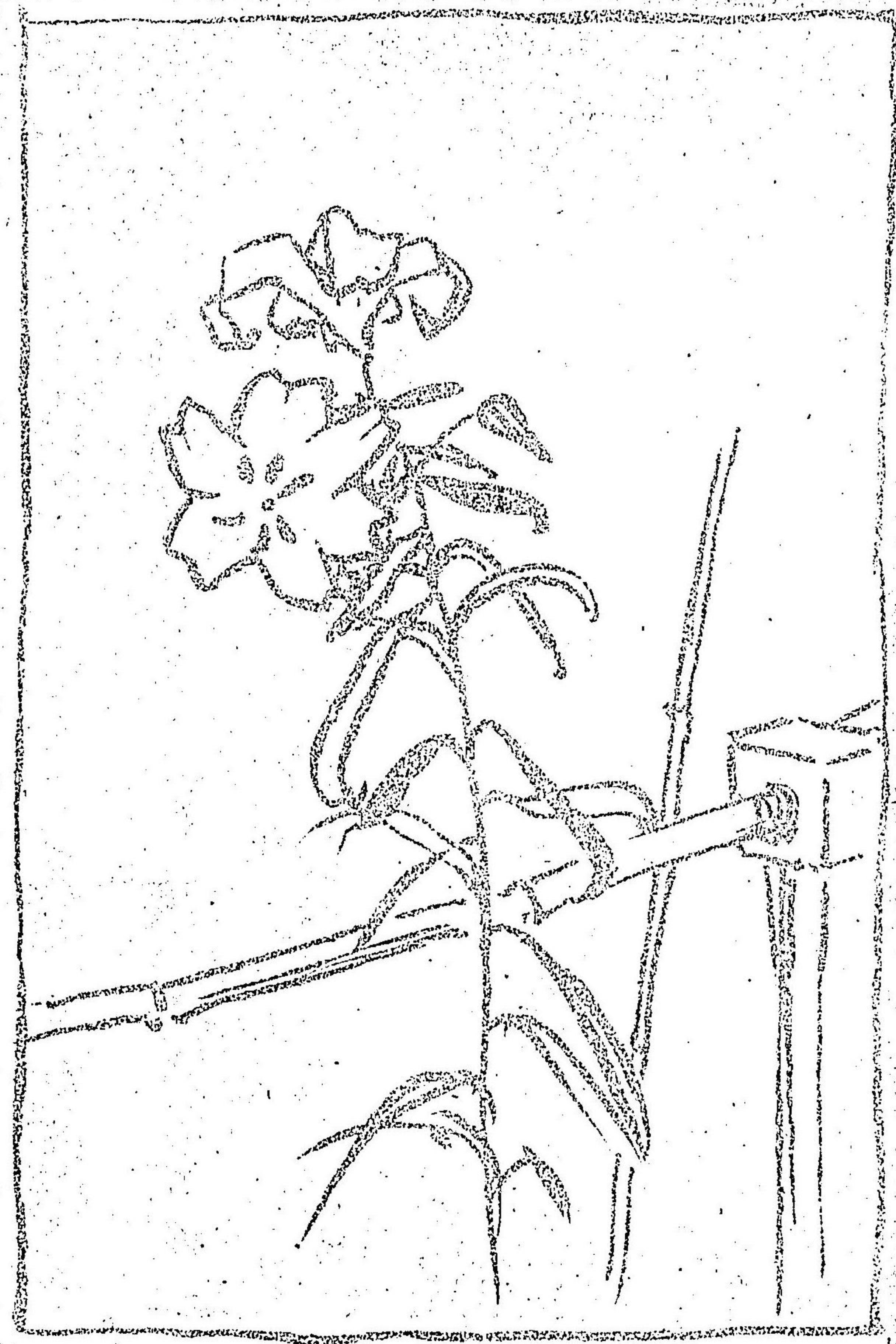


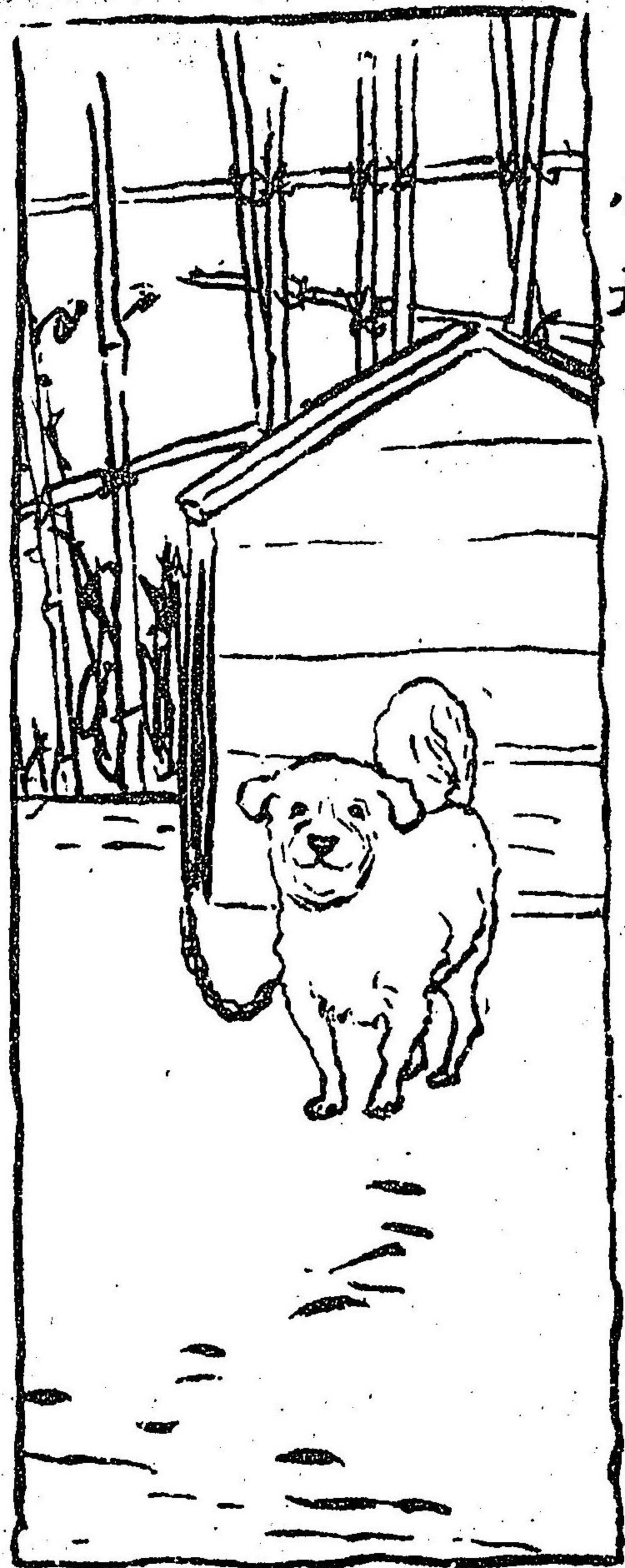
百合スケッチ



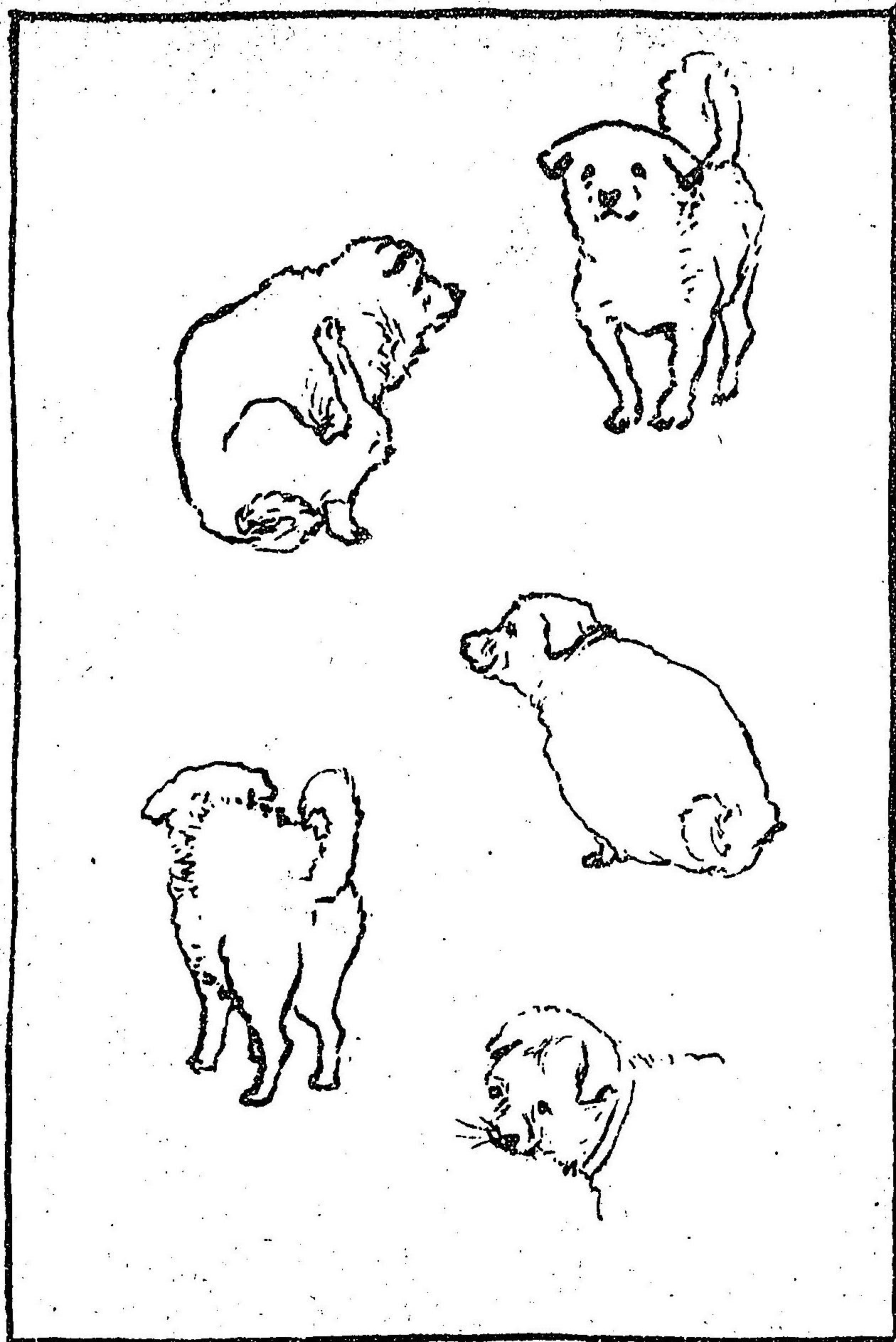
わら家



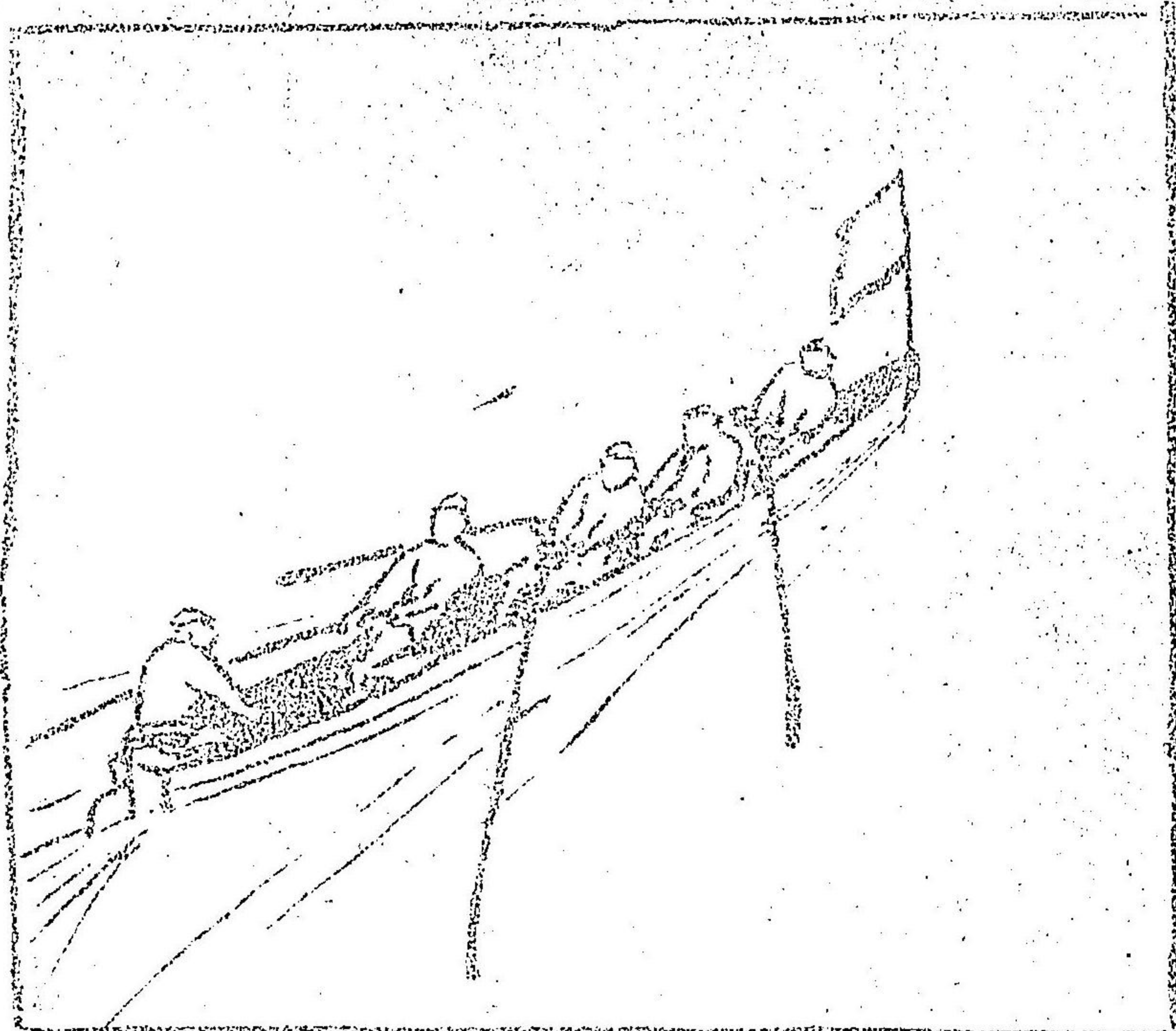




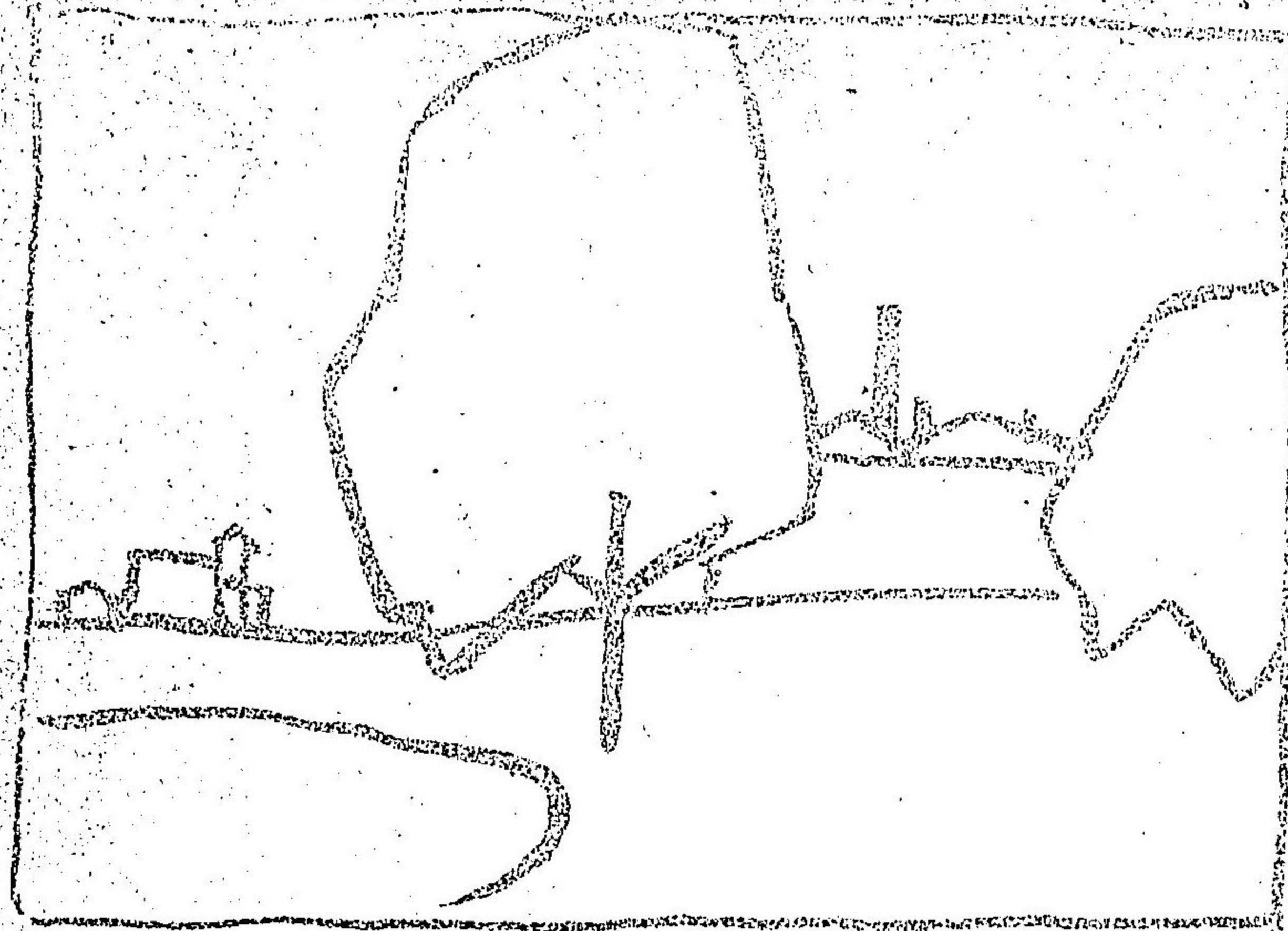
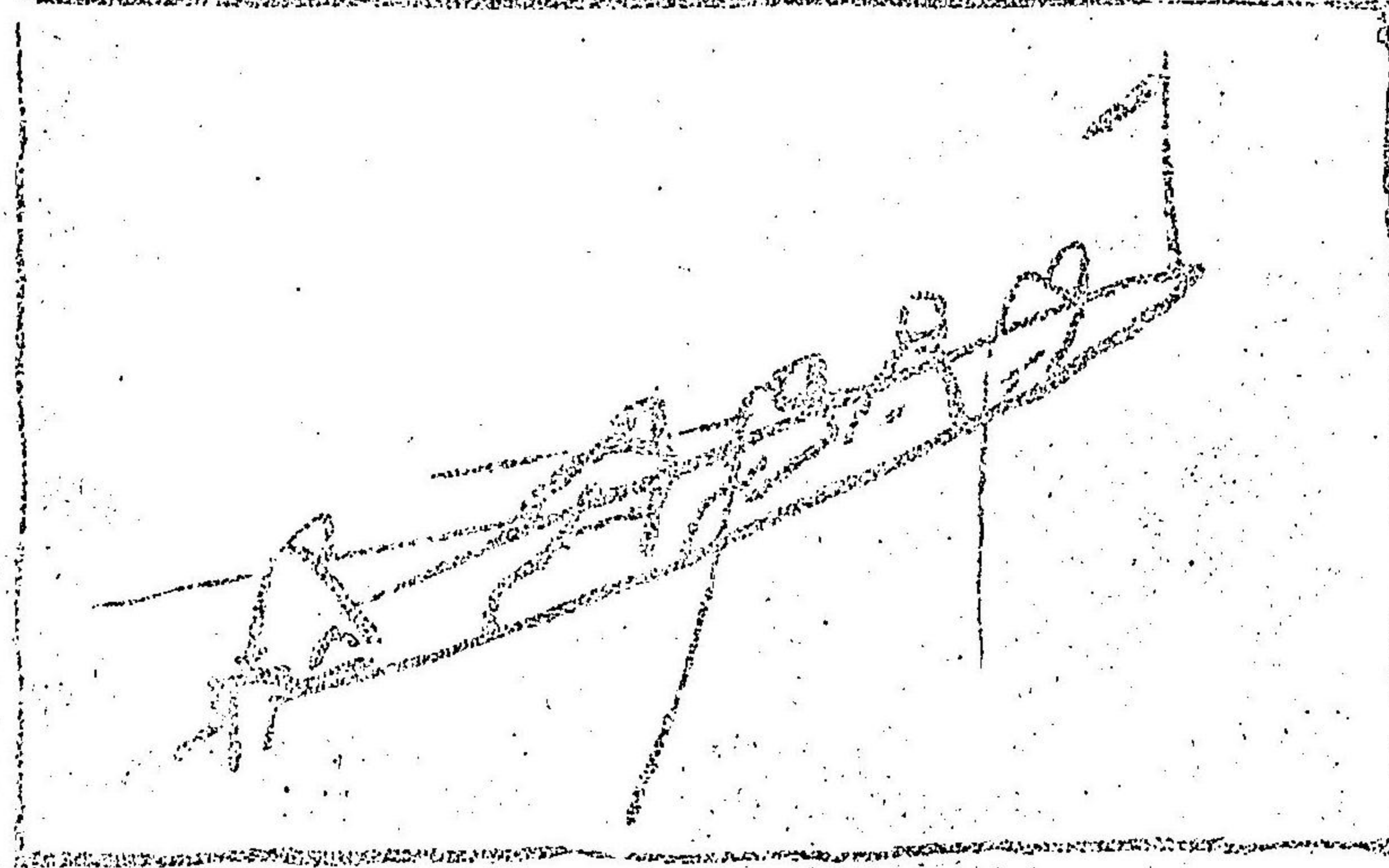
小犬



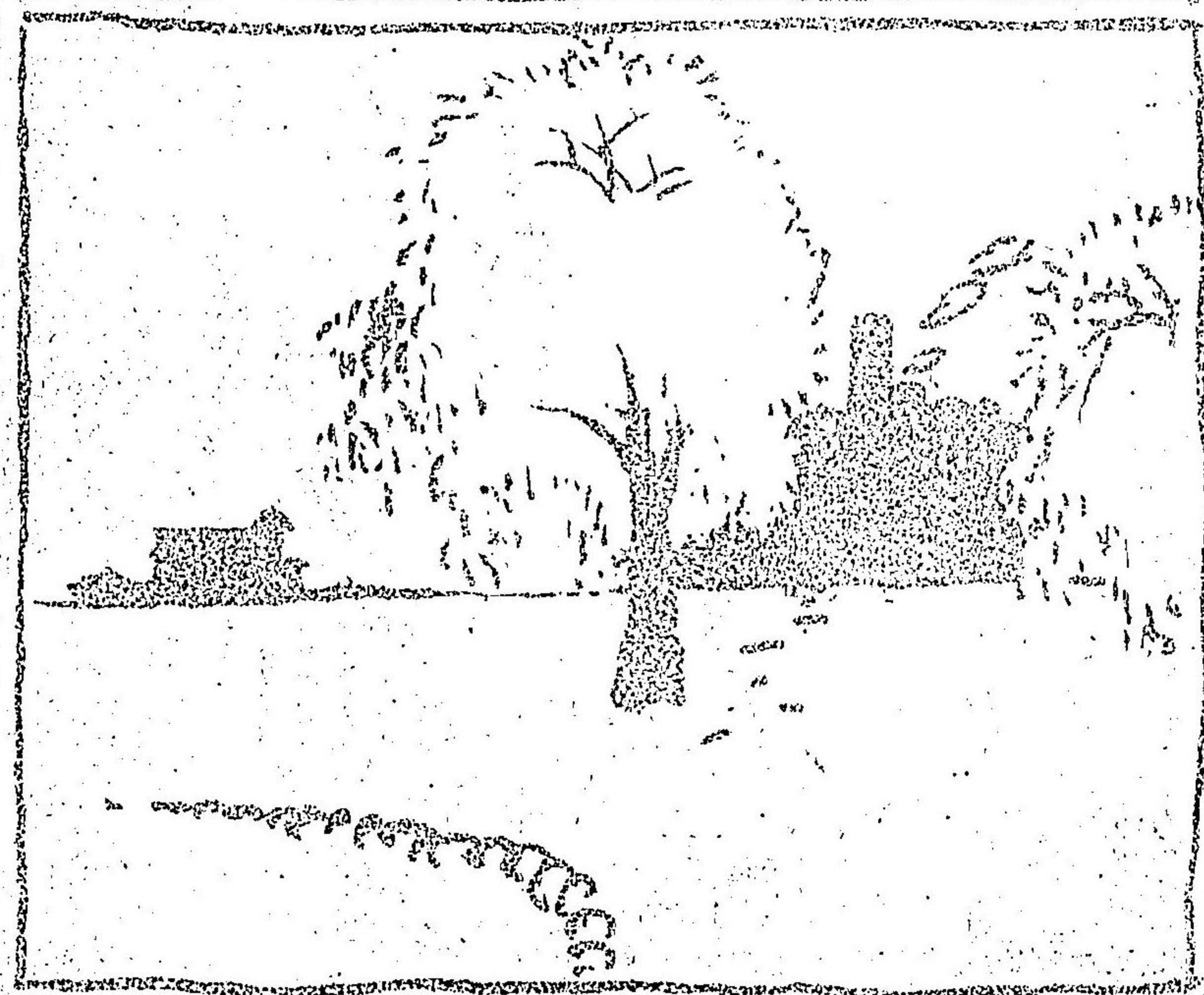
小犬スケッチの二



舟の図



土場





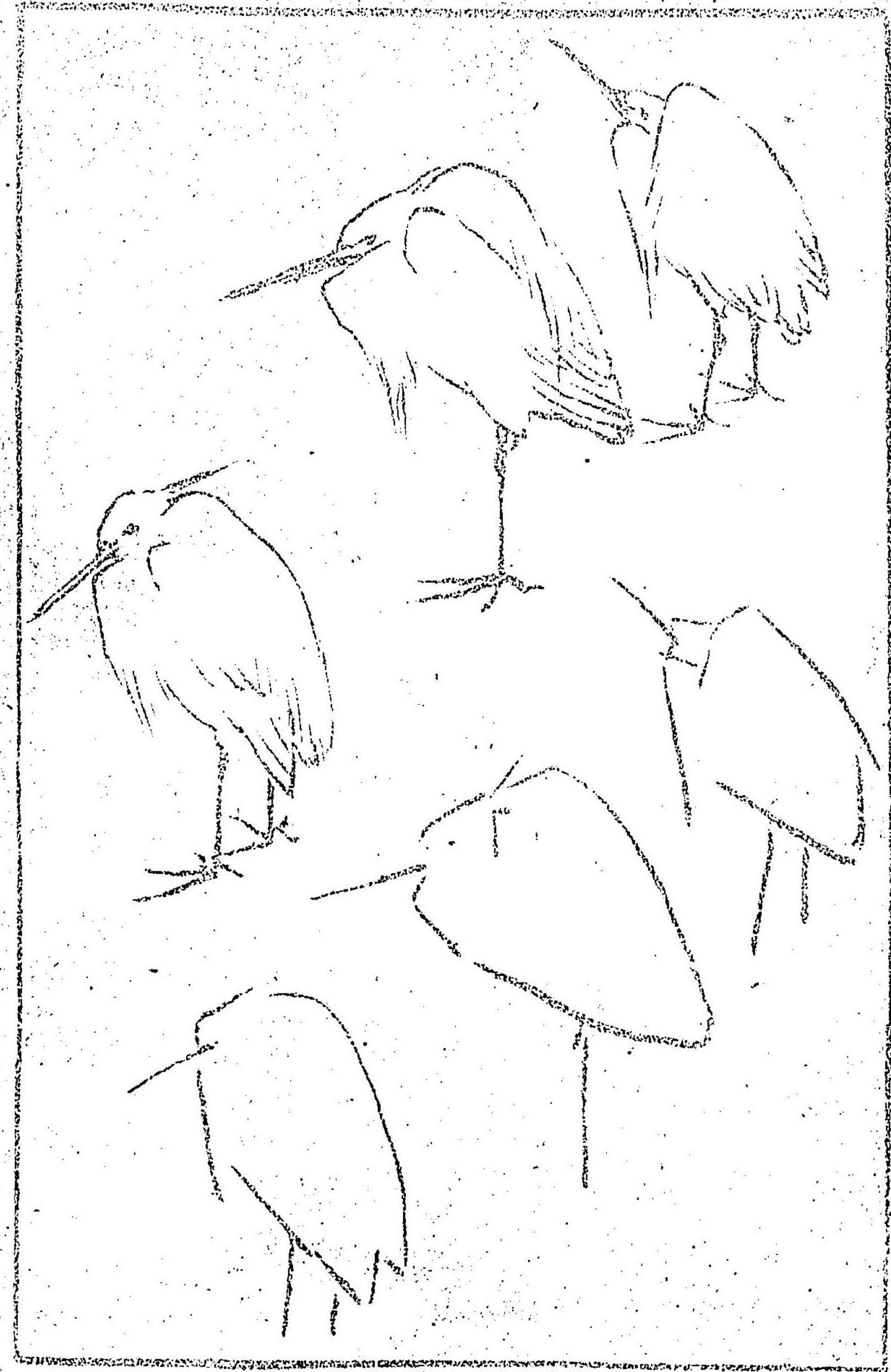
待合せ



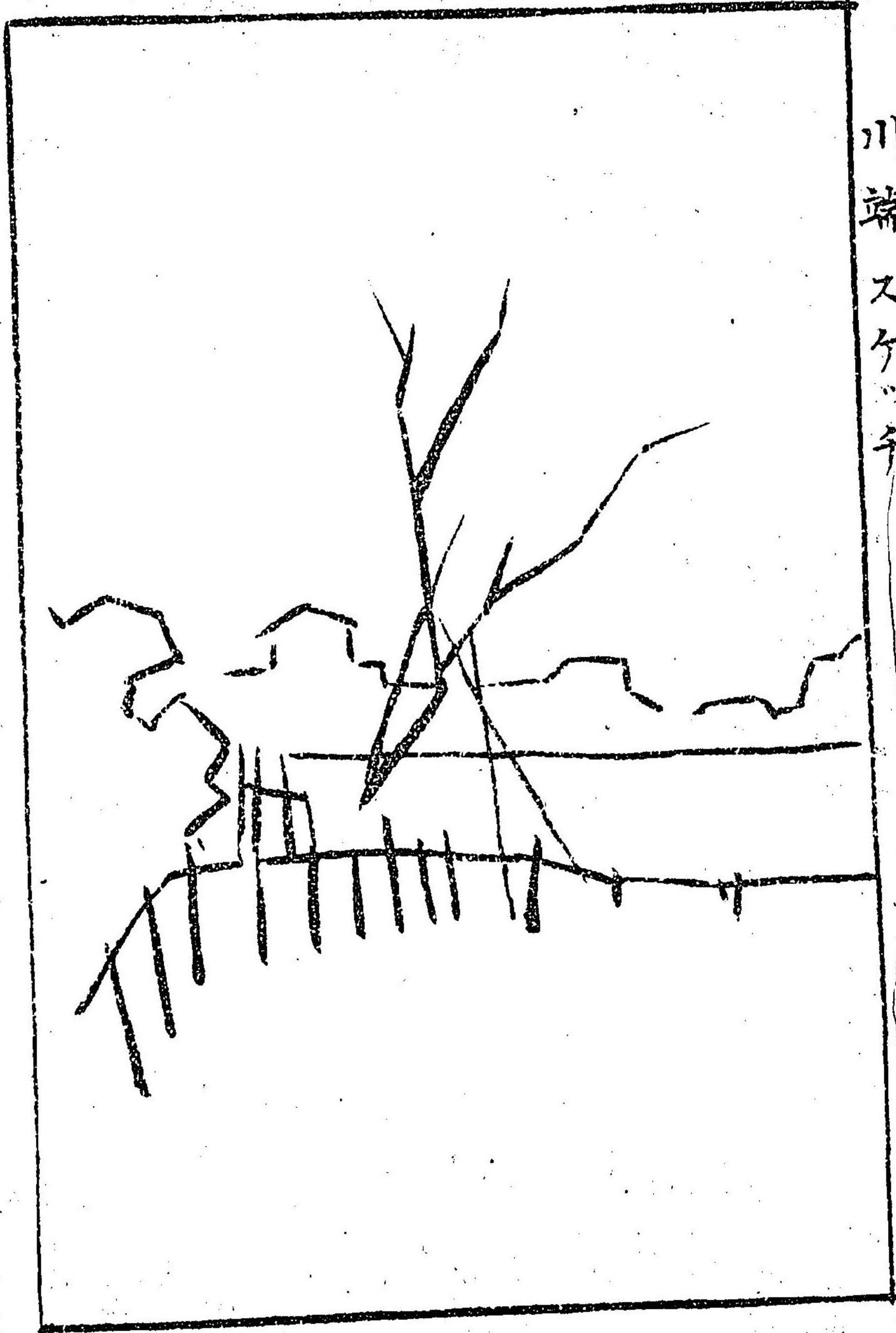
待合せスケツチ



木かげ スケツキ



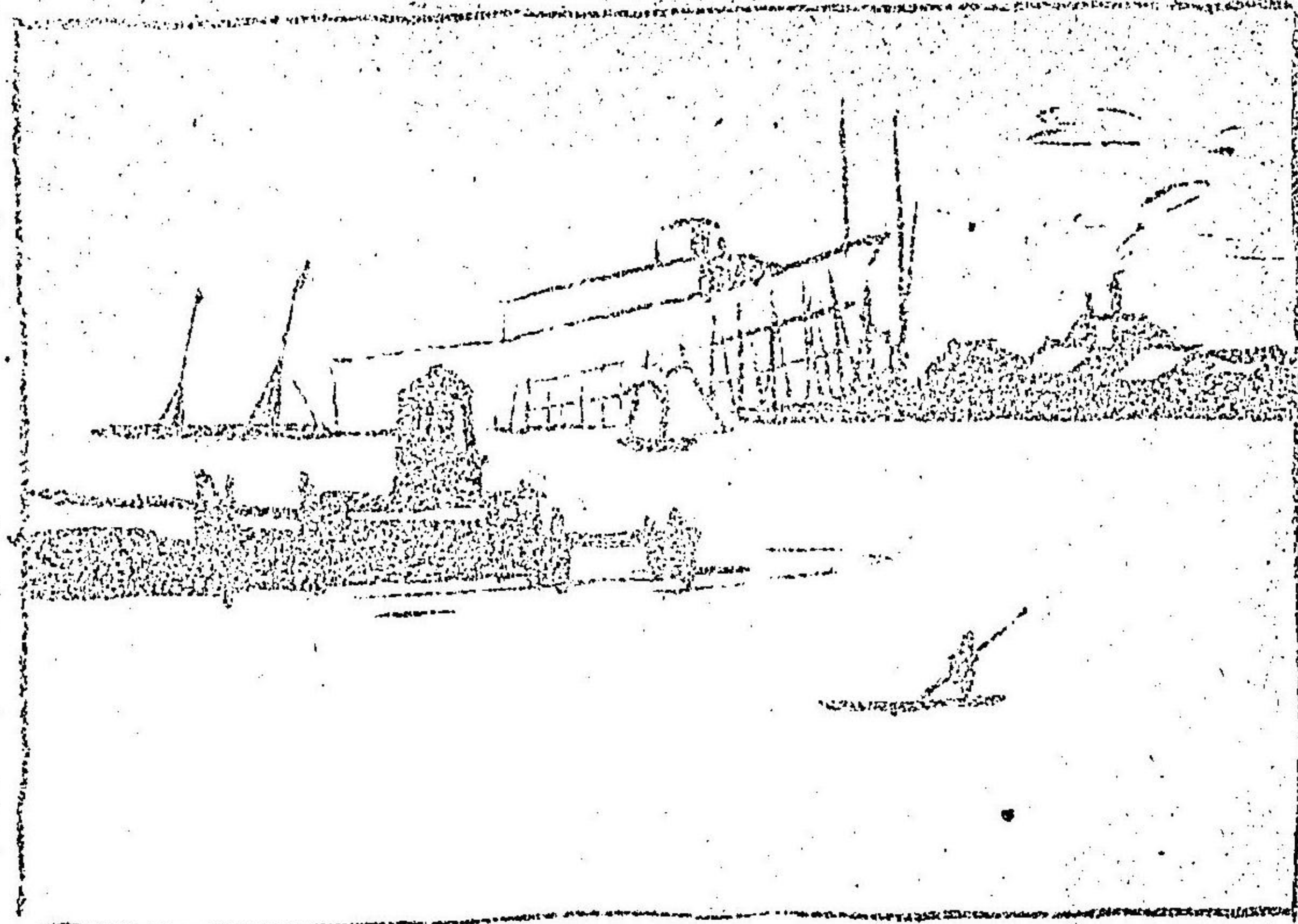
鳥



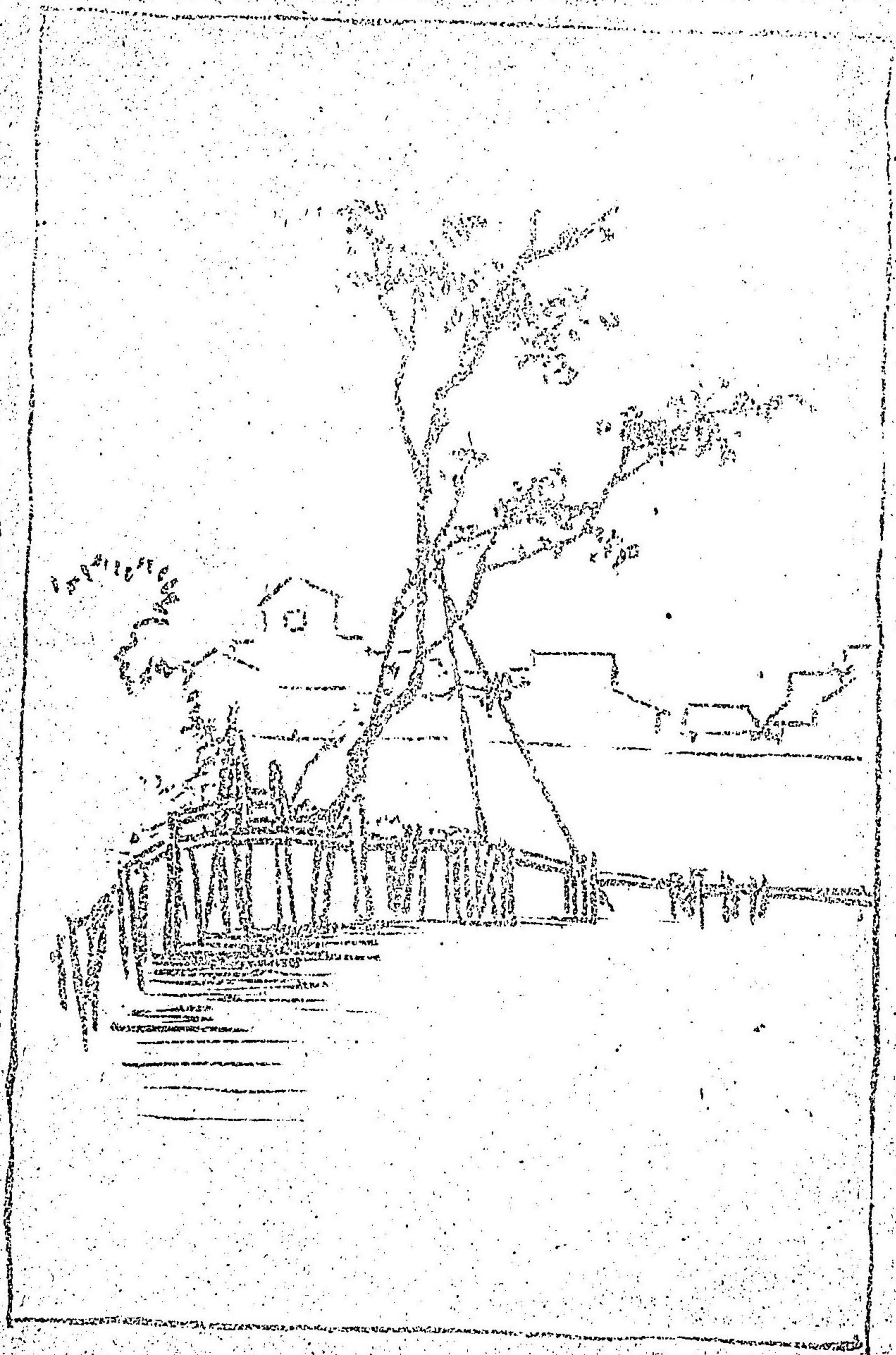
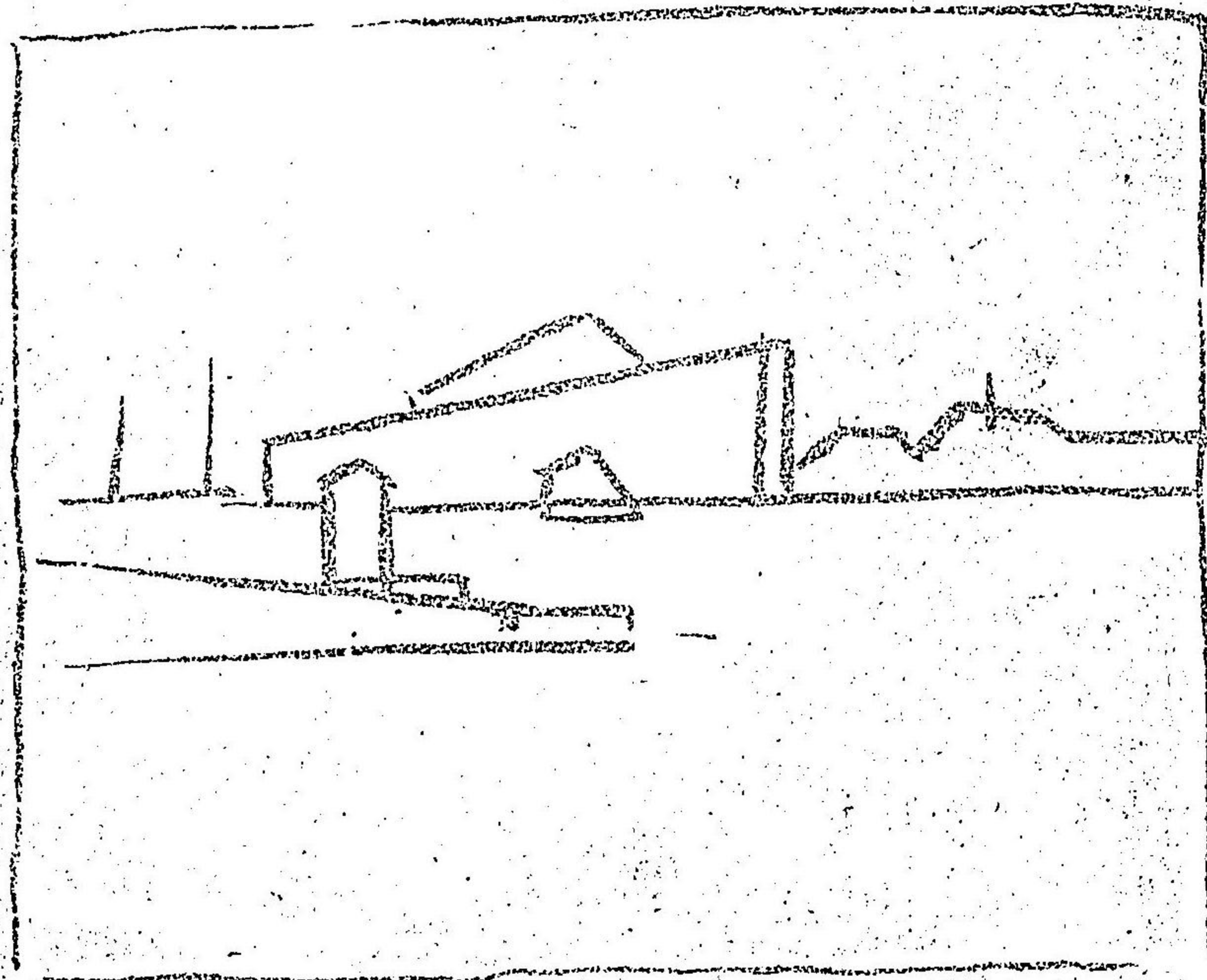
川端スケツキ



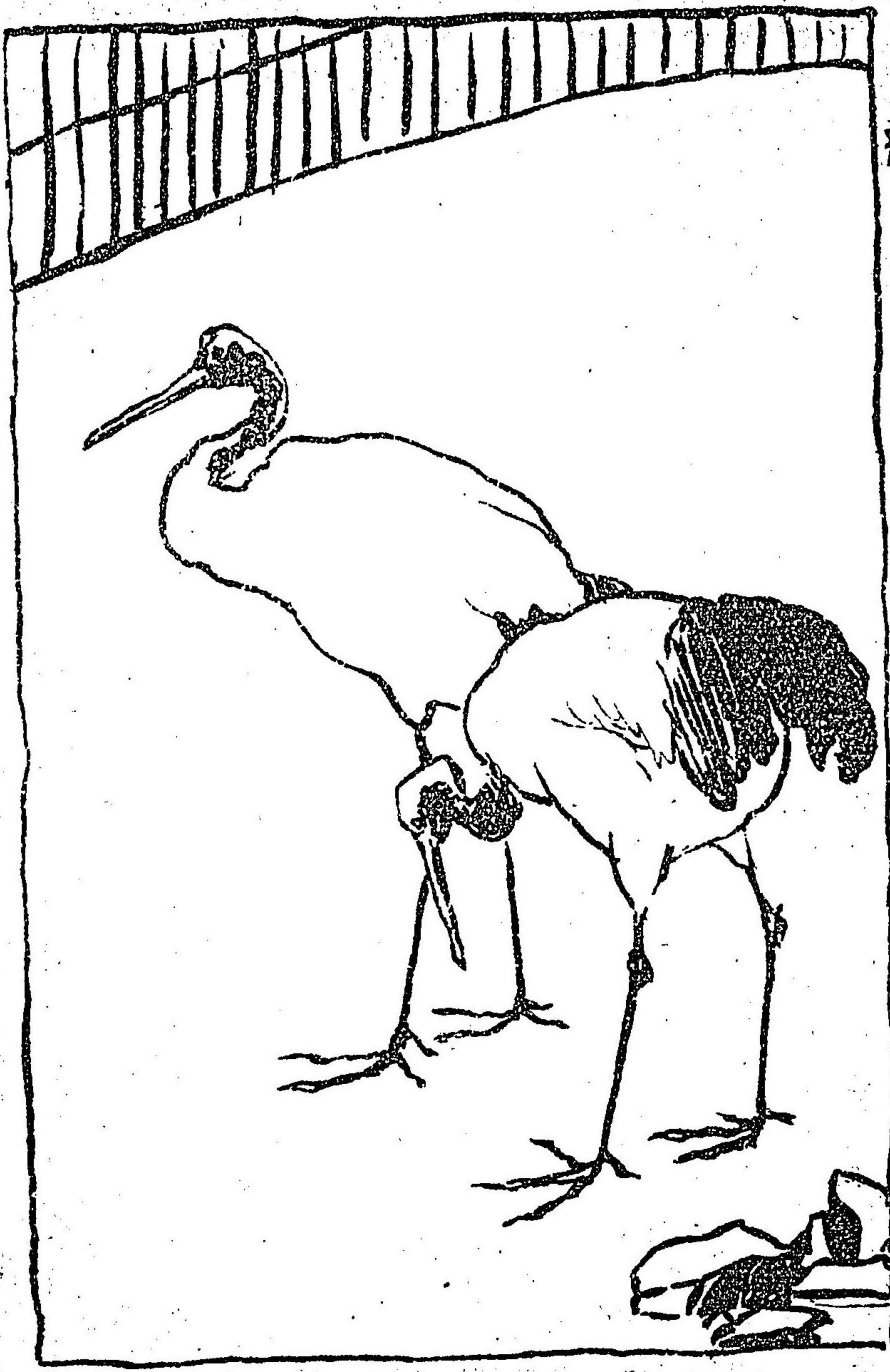
木かげ



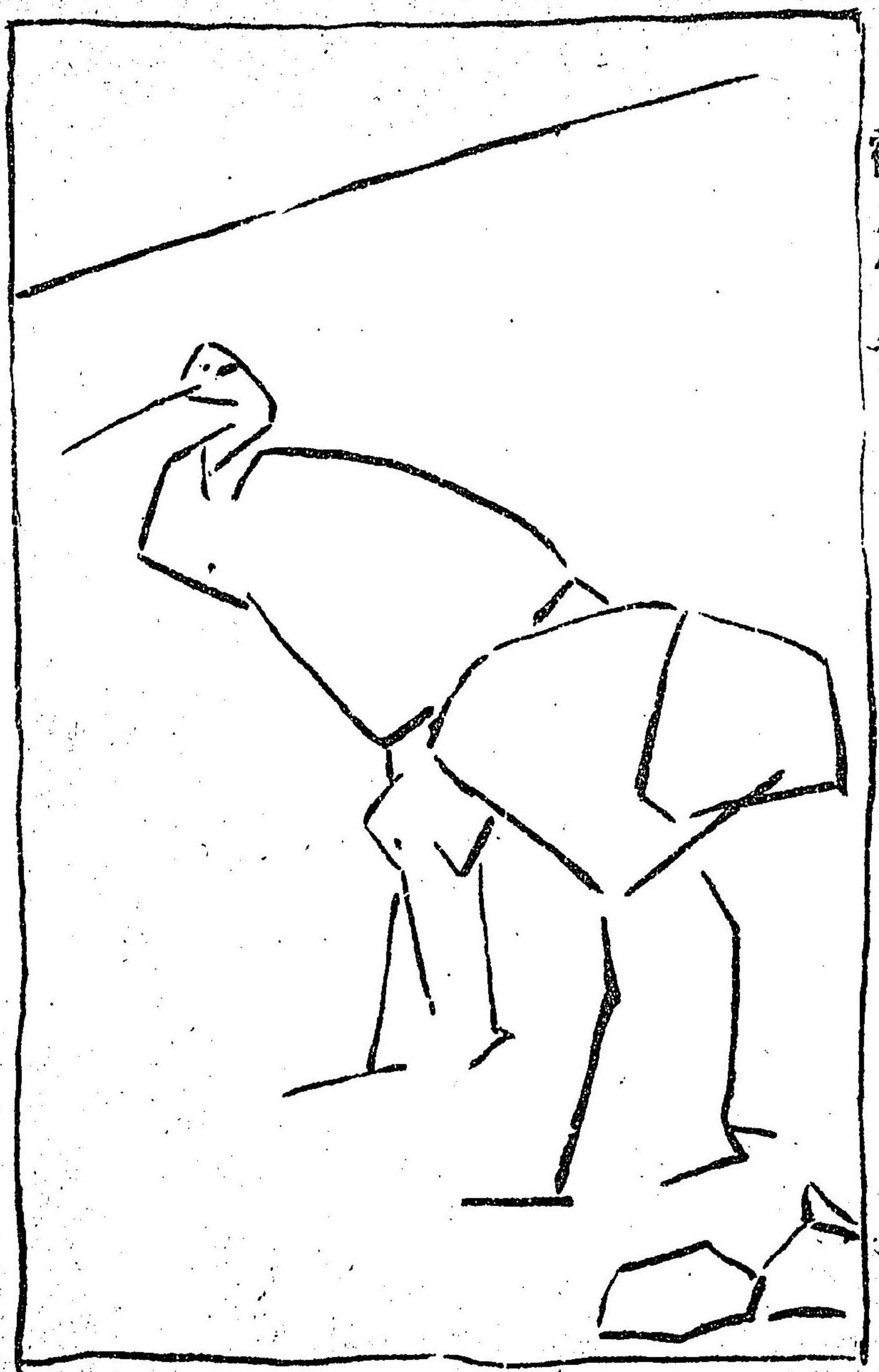
造船所



山

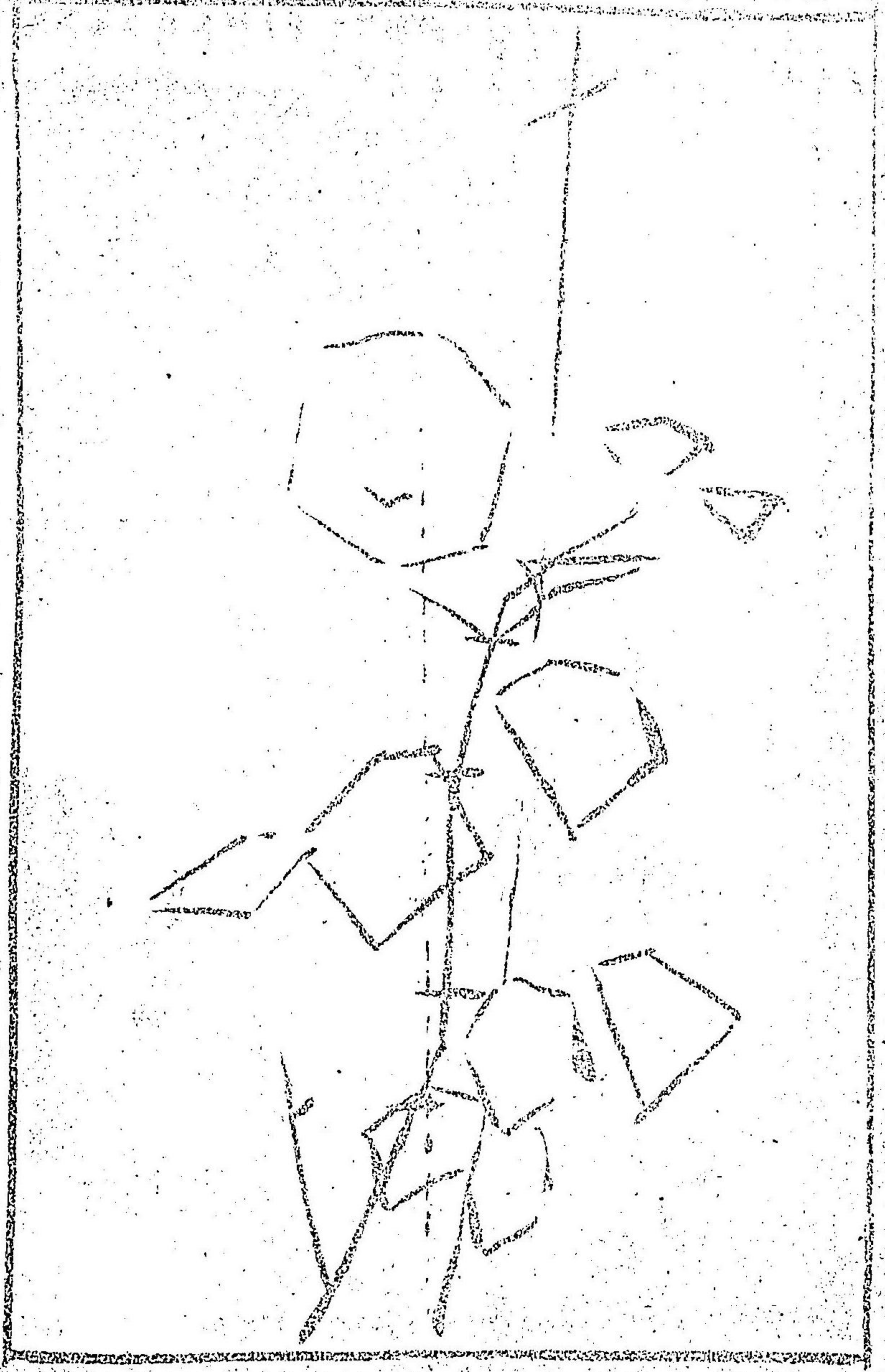


鶴



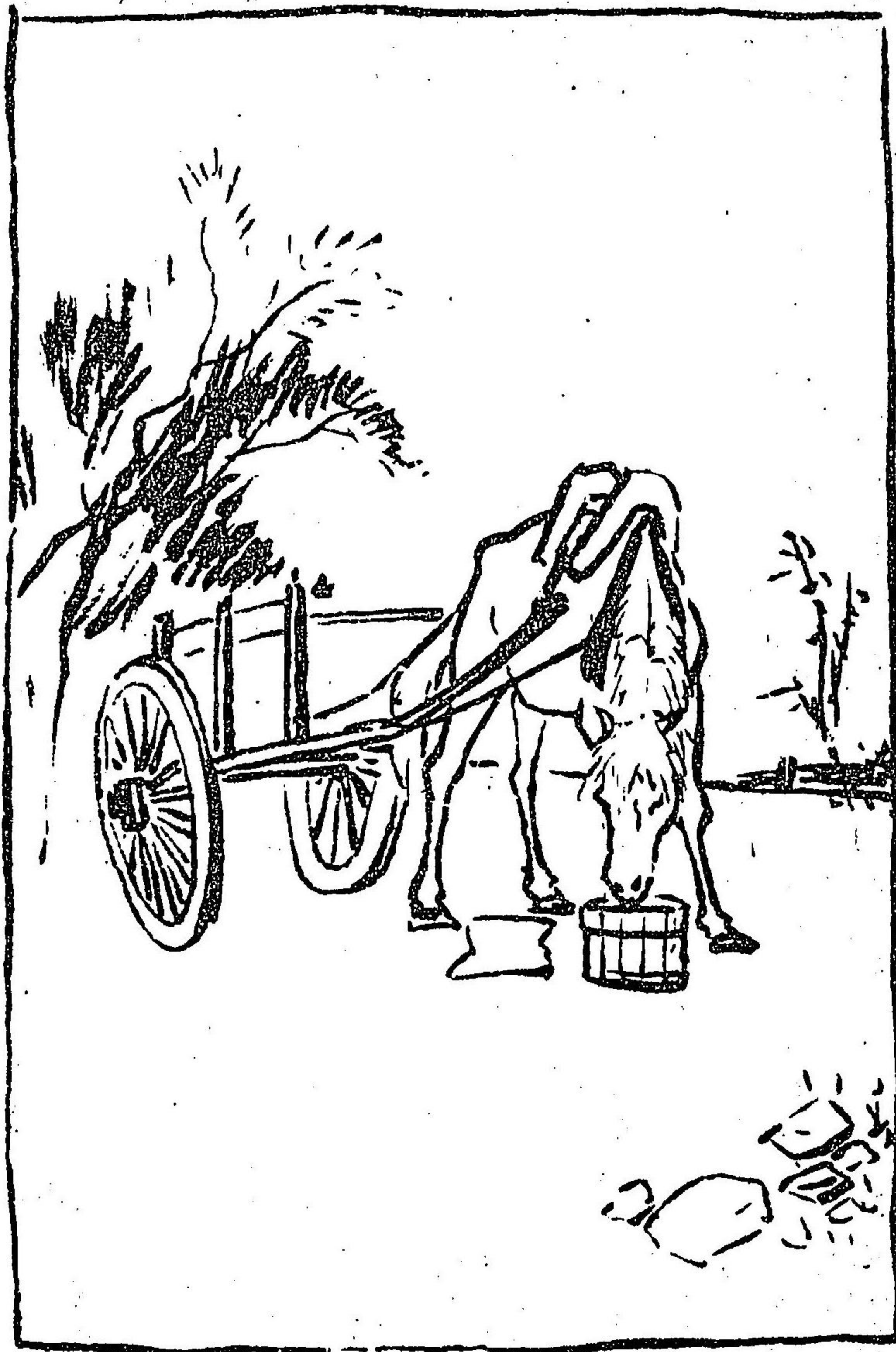
鶴
スケッチ

秋のははスゲツキ

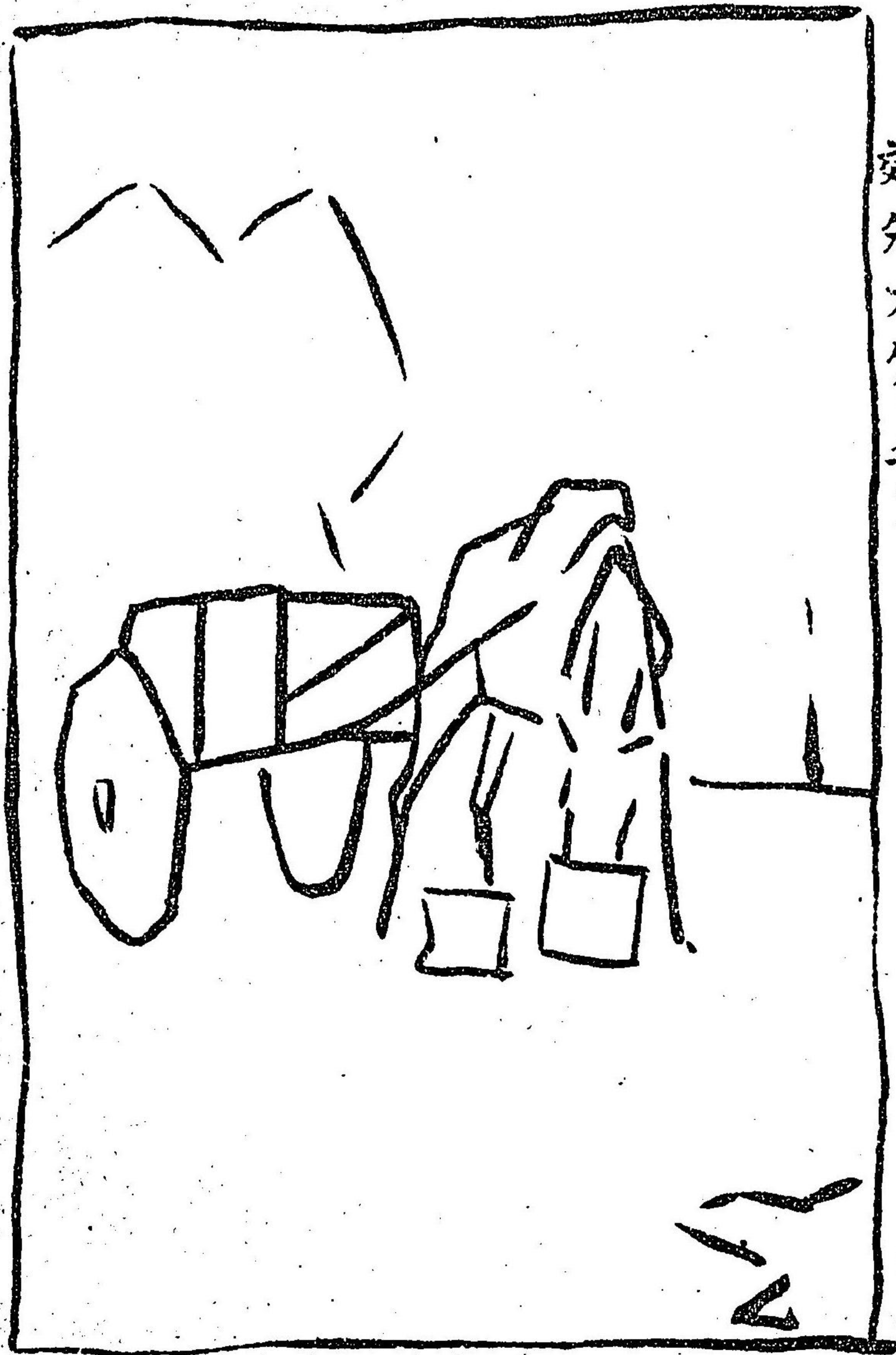


秋のはは

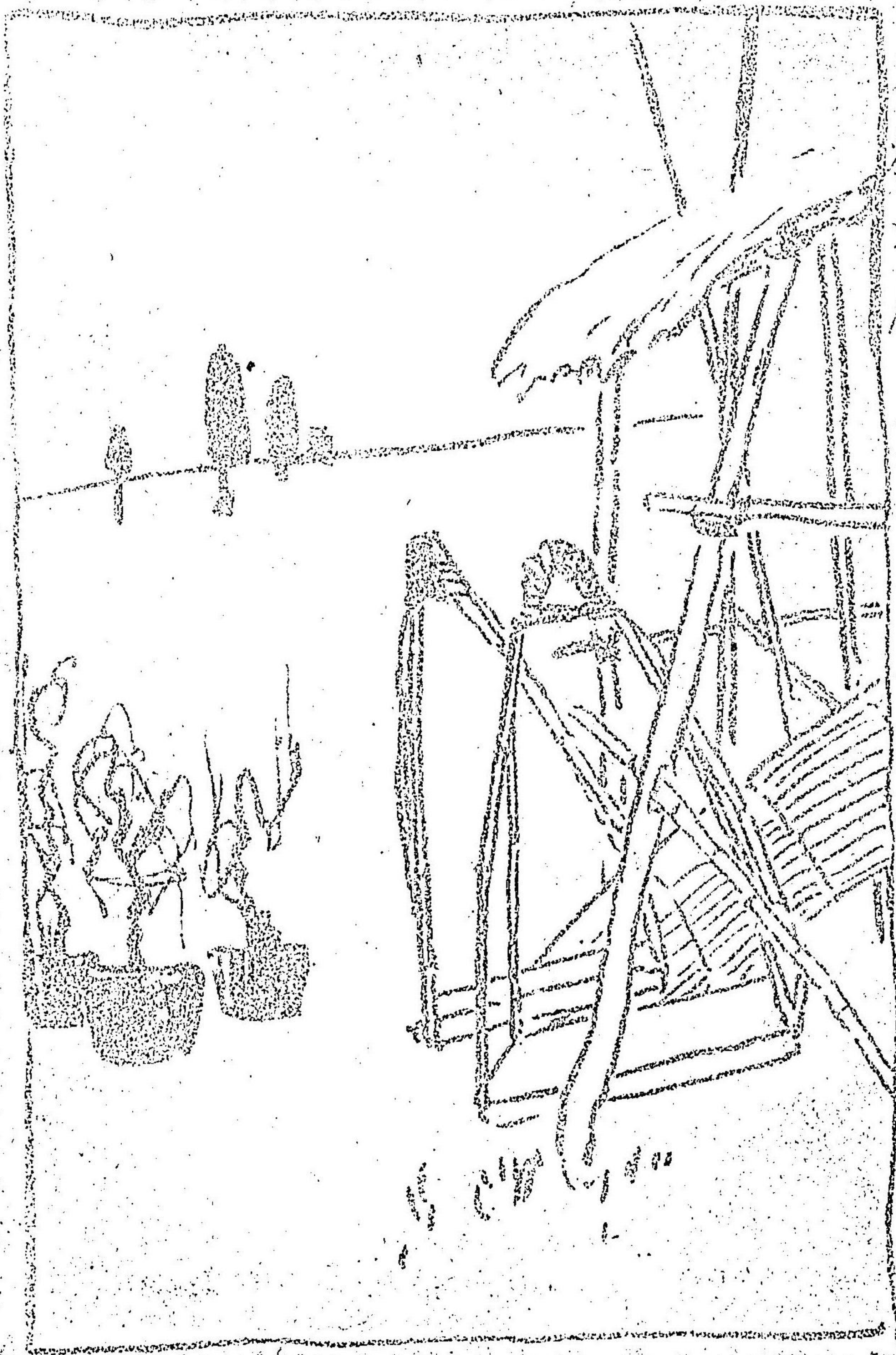




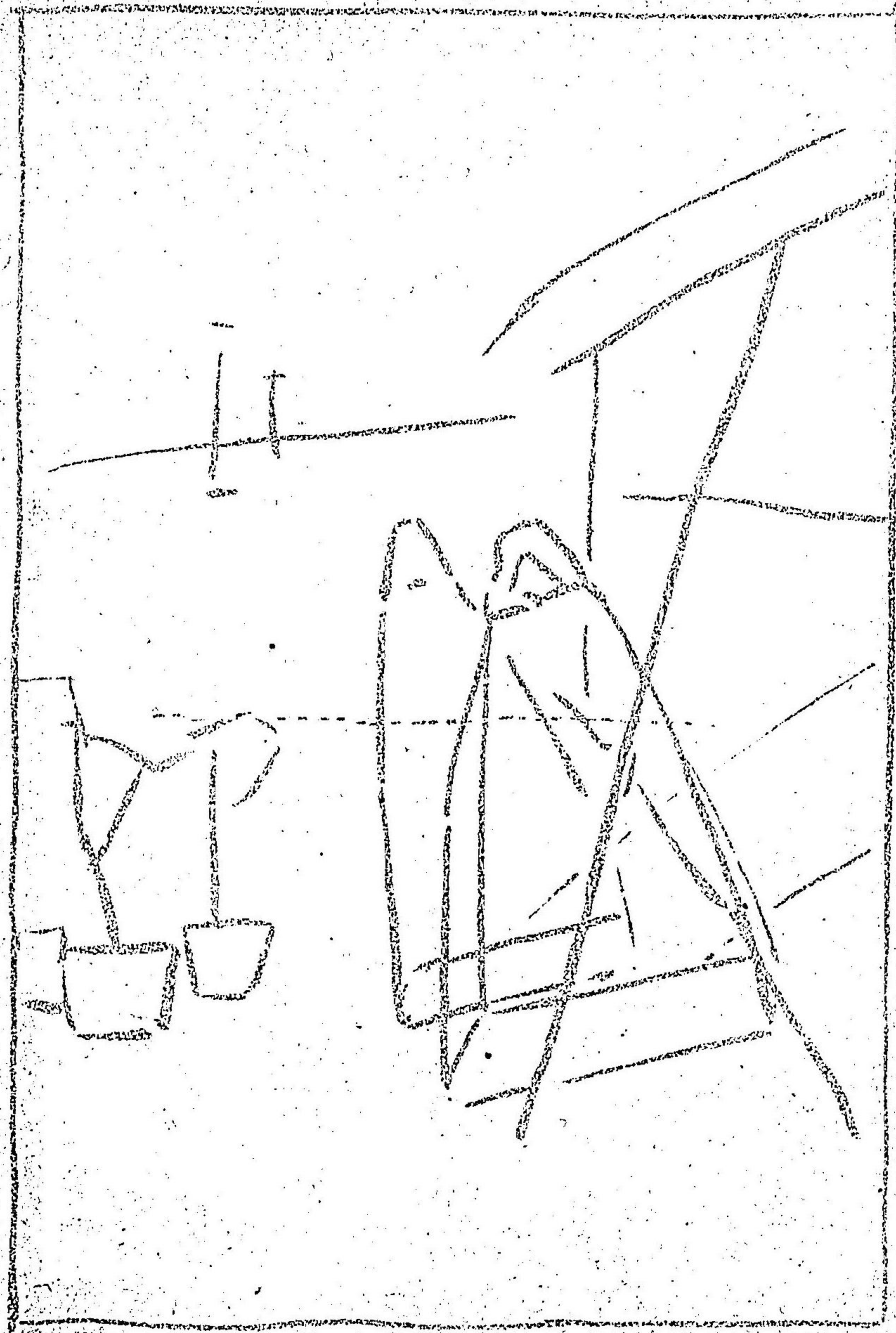
郊外



郊外スケッチ



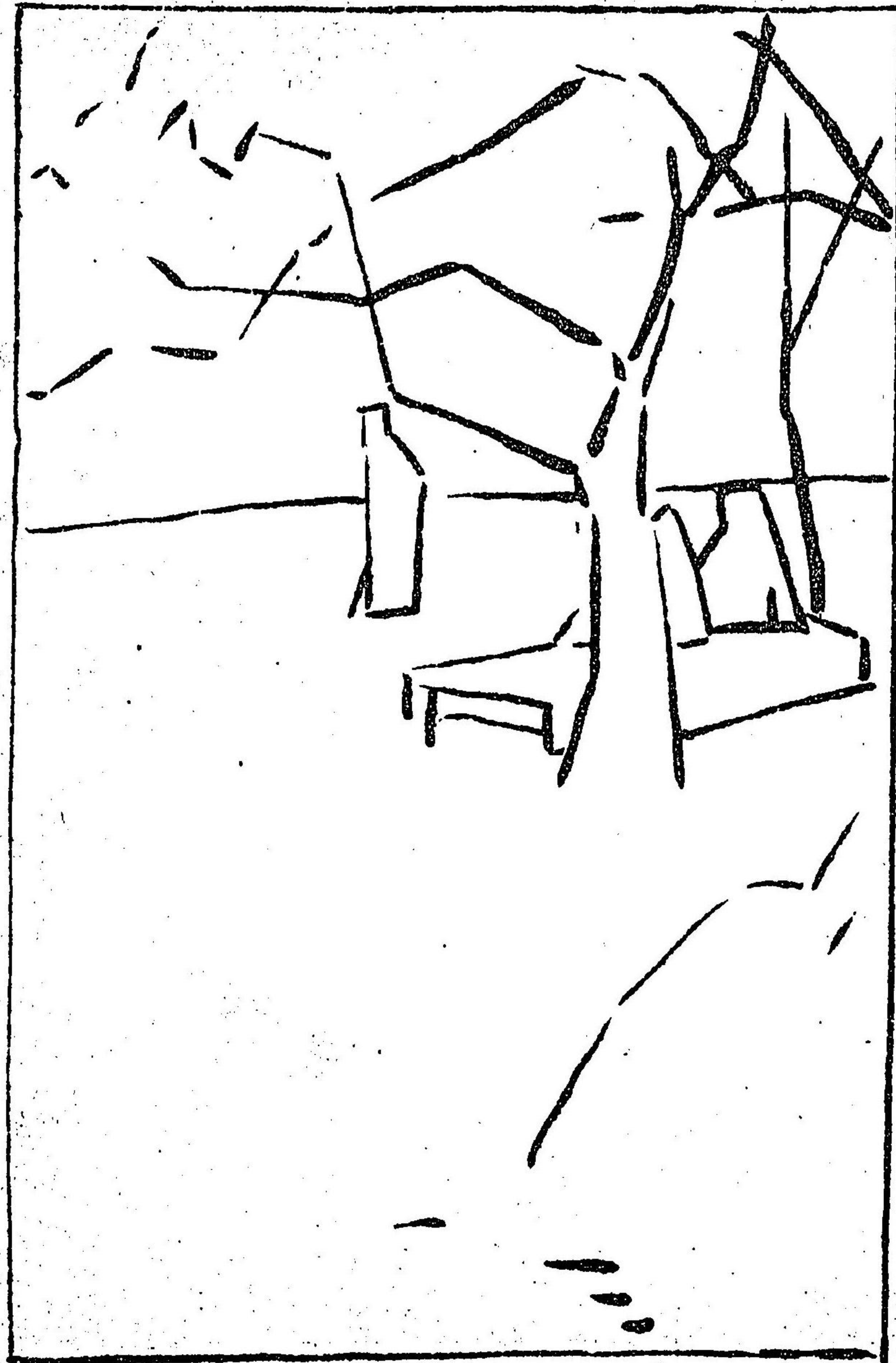
植木屋



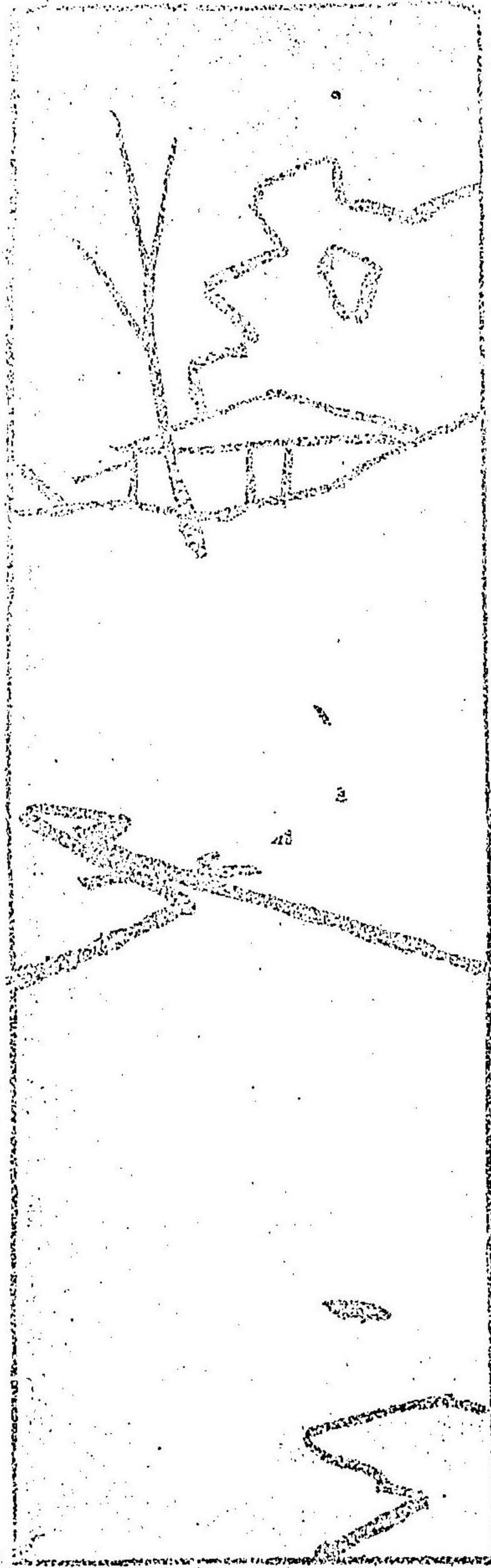
植木屋又ケツ子



花見



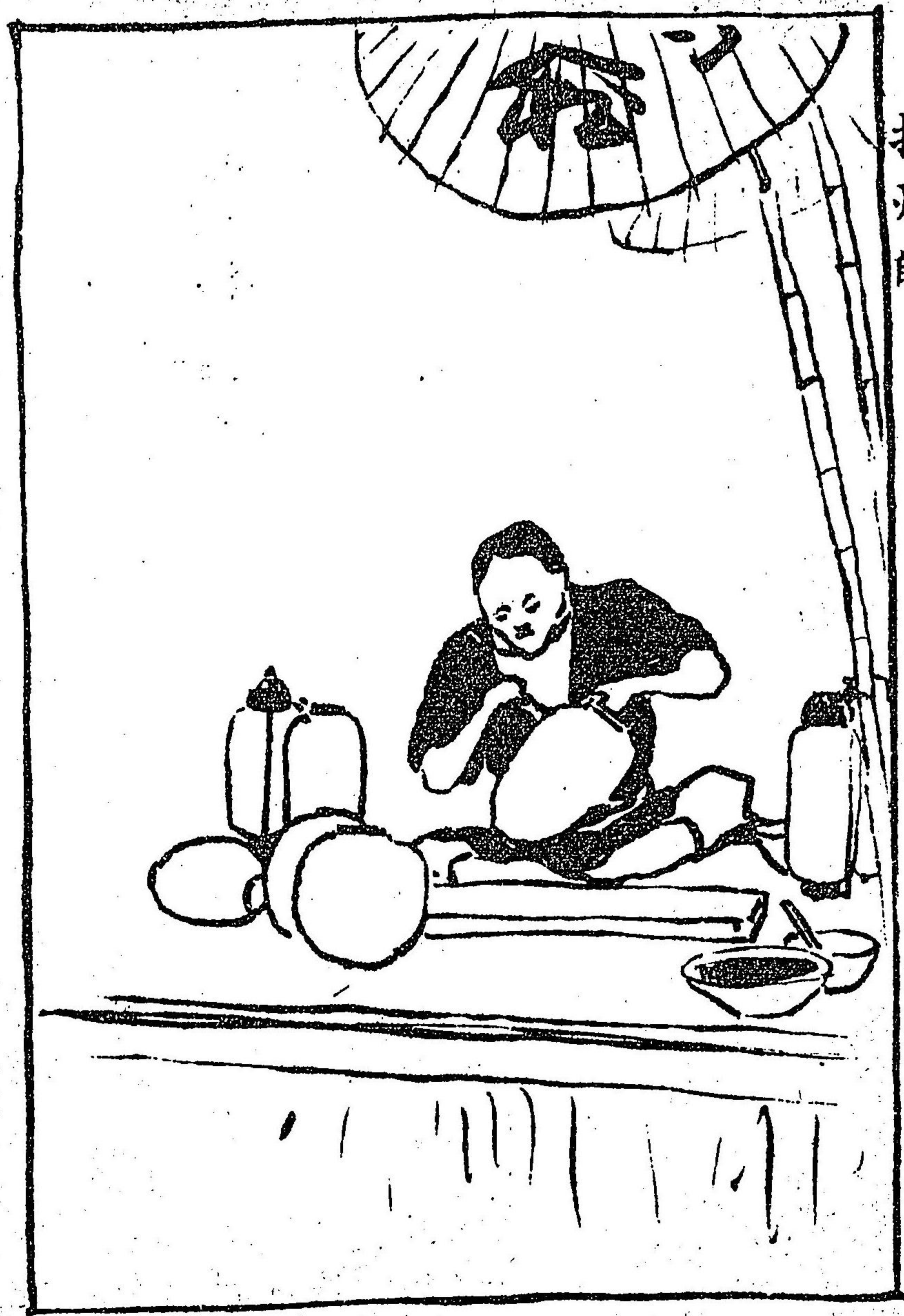
花見スケッチ



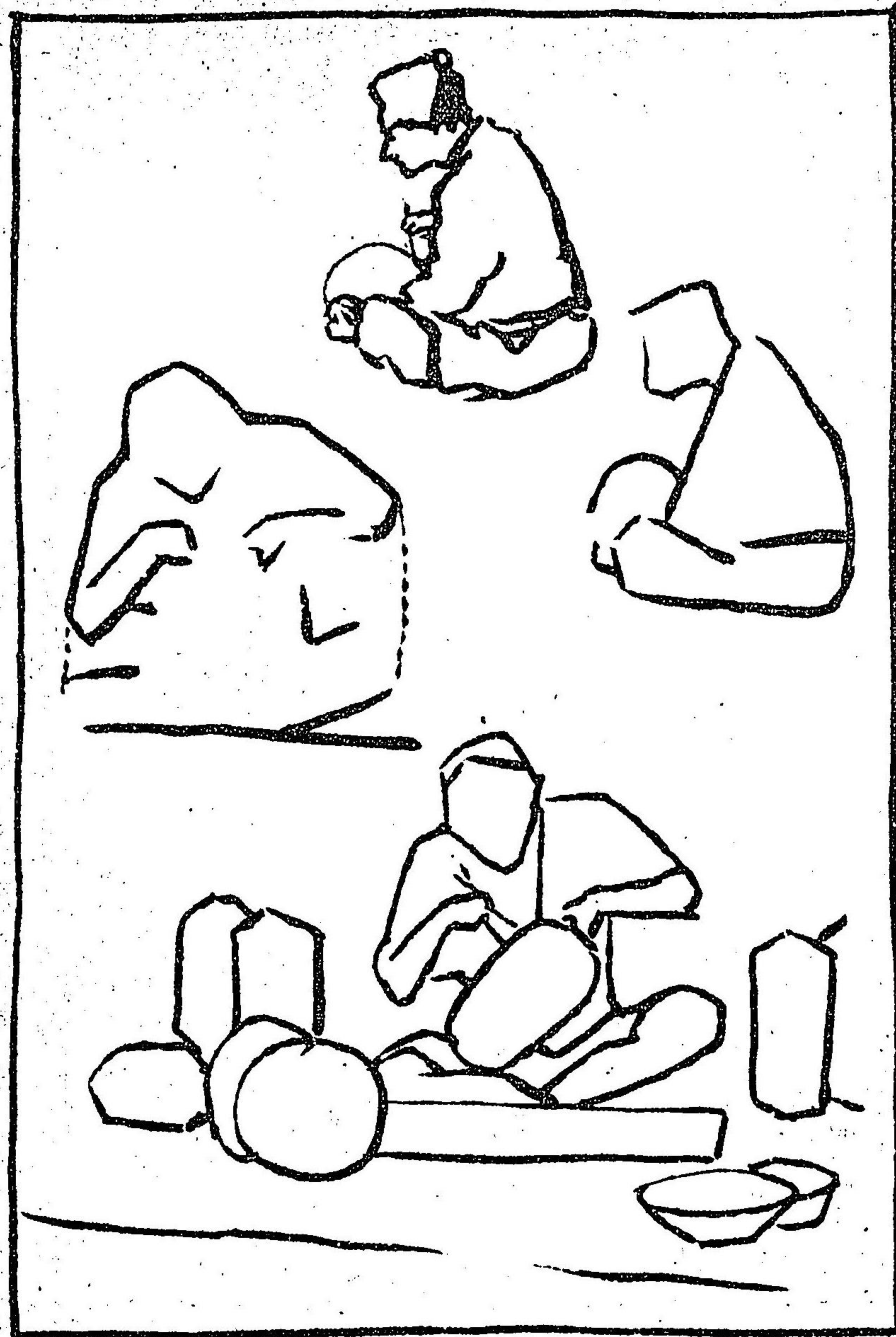
庭園



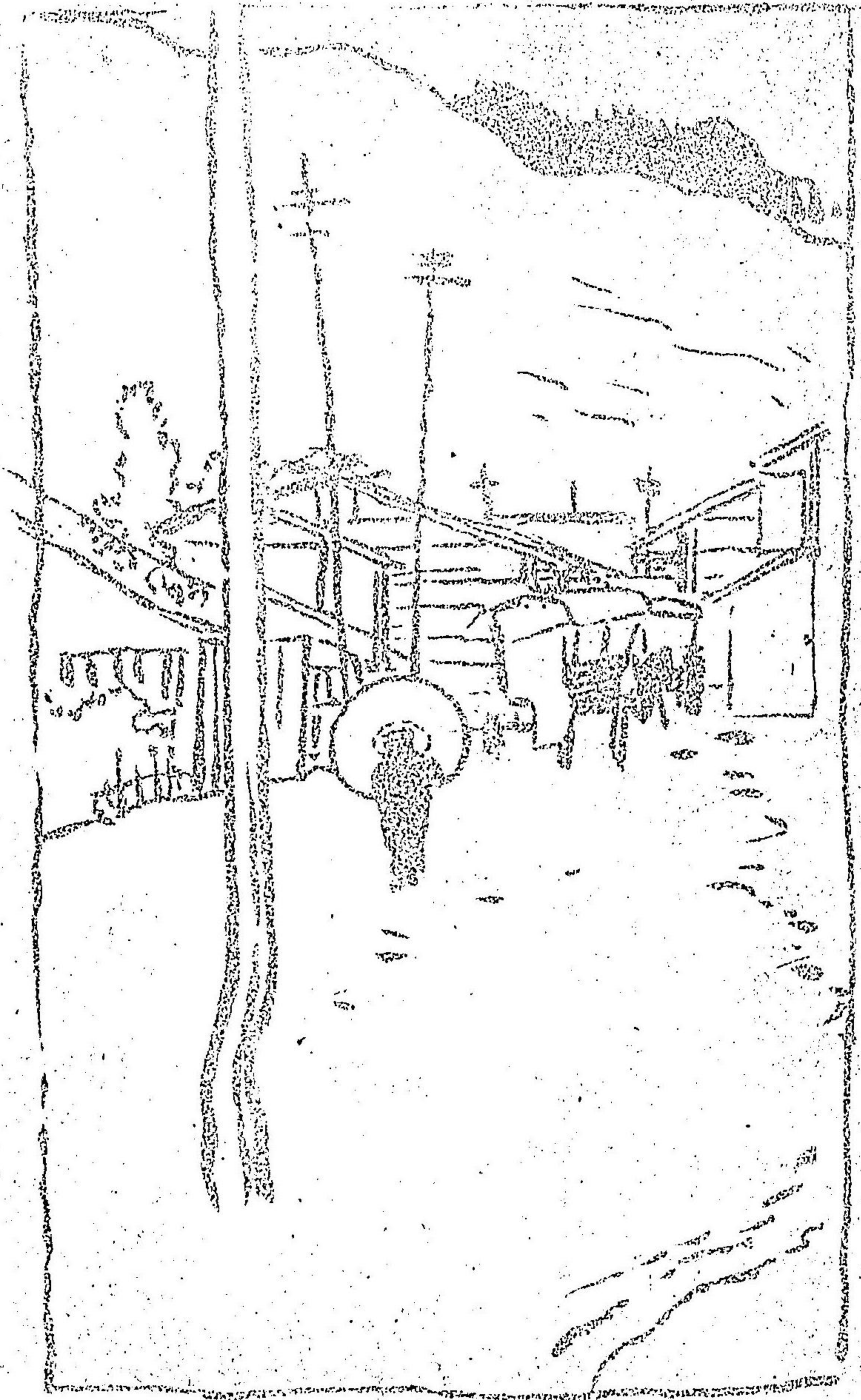
書斎の花



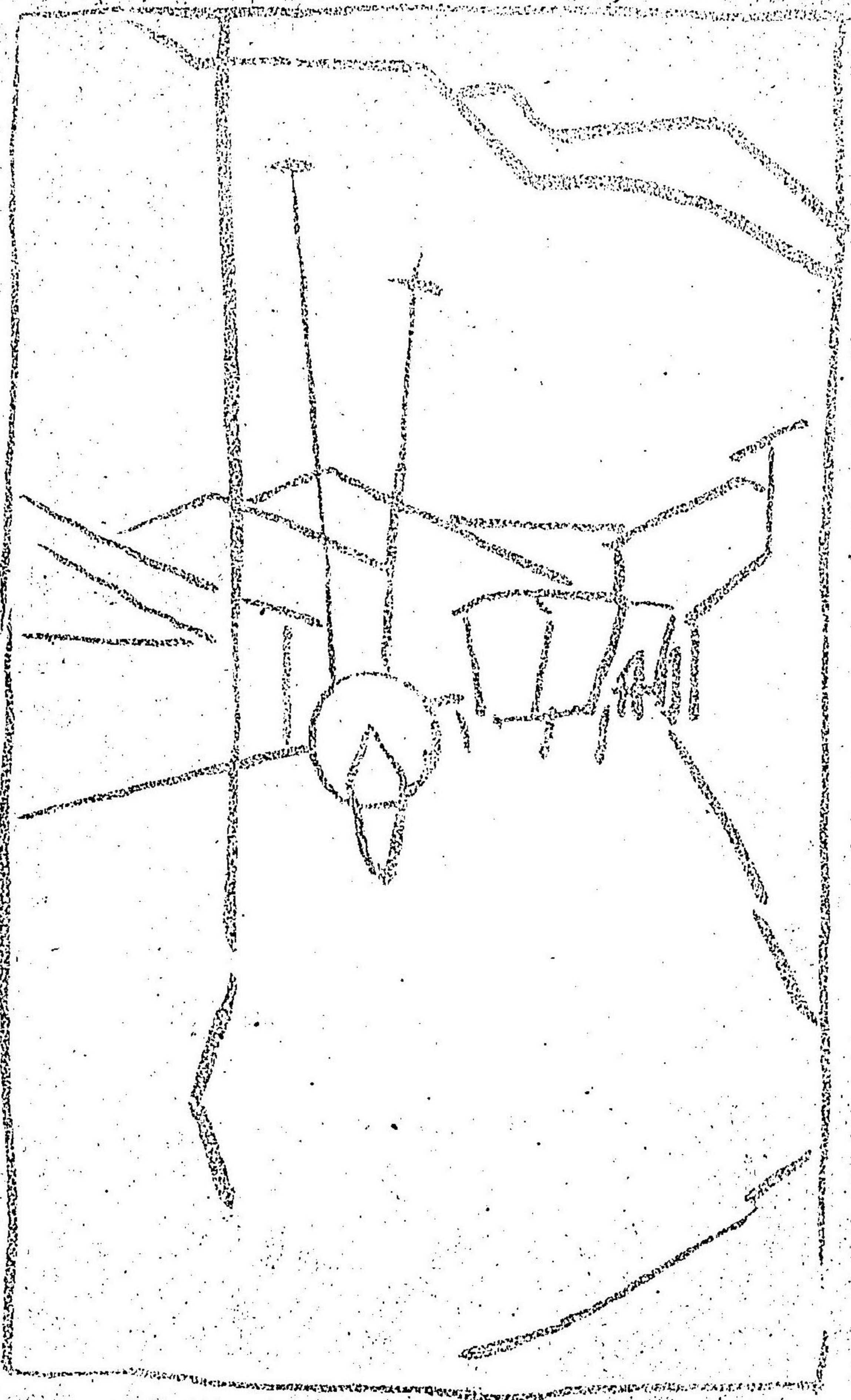
提灯師



提灯師又ケ子

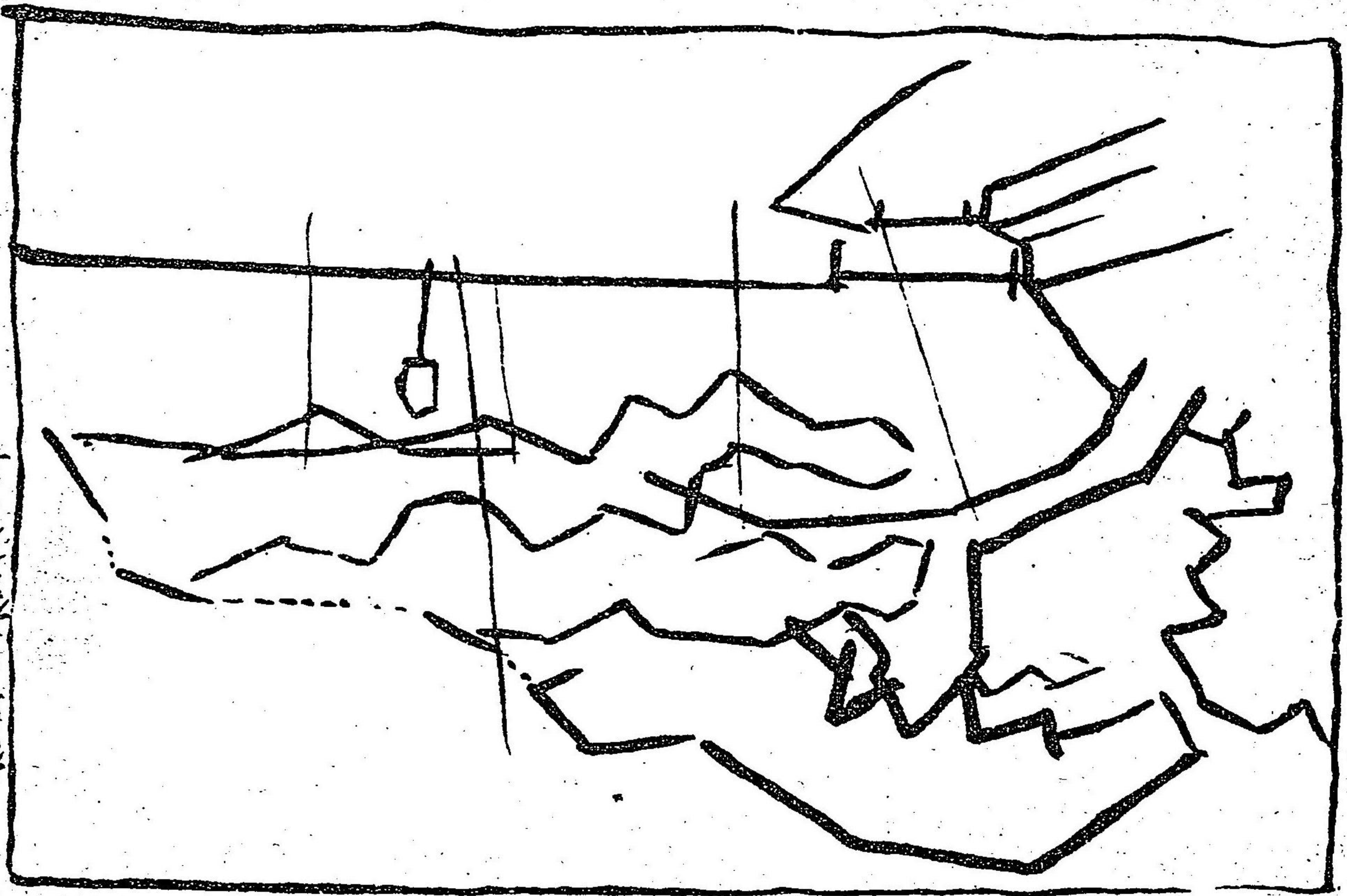


田舎の町



田舎の町スゲツチ

社頭の松



社頭の松

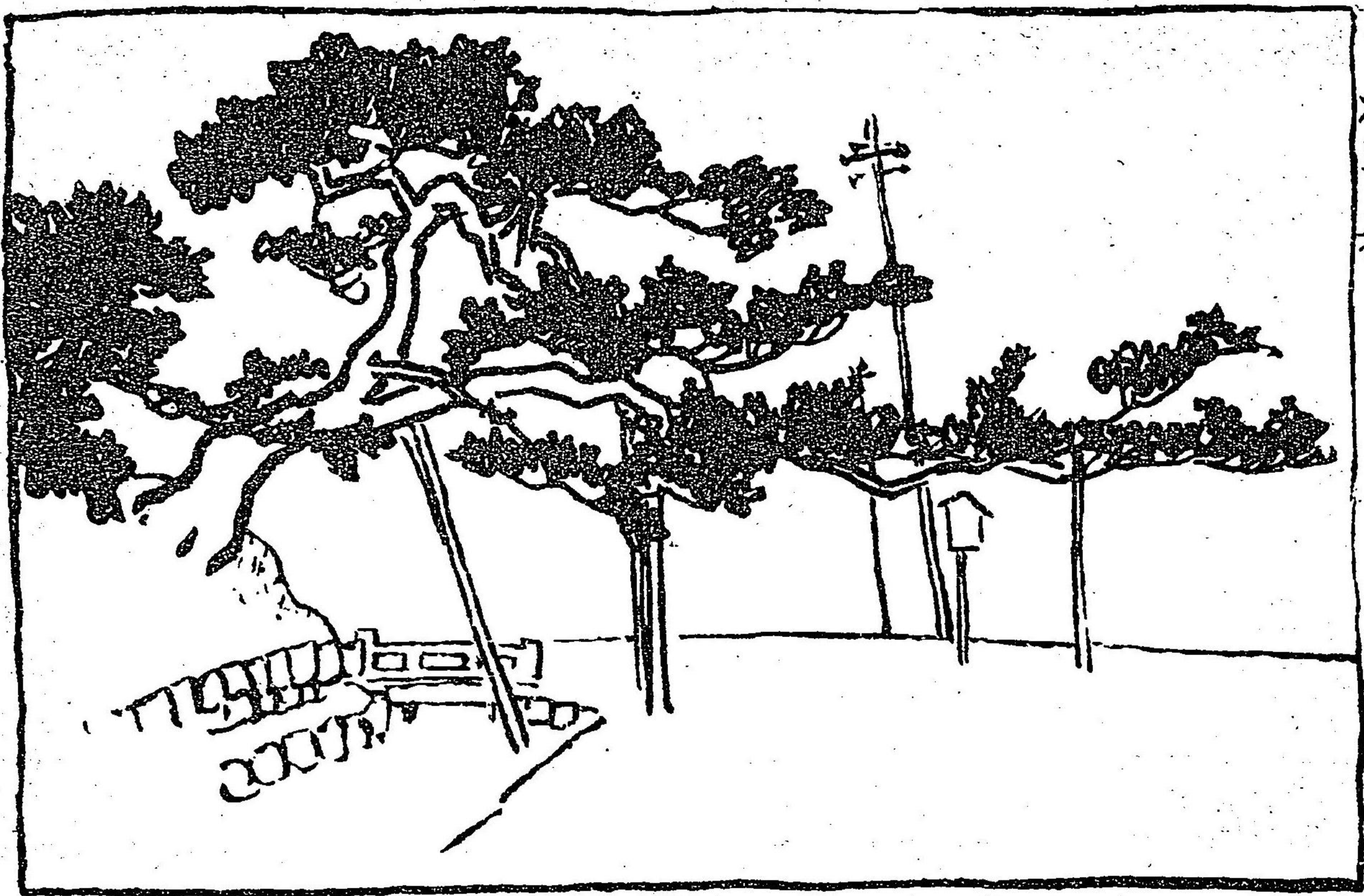


Figure 1: Plan of the site

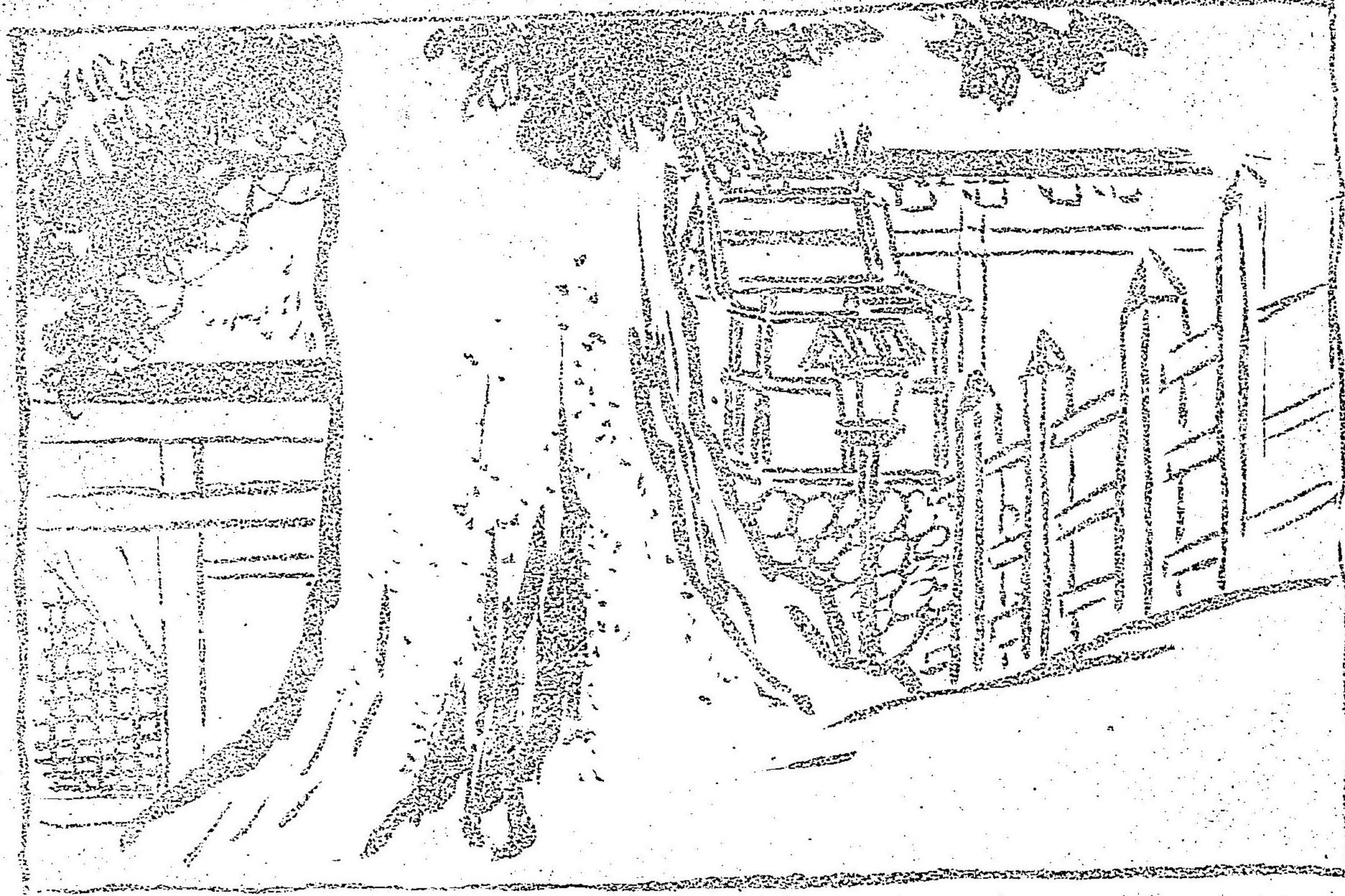
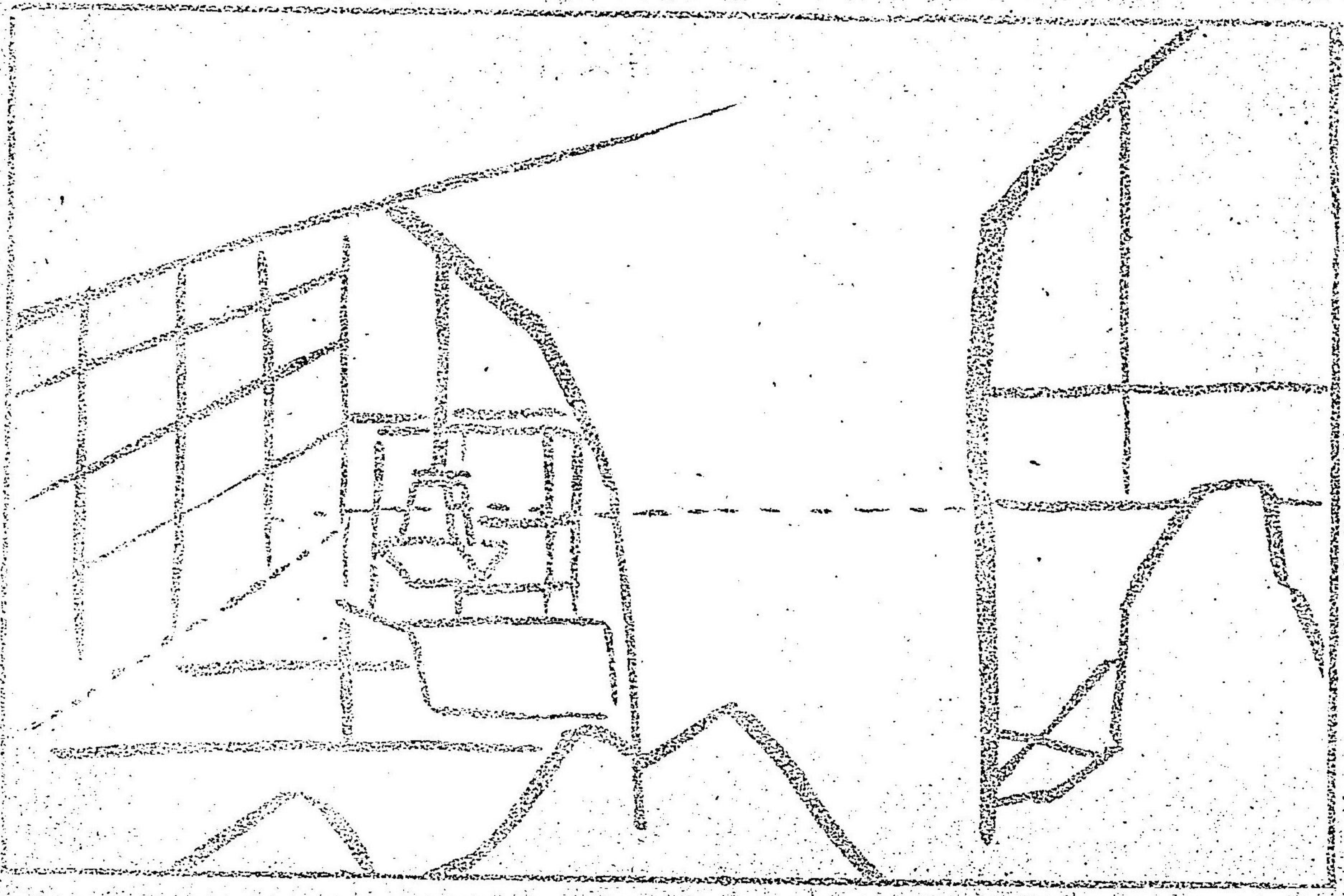
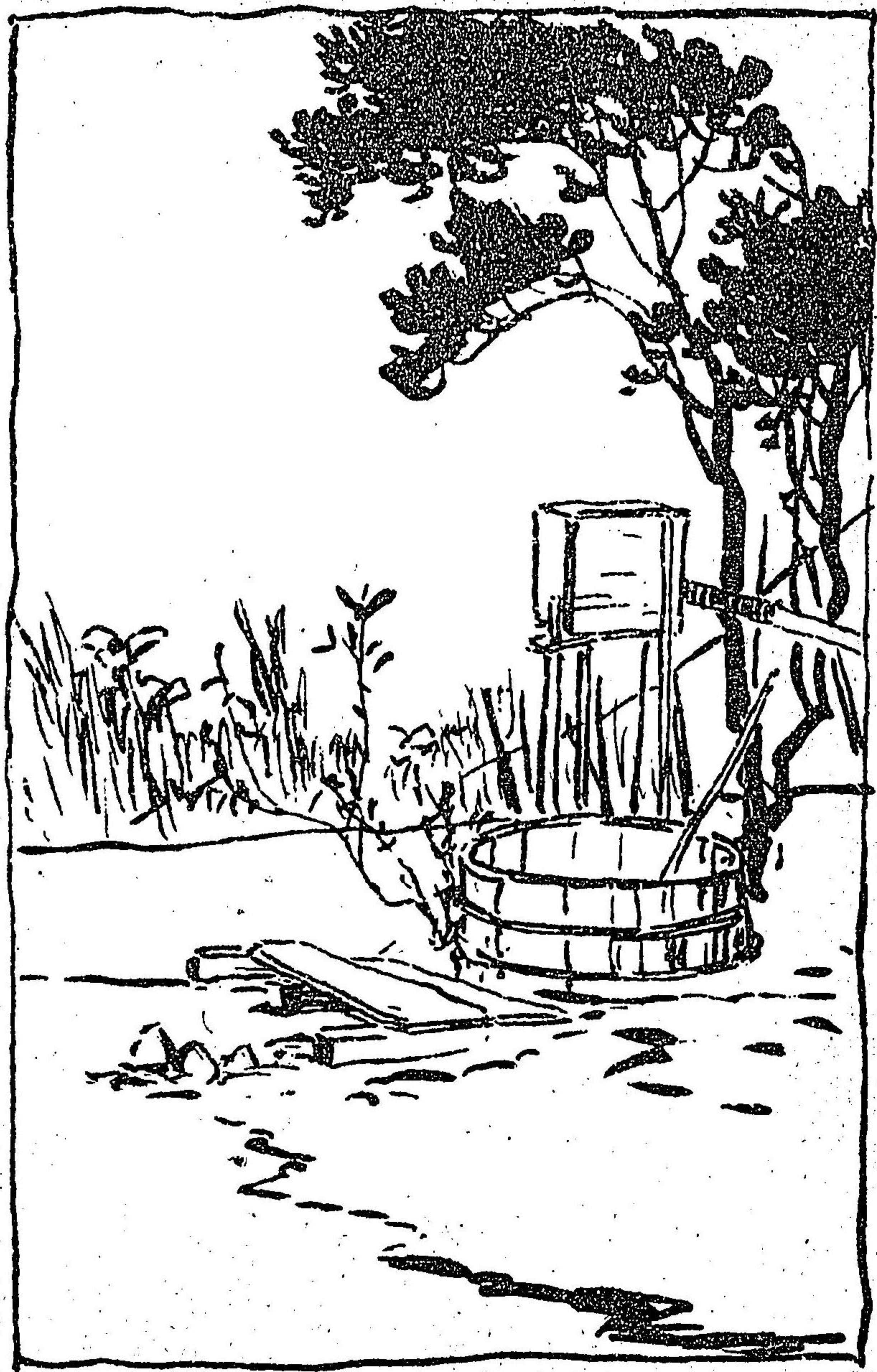
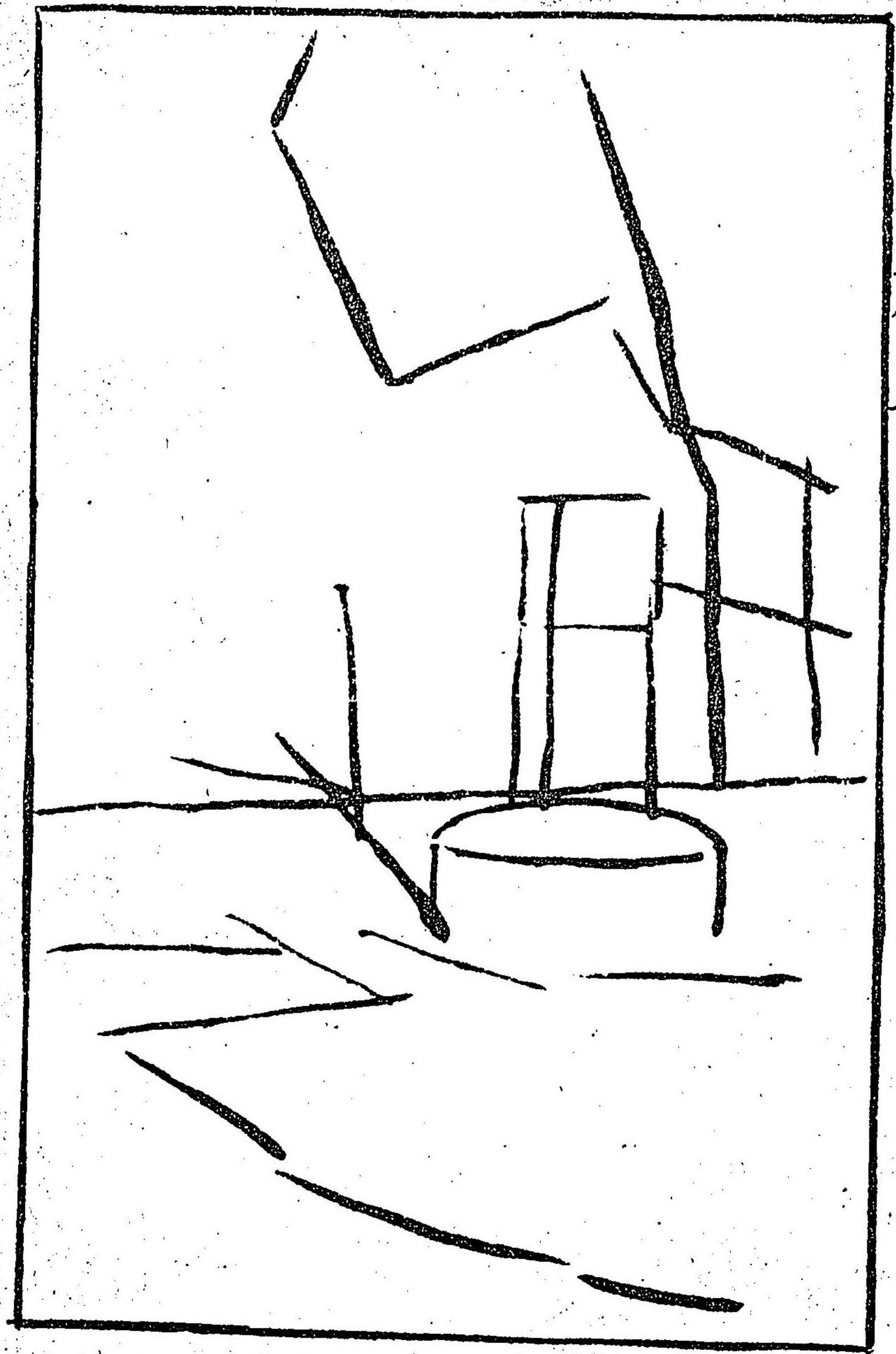


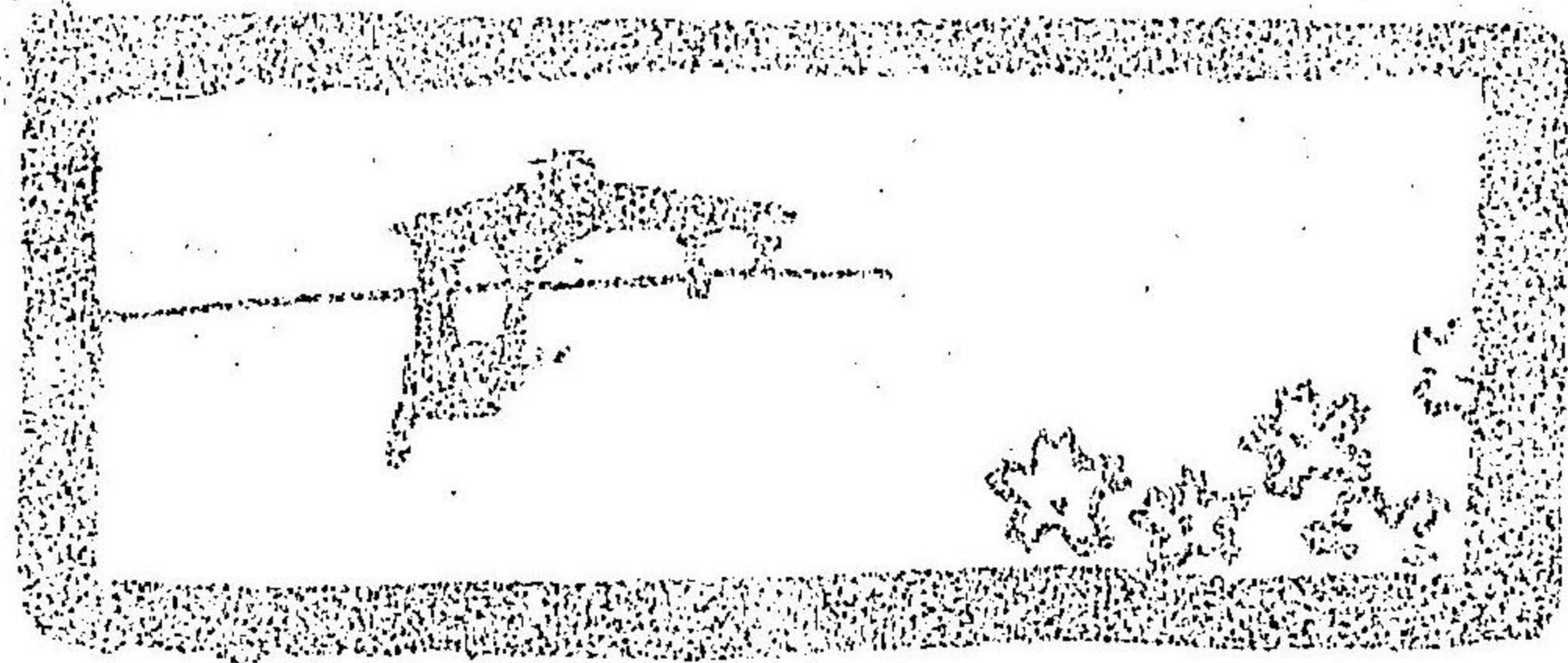
Figure 2: Plan of the site



罎



罎
スケツ子



明治四十四年九月十八日印刷
明治四十四年九月廿三日發行

定價金參拾五錢

揮毫者

伊藤龍涯

發行所

草場力

印刷者

藪崎芳次郎

印刷所

臺紙開金

發賣所

東京京橋區南銀台所
振替東京三九三四番
松邑三松堂

東京市京橋區築地三丁目五番地

東京市京橋區築地三丁目五番地

